

# 官報號外

明治四十五年三月二十日 水曜日

印 刷 局

號 外

## ○第一二八回 衆議院議事速記録第一二二號

明治四十五年三月十九日(火曜日)午後一時十三分開議

議事日程 第二十一號 明治四十五年三月十九日

午後一時開議

質問

一 對米外交ニ關スル質問(君提出)

二 國家の精神ノ根本觀念ニ關スル質問(荒川五郎君提出)

三 對支那外交問題ニ關スル質問(佐々木安五郎君提出)

四 海外輸入品防止ニ關スル質問(才賀藤吉君提出)

五 鐵政策ニ關スル質問(武藤金吉君提出)

第一 擬保附社債信託法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第一讀會

第三 鐵道又ハ船舶ト露國ノ鐵道又ハ船舶トノ貨物ノ聯絡運送ニ關スル法律案(政府提出)

第一讀會

第四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第一讀會

第五 横太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案(政府提出)

第一讀會

第六 朝鮮ニ於ケル學校職員ニシテ國庫ヨリ俸給ノ支給ヲ受ケサル文官判任以上ノ者ノ退隱料及遺族扶助料ニ關スル法律案(政府提出)

第一讀會

第七 日本勸業銀行法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第八 農工銀行法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第九 北海道拓殖銀行法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第十 藥品營業並藥品取扱規則中改正法律案(衛部憲兵提出)

第一讀會

第十一 民事上告豫納金手續廢止法律案(富島陽天君提出)

第一讀會

第十二 新聞紙法中改正法律案(松田源治君提出)

第一讀會

第十三 災害地地租特別處分法案(國井廉君外十名提出)

第一讀會

第十四 朝鮮總督府新聞紙規則改正ニ關スル建議案(關和知君外一名提出)

第一讀會

第十五 輕便鐵道速成ニ關スル建議案(矢島中君外一名提出)

第十六 銚子港修築ニ關スル建議案(吉植庄一郎君外二名提出)

第十七 北海道拓殖經營ニ關スル建議案(小橋榮太郎君提出)

第十八 明治五十年日本大博覽會開催ニ關スル建議案(高木益太郎君提出)

第十九 出 区裁判所事務復舊開始ニ關スル建議案(名村忠治君提出)

第二十 區裁判所出張所設置ニ關スル建議案(名村忠治君提出)

第二十一 中川改修工事速成ニ關スル建議案(齋藤桂次君外一名提出)

第二十二 蠶業政策ニ關スル建議案(武藤金吉君提出)

第二十三 (特別報告第六七號)酒造稅納期變更ノ請願

第二十四 (特別報告第一八一號)燈臺急設ノ請願

第二十五 (特別報告第一八二號)鐵道敷設速成ノ請願

第二十六 (特別報告第一八三號)七尾鐵道延長ノ請願

第二十七 (特別報告第一八四號)鐵道敷設ノ請願

第二十八 (特別報告第一八五號)鐵道敷設速成ノ請願

第二十九 (特別報告第一八六號)鐵道敷設速成ノ請願

第三十 (特別報告第一八七號)鐵道敷設速成ノ請願

第三十一 (特別報告第一八八號)假乘降場設置ノ請願

第三十二 (特別報告第一八九號)鐵道敷設速成ノ請願

第三十三 (特別報告第一九〇號)鐵道敷設ノ請願

第三十四 (特別報告第一九一號)輕便鐵道敷設速成ノ請願

第三十五 (特別報告第一九二號)鐵道大貨物等級中水產物等級改正並貨車準備ノ請願

第三十六 (特別報告第一九三號)多治見驛ヲ途中下車

第三十七 (特別報告第一九六號)營業稅法改正ノ請願

第三十八 (特別報告第一九七號)酒造稅法並砂糖消費稅法改正ノ請願

第三十九 (特別報告第一九八號)織物消費稅法中改正ノ請願

(委員長報告)  
(委員長報告)  
(委員長報告)  
(委員長報告)  
(委員長報告)  
(委員長報告)  
(委員長報告)  
(委員長報告)  
(委員長報告)  
(委員長報告)

○議長(大岡育造君) 諸般ノ報告ヲ致セマス

(書記朗讀)

一政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

擔保附社債信託法中改正法律案

(第四號)明治四十四年度歲入歲出總豫算追加案

(追第一號)豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件

(第一號)明治四十五年度歲入歲出總豫算追加案

(第二號)明治四十五年度歲入歲出總豫算追加案

(特第二號)明治四十五年度特別會計歲入歲出豫算追加案

(特第三號)明治四十五年度各特別會計歲入歲出豫算追加案

(第三號)明治四十五年度歲入歲出豫算追加案

(第二號)明治四十五年度歲入歲出豫算追加案

(特第二號)明治四十五年度特別會計歲入歲出豫算追加案

(特第三號)明治四十五年度各特別會計歲入歲出豫算追加案

(第三號)明治四十五年度歲入歲出豫算追加案

對米外交ニ關スル質問主意書 提出者 服部 綾雄 贊成者 武富 時敏 外八十四人

過般來北米合衆國元老院ニテ審議中ナル同院議員「アーリアム、デリンハム」ノ提出ニ係ル外國人合衆國來住法改正法律案中ニハ帝國ノ體面及利益ニ重大ノ關係ヲ有スルモノアリト認ム仍テ本員ハ左ノ件々付帝國政府ノ誠實ニシテ明確ナル答辯ヲ望ム

第一 右改正法律案ノ第三條中ニハ「歸化ニ依リテ合衆國市民トナルコト能ハサル者ハ米國入境ヲ禁止セラルヘシ」トノ一句アリ後元老院委員會ニテ之ヲ改メ右ノ「者ハ」ト「米國入境」トノ間ニ「旅行券ニ付別ニ條約協約又ハ取極ヲ以テ規定スルニ非サレハ」ノ一句ヲ挿入スルコトニ決定シダリト聞ク

帝國政府ノ得タル情報モ果シテ右ノ如クナル乎若差異アラハ右文句ニ關シテ政府ノ得タル正文如何

第二 不能歸化外國人ノ北米合衆國入境禁止ニ關スル改正案ニ對シテ北米合衆國元老院委員ノ加ヘタリト稱スル前記(第一項)修正ノ效果ニ依リ帝國臣民ノ北米合衆國入境ハ北米合衆國國法上全然自由ト爲リタルモノナリヤ

第三 北米合衆國政府ハ今日事實上日本人ヲハ不能歸化外國人ノ部類ニ編入シツツアリ帝國政府ハ北米合衆國政府ノ當該解釋ニ全ク同意ナル乎

若同意ナルニ於テハ列強國人齊シテ米國ニ在リテ歸化權ヲ享有スルニ方リ獨り日本ノミ除外セラルノ不對等ニ對シテ帝國政府ハ是迄何等カノ根本的解決ヲ試ミタルコトアリヤ若之レナシトスルモ此ノ際何等カノ根本的解決ヲ試ムルノ意思アリヤ否

第四 帝國政府ハ昨年二月日米通商新條約ヲ締結スルニ方リ同月二十七日附公文書ヲ北米合衆國政府ニ致シ以テ北米合衆國「元老院」決議ニ由レハ右條約ノ批准ニ對スル元老院ノ協賛ハ該條約カ一九〇七年二月二十日親可ノ外國人合衆國來住法ト題スル法律ノ何レノ條項ヲモ廢棄シ又ハ之ニ影響スルモノト認メラレサルヘシトノ見解ヲ批准書中ニ記入スヘキコトシテ與ヘラレタル旨ヲモ承諾シタリ即チ新條約ノ爲現行外國人合衆國來住法ノ一點一畫ヲモ動カスコトナカルヘキヲ條件シテ爰ニ始メテ新條約ヲ成立セシメタルノ觀ナキニ非ス

然ルニ今ヤ「デリンハム」提出ノ前顯新外國人來住法成立スルニ至ラハ帝國政府ハ右承諾書ノ效力ヲ當該新外國人來住法ニモ當然及ボスモノト解釋スルカ若其ノ效力カ一九〇七年二月二十日裁可ノ外國人合衆國來住法ノミニ及フモノトセハ此ノ際北米合衆國政府ヨリ之カ同意ヲ要メ來ルモ帝國政府ハ之ヲ承諾セナルノ意思アリヤ如何

第五 帝國臣民ノ渡米制限ヲ確實ナラシム目的ヲ以テ日米兩國間ニハ日下旅行券下付取締若ハ其ノ方法ニ付何等カノ協約又取極アリヤ有ラハ之カ内容如何  
若之レ無シトセハ帝國政府ハ此ノ際本件ニ關シ北米合衆國政府ヨリ現ニ何等ガノ提案ニ接シ居ラサルヤ居ラハ之ニ對スル帝國政府ノ方針如何  
右及質問候也



ノテ設立ノ趣意書ニ依レバ「其團體ノ目的トスルトコロハ軍人精神ノ鍛練ト軍事智識ノ増進トヲ圖リ併セテ會員ノ相互扶助慰藉ノ方法ヲ講セントス」トアリマス、此他ニハ何等ノ目的ヲ有シテ居ラヌノデアル、然ルニ實際ハ如何ニナツテ居ルカト見マズレ、絶對的ニ政治上ニ干涉セシメザル目的ヲ以テ創立サレタルモノ、如クニナツテ居ル、尙寺内會長ノ宣言サレタル所謂宣言書ニ徵スルニ、斯様ナコトヲ宣言サレテ居リマス「第一本會會員ニシテ此團結力ヲ利用シ政治ニ干與スル如キコトアラムカ啻ニ軍人會設立ノ本旨ニ悖戾スルノミナラス弊害ノ及フトコロ實ニ測リ知ラサルモノ、如クニナツテ居ル、斯様ナコトヲ宣告サレテアリマスガ、如何ニモ軍人會ト云フ團結カラ其儘政治ニ利用スルト云フガ如キコトガアツタナラバ、多少ノ弊害ハ免レヌモノト思フ、然ルニ實際地方ニ於テ此在郷軍人會員ニシテ個人的ニ政治ニ干與スルコトガアリマシテモ、之ニ對シテ拘束ヲ加ヘツ、アルコトハ事實デアリマス、人權ヲ拘束ヘルモ亦甚シキモノト言ハザルヲ得ヌノデアル、若シ在郷軍人會員ニシテ政治ニ干與スルコトが假ニ惡シキコト、致シマシテモ、會長タル寺内君ノ行動ニ比スレバ、遙ニ穩健ノ行動ト言ハナケレバナラヌ、何故ナレバ並會員ニシテスラ政治ニ干與スルコトが惡ルイト云フナラバ、況ヤ是が會長タルベキ寺内君ノ如キハヨリ以上、惡シキ行動ト言ハナケレバナラヌノデアル、然ルニ寺内會長ハ現ニ朝鮮總督トシテ政治ニ干與スルドコロカ全ク政治ノ責任者トナツテ居ルノデアルノミナラズ、時ニ貴族院ヲ操縱シ、時ニ或ハ衆議院ヲ操縱スルガ如キ行動ヲナサレテ居ルト云フコトハ、是亦掩フベカラザル事實デアリマス、是ニ由テ之ヲ觀レバ在郷軍人會員ヲ遇スルコト甚ダ酷ニシテ、自己ヲ許スニ甚ダ寛ナルモノト申サナケレバナリマセヌ、是レ人ヲ咎ムニ急ニシテ、己レヲ許スニ頗ル寛大ナル勝手氣儘ナ行動ト斷言セザルヲ託シマセヌケレドモ現役後豫備若クハ後備三屬シタル以上ハ普通人民ト同ク民間ニアリテ、政治ノ利害得失ヲ均シク受ケナケレバナラヌモノデアリマス、サレバ隨ツテ普通人民ト同ク政治ニ干與スルノ權利ヲ有スルモノナルコトハ我欽定憲法ノ許ストコロデアツテ在郷軍人會三屬スル會員ノ均シク有スルトコロノ憲法上既得ノ權利デアリマス、然ルニ在郷軍人會ニ付テ此憲法上ニ於ケル既得ノ權利ヲ拘束若クハ壓迫スルガ如キコトハ、明カニレドモ其經歷ニ微シ、其系統ヨリ見レバ、世ニ所謂官僚派非立憲派ニ屬セラレテ居ルシテ、政黨内閣ト呼バレ、責任内閣ト目セラレテ居ルノデアリマスカラ、職三陸軍大臣ノ任ニ在ラル、石本君ハ必ズヤ、前内閣同様ナ非立憲の方針ハ取ラヌモノト思フ、然レドモ其經歷ニ微シ、其系統ヨリ見レバ、世ニ所謂官僚派非立憲派ニ屬セラレテ居ルノデアルカラ、或ハ前内閣同様ノ御方針ヲ以テ在郷軍人會員ヲ遇シ若クハ取締ヲシテ居ルノテハナカラウカト疑ハザルヲ得ヌノデアル、若シ本員ノ疑アトコロラシテ眞ナラシメバ、國務大臣ノ身トシテ憲法ノ規定ニ反シ、國民既得ノ公權ヲ拘束シ躁動シテ顧ルトコロ閣總理大臣ヨリ御答辯ヲ得タイト思フコトハ在郷軍人會ノ如ク事實ニ於テ憲法違反ヲ知ラザルモノト言ハナケレバナリマセヌ、果シテ前内閣同様此在郷軍人會ニ對シテ、絕對的ニ會員ヲシテ政治ニ干與セシメザル御方針ヲ繼續スルト云フノデアルカ、將タ改ムルコト、思フ、之ニ對シテ注意ヲ加ヘ、若クハ其非立憲的行動ヲシテ根本的ニラ休メ、トコロアラントスルノデアルカ、此點ヲ明カニ御答辯アリキモノデアリマス、終ニ臨シテ内閣總理大臣ヨリ御答辯ヲ得タイト思フコトハ在郷軍人會ノ如ク事實ニ於テ憲法違反ノ行動ヲ取リソ、アルモノガアル以上ハ、立憲國ノ總理大臣トシテ決シテ看過スベカラザニハ何等ノ目的ヲ有シテ居ラヌノデアル、然ルニ實際ハ如何ニナツテ居ルカト見マズレ、絶對的ニ會員ヲシテ政治ニ干與セシメザル御方針ヲ以テ在郷軍人會ト同様前内閣時代ニ於テ創立サレマシタ地方方青青年團ニ關スル件ニ付テ内務大臣ヨリ御答辯アランコトヲ希望致シマス、ソレハ別義モアリマセヌガ、是モ在郷軍人會ト同様前内閣時代ニ於テ創立サレマシタ地方方青

○議長(大岡育造君)　是ヨリ質問ヲ許可シマス、提出者服部綾雄君  
○服部綾雄君　私ハ演説ヲ成ベク略シテ質問ノ數ヲ多クシタト思ウテ居ルノデアリマス  
スルが、答辯スル方がナニ見エマセヌカラ……  
○議長(大岡育造君)　御延バシニナリマスカ  
○服部綾雄君　私ハ御呼出ヲ願ヒマズ  
○議長(大岡育造君)　豫テ通知ガシテアリマスカラ、其中ニ出テ來ルト思ヒマス——  
年團三關スル指導方針ニ關シテアリマス、地方青年團ニ加ハリ居る青年ヲシテ政治ニ  
干與セシメズ、若クハ成ベク關係ヲ有セシメザルヤウノ方針ヲ取來タルコトハ在郷軍人  
會員ヲシテサウセシメタルト同一筆法ニナシテ居リマスル、是亦謂ハレナキコトニシテ、苟モ  
立憲國ノ青年ヲシテ政治ニ干與セシメズト云フガ如キコトハ、恰モ水中ニアル魚ニ命ジテ  
水ヲ飲ム勿レト云フト何ノ擇ムトコロガナイノデアリマス、既ニ立憲政治ヲ布カレタ以上  
ハ、其國ニ在ル國民ハ其年齢ノ如何ニ拘ラズ生レナガラニシテ立憲國民ニアル、生レナガラ  
ニシテ立憲國民ニアルモノガ、立憲國民的ノ行動ヲ爲シテ惡ルイト云フコトハ實ニ道理ナ  
キコトニシテ、寧ロ噴飯ニ堪ヘサルノテアリマス、殊ニ青年ナルモノハ元氣旺盛意氣衝天  
ノ時代ニアルモノナルヲ以テ、此立憲政治ヲシテ益々發達セシメントスルナラバ寧ロ、此青  
年ヲシテ立憲的ノ智識ヲ應用セシメ隨ツテ立憲的行動ヲ活潑ナラシムルノ方針ヲ取ルベ  
キヲ相當トルノデアル、然ルニ實際ニ就テ之ヲ徵スルニ、啻ニ其智識ノ應用ヲ束縛スル  
ノミナラズ、隨ツテ其行動ヲ嚴重ニ拘束シ掣肘シテ居ルノデアル、是レ取リモ直サズ元氣  
旺盛ナル立憲國ノ青年ニ對シテ去勢術ヲ施スモノト云バザルヲ得ヌノデアル、凡ソ此去  
勢術ナルモノハ牛馬ニ施スノ術ニシテ決シテ人類ニ施スベキ術デハナイ、然ルニ牛馬ニ施  
スノ術ヲ以テ之ヲ我か敬愛ベキ青年一般ニ施スト云フコトハ、取リモ直サズ立憲國ノ  
青年ヲ牛馬視スルモノト云ハザルヲ得ヌノデアル、新聞ノ名ハ忘レマシタカ、十日バカリ  
前ノ某新聞ニ依シテ散見スルニ某地方ノ青年會ノ役員ニナシテ居ル一青年ガ縣會議  
員ノ選舉ニ奔走シ、政黨、政派ノ間ニ關係ヲ結シダト云フ廉ヲ以テ、遂ニ其役員ヲ免ゼ  
テレタコトが掲ゲラレテアリマス、此ノ如キコトハ全國到處アルコトアツテ、獨リ新聞所  
載ノ某地ニ限ラレテ居ルノデアリマセス、而シテ此青年團ナルモノ、役員組織ナルモノハ  
動モスレバ團員ヲ拘束シ、若クバ製肘スルニ便利ニ出來チ居ル、如何トナレバ到處ノ地  
方青年團ナルモノ、其會長ナルモノハ其郡ノ郡長ナル故ニ、此郡長ナル者ハ青年團  
ナルモノ、本旨ヲ誤解シ、又一方ニ於テハ總テ自己ノ命令ニ從順ナラシメントシテ、動モ  
スレバ青年團ノ設立ノ目的並ニ其權限ヲ超エテ、會長ト云フ地位ヲ利用シテ、此青年  
ヲ束縛セントスルノデアル、殊ニ驚クベキハ全國青年團中ニ模範青年團ト稱スルモノガア  
ル、此模範青年團ト稱スルモノハ如何ナルモノデアルカト見テ兒ルノニ、模範ノ第一義ハ  
能ク郡長ノ命令ヲ遵奉スル者ニ限ラレテ居ル、恰モ納稅期限ヲ誤ラザル町村ニアレバ、  
其他ノコトハ免モ角モ模範町村ト云フ名譽ヲ與ヘラル、ト同ニナシテ居リマス、是レ取  
リモ直サズ青年團ナルモノヲ自己ニ使用セントスル不法ノ行爲テアツテ、立憲國ニアルマジ  
キ行動ト申サナケレバナリマセヌ、如何ニモ團體トシテ政治ニ干與スルト云フコトハ多少  
ノ弊害アルヲ免レマセヌケレドモ、縱令團體員ナル個人トシテ政治ニ干與スルコトハ、寧ロ  
立憲國民ノ進ニテ努力ベキコトニシテ、決シテ之ニ對シテ何者モ拘束ヲ加フル能ハザルモ  
ノデアリマス、現政府ハ果シテ此事實ヲ認メザルカ、若シ認ムルモノトスレバ此弊害ヲ改  
メ、若クハ之ヲ禁止スルノ御意志ナキヤ否ヤ、實ニ立憲國ノ消長ニ關スル問題ニシテ、苟モ  
又人權問題トシテモ容易ナラザル大問題ナルヲ以テ、特ニ御明答アランコトヲ希望スル  
ノデアル

○議長(大岡育造君) 是ヨリ質問ヲ許可シマス、提出者服部綾雄君  
○服部綾雄君 私ハ演説ヲ成ベク略シテ質問ノ數ヲ多クシタイト思ウテ居ルノデアリマ  
スルガ、答辯スル方がナイ見エマセヌカラ……  
○議長(大岡育造君) 御延バシニナリマスカ  
○服部綾雄君 私ハ御呼出ヲ願ヒマス  
○議長(大岡育造君) 豫テ通知ガシテアリマスカラ、其中ニ出テ來ルト思ヒマス——

次ノ質問ニ移リマス、荒川五郎君——尙アリマセヌカラ次ノ質問ニ移リマス、佐々木安五郎君

(荒川五郎君)

（佐々木安五郎君登壇）

○議長（大岡育造君）佐々木安五郎君ニ許シマシタ

○佐々木安五郎君 謙譲シテモ宜シ

○○荒川五郎君 御譲リ下サイ、一十分バカリダ簡単ニスル

○○佐々木安五郎君 緩リヤリ給ヘ

○議長（大岡育造君）ソレデハ荒川五郎君ニ許シマス

（佐々木安五郎君降壇）

○荒川五郎君

諸君、私ハ國家的神精神ノ根本觀念ニ關スル質問ヲ提出致シマシタ、

全體此事タル彼ノ南北朝問題ニモ勝ル重大ナ事柄ア、政府苟モ之ヲ是認シナイ以上

ハ、一日モ看過スルコトノ出來ナイ譯アルガ故ニ、實ハ先々來差控ヘテ注意シテ、政

府ノ處置如何ヲ待ツテ居ツタノデ、成ルベク質問ナド避ケタイト思ウテ居ツタノデアリマス、

併シ事今日ニ至リ已ムナク、已ムナク此處ニ質問セナクテハナラヌコトニナリマシタノハ、

吳々モ不本意ニ思フノデアリマス、諸君、此事ハ昨年ノ秋我

大元帥陛下が九州ノ野

ニ行幸アラセラル、折柄、門司驛デ畏多クモ御召列車が脱線致シタ

ソレニ原因致スノ

テ、氣概ニ富ミ、職務ニ熱誠ナル清水正次郎君、清水正次郎君ハ當時構内主任ノ

重任ニ當リ、ドウカ何事モナク御無事ニ御通過アラセラル、ヤウニ、寸毫モ故障失態等

ノナイヤウニト、天下萬民ト俱ニ殊ニ當局關係ノ人ミト共ニ、一層深ク心ニ祈ツテ居ツタ

アリマセウ、然ルニ不幸意外ニモ斯ル故障ヲ生ジ、畏多クモ

至尊ヲシテ一時間餘

リニ瓦ツテ御野立ヲ餘儀ナクシ參ラセ奉ツタニ付キマシテハ重大ナル責任ノ自覺ヨリ恐懼

ノ念ニ堪ヘズ、遂ニ三十五歳ヲ一期トシテ、敢ナク山陽線上其身ヲ果シタノデアリマス、

其義烈ノ赤誠ハ天下ノ人ヲシテ感動セシメ、苟モ常識ヲ備ヘ、國家心アル者ハ皆均シ

ク清水君ノ死ヲ悲ミ、清水君ノ心事、氣節ヲ壯ト致シタノデ、是ガ天下ノ人心ヲ刺激

シ、責任自覺ノ觀念ノ上ニ教訓ヲ與ヘタコトハ、實ニ多大アルト思フノデアリマス、此

事畏レ多クモ天聴ニ達シマスルヤ、辱ナクモ弔慰料ヲ遺族ニ下賜セラレマシテ、孰レモ聖

旨ノ有難キニ感泣シ、是ガ表彰ノ碑ヲ立テントシツ、アル者モアル、然ルニ意外ニモ九

州大學總長山川健次郎君——山川健次郎君ハ此清水君ノ行為ヲ非難シ、表彰

ノ碑ヲ建テルコトヲ非難シ「門司驛員自殺問題」下題シテ之ヲ十二月二日ノ福岡日々

新聞紙上ニ發表セラレテ居リマス、今ソレヲ見ルニ初メニハ小倉市デ教育會ノ席上デ

「自殺論」ト云フ演説ヲシタコトヲ載セテ、是ハ從來ヨリノ意見デアルコトヲ示シ

テ、彼ノ行為ヲ稱讃シ、或ハ碑ヲ立て、之ヲ表彰スルナド、云フヤウナコトニ至ツテハド

ウアズテモ同意スル譯ニハ行カナイノデス」ト斯ウアリマス、諸君、何ト畏多イ言葉ア

スベキデアリマスガ、彼ノ事件が果シテ生命ヲ捨テネハナラヌ程ノ重大ナコトデアツタカドウ

カ、陛下カラ祭粢料ヲ賜シテ御趣意ノ如何ハ固ヨリ彼此ト忖度ヘルモ畏多イコトデス

ガ、彼ノ行為ヲ稱讃シ、或ハ碑ヲ立て、之ヲ表彰スルナド、云フヤウナコトニ至ツテハド

ウアズテモ同意スル譯ニハ行カナイノデス」ト斯ウアリマス、諸君、何ト畏多イ言葉ア

スベキデアリマスガ、彼ノ事件が果シテ生命ヲ捨テネハナラヌ程ノ重大ナコトデアツタカドウ

カ、陛下カラ祭粢料ヲ賜シテ御趣意ノ如何ハ固ヨリ彼此ト忖度ヘルモ畏多イコトデス

ガ、彼ノ行為ヲ稱讃シ、或ハ碑ヲ立て、之ヲ表彰スルナド、云フヤウナコトニ至ツテハド

ウアズテモ同意スル譯ニハ行カナイノデス」ト斯ウアリマス、諸君、何ト畏多イ言葉ア

スベキデアリマスガ、身ハ大學總長ト云フ高等學府ノ長トシテ、博士ノ學位一等ノ高官ニア

ル山川君タル者、若シ意見ガアリマスレバ、相當方法モアリマセウニ然ルニ之ヲ公ケニ

新聞ニ發表シ、祭粢料御下賜ヲ云々スルニ至ツテハ唯ノヲ官紀ノ上ヨリ云フモ、實ニ不

謹慎ノ至リテアリマセカ、又諸君、清水君ノ行為ノ如キハ是ハ情ノ問題、自覺ノ問題

テ、決シテ理窟ノ問題デハナイ、生命ヲ斷タネハナラヌ程ノ重大ナコトデアツタカドウ

カ、陛下カラ祭粢料ヲ賜シテ御趣意ノ如何ハ固ヨリ彼此ト忖度ヘルモ畏多イコトデス

ガ、彼ノ行為ヲ稱讃シ、或ハ碑ヲ立て、之ヲ表彰スルナド、云フヤウナコトニ至ツテハド

ウアズテモ同意スル譯ニハ行カナイノデス」ト斯ウアリマス、諸君、何ト畏多イ言葉ア

スベキデアリマスガ、身ハ大學總長ト云フ高等學府ノ長トシテ、博士ノ學位一等ノ高官ニア

ル山川君タル者、若シ意見ガアリマスレバ、相當方法モアリマセウニ然ルニ之ヲ公ケニ

新聞ニ發表シ、祭粢料御下賜ヲ云々スルニ至ツテハ唯ノヲ官紀ノ上ヨリ云フモ、實ニ不

マヌ、活キテハ居ラレヌト感ズル者モアリマセウ、又サウマデ感シナ一人モアリマセウ、是ハ其人ノ修養ト自覺心ニ依ルコトデ、斯様ナ場合ニハ必ズ死スベキモノ、又死スベカラザルモノト云フが如キ理窟ハナシ、人ニ個々ノ責任ノ觀念ニ依ルコトデアル、清水君ハ其書置ヲ讀ンデ見テモ「十日 大元帥陛下演習地行幸ノ際門司機橋御休憩中門司驛ニテ御召列車ヲ下リ線ニ入レ換フルニ當リ不幸意外ニモ脱線シソレガタメ復舊工事ニ時間ヲ費シ御豫定以上一時間ニ亘リテ御休憩アラセラ奉リタルコト實ニ恐懼ノ至リニ堪ヘズ生涯ノ過チ是ヨリ大ナルハナシ一死焉ゾ其大過ヲ償フニ足ランヤ而モ衷心其罪過ノ大ナルニ想ヒ到レバ恐懼自ラ其生命ヲ持続スル能ハズ茲ニ死ヲ以テ萬一二償ヒ奉ラントス」云々トアリマス、斯様ニ重大ナ責任ヲ自覺シタラバコソ、其生命ヲ以テ清水君ハ其責任ヲ帶ビタノデアル、感シタ其感シノ深サ、自覺シタ其自覺ノ程度ハ、當面其人ヲナクテハ分ラナイ譯デハアリマセヌカ、諸君、ソレカラ山川君ハ其次ニ徳川時代ノ御鷹匠ノ例ヲ引イテ、斯ウニウテ居ラレマス「徳川初世ノコトニト思ヒマスか、當時ノコトニテ將軍ノ御鷹ト言ヘバ非常ニ大切ニサレタモノノテ、從ツテ鷹匠ナドモナカく威張ツテ「御鷹」ニ會ウテハ萬民皆之ニ道ヲ譲ルノ勢シタ、其頃旗本侍ノ久世三四郎デアツタノカドウカマスガ「御鷹ガ何ダ、我ハ御人ダ、御鷹ト御人トドチラガ大切ダ」ト云ツタ「云々コトガアリマス、鳳車ノ遲滞ハ固ヨリ恐懼ノコトニテハアルガ、其申譯ノタメトシテ陛下ノ赤子タリ大切ナ「御人」ヲ殺スト云フコトハ果シテ陛下ノ叢處ニ副ツタコトニアツカドウカ「ト說イテアリマス、畏多クモ至尊ヲシテ一時間餘リニ亘ツテ機橋ノ上ニ御野立ヲ餘儀ナクシ奉リ申シタト云フコトニ對シテ御鷹ノ例ヲ引イテ彼此言フノハ實ニ言語道斷ノ次第デハアリマセヌカ、實ニ言語道斷ノ次第デハアリマセヌカ、ソレカラ博士ハ尙進ニテ學校ノ御眞影ノコトニ移ツテ、ソレカラ其コトヲ述ベタ後ニ門司驛員ノ行爲ヲ稱讚シ、獎勵スルト云フコトハ取りヨ直サズ自殺ヲ獎勵スルコトニナルカラ、ソレハ大ニ考モノダト思ヒマス、云々ト論シ、續イテ說イテ人ノ經濟ノコトニ及ビ、經濟ノコトハ金錢バカリデハナニ、人間ノ生命モ少シハ經濟的ニ使用セネバナラヌト論セラレテ居リマス、諸君、如何デセウ、以上述ベタ言說が並々ノ人デハナニ、人格ガ高イトセラレテ、世人ヨリモ尊敬ヲ拂ハレテ居ル山川博士、高等學府ノ長タル山川總長ノ其口ヨリモ出アントハ、實ニ是レ意外ノ至リデ、其及ブトコロノ影響ハ非常アルト思フ、實ニ歎クベク憂フベキコトニテハアリマセヌカ、諸君、勿論人命ハ重ンズベキデアル、死ハ決シテ輕ミシクスペキモノデハナニ、ケレドモ人ハ大切ナ其生命ヨリモ尙大切ナモノガアル、海嶽ヨリモ重イ義、即チ責任ノ上ニ立ツテハ死ハ鴻毛ヨリモ輕イ場合ガアル、清水君ガ重大ナル責任ヲ自覺シテ、大切ナル身ヲ

犠牲シタノハ、氣節ノ廢レタ責任ノ自覺ニ乏シイ今ノ世ノ中ニ於テ世道人心ニ益スルコトハ實ニ歎ナクナイト思フノデアリマス、諸君、我日本帝國ノ國家的精神即チ大和魂ハ此犠牲、責任ノ觀念が基礎トナツテ、サウシテ日本ノ特有ノ團體ヲ維持シ、世界ニ比類ナキ鞏固ノ國民性ヲ作シテ居ルノデアル、故ニ此死ヲ以テ重大ナ責任ヲ謝シタ清水君ノ心事ヲ想ウテ、其靈ヲ慰メントスルハ、即チ是レ忠愛ノ國家的精神ヲ獎勵スル所以テ、大和魂ノ涵養ノ上ニ嘉スベキ計畫ト思フノデアリマス、決シテ自殺ヲ獎勵スルノデナシ、偏狹ナ氣性ヲ養フト云フノデナシ、ソレガタメニ自ラ生命ヲ輕スル者、或ハ自殺スル者ガ殖エルト云フコトハ斷ジテナイト信ズル、諸君、ソレカラ山川總長ハ聯隊旗、軍艦旗、軍旗ヲ護ルニ及バヌト申シタス、我軍隊精神ハドウシテ此維持が出來マセウ、軍隊ノ紀律ヲドウシテ守ルコトが出來マセウ、將タ我國家ハドウシテ護ルコトが出來マセウ、諸君、

人ハ大切デアル、而モ責任ヲ重ズルガ故ニ、人ハ大切デアル、責任ヲ思ハズ、義務ノ觀念ノナイン人ハ人タル價ガアリマセウカ、山川總長ハ人ノ經濟ノコトヲ說及ボサレテ居リマスガ、一人ヲ活シシテモ万人が責任ノ自覺ノナイン、即チ責任上死物アツタナラ何ゾ人タルニアランヤ、清水君ノ死ハ一人以テ万人ヲ活ス所以デ、ソレガ即チ人ノ經濟アリマセ

スカ、諸君、實ニ山川總長ノ言說ハ國家的根本ノ觀念ニ背馳シ、且實ニ不謹慎極

モノデ、既ニ世間物議ノ種子トナリ、貴族院ニ於テモ先月ノ豫算分科會デ質問請求ガ

アツタ承知スル、然ルニ今尙政府ニ於テ何等ノ處置ヲ執ラレタ云フコトヲ聞カヌノハ、

甚ダ其意ヲ解シナイ次第アル、昨年京都大學ノ某博士ガ大臣ヲ馬鹿ダトカ、氣狂ダ

トカ云ツタ云フコトデスマ物議ヲ惹起シテ、政府ハ是が取調ニ手ヲ掛けタ開イテ居ル、

此度ノ山川總長ノ言論ト云フモノハ、是トハ實ニ雲泥、天地ノ差ガアル、實ニ大差ヒガ

アルノデアリマス、殊ニ山川總長ハ其言說ノ中ニ「徽慮ニ適ツタコトカドウカ」ト云フ言が

二箇所モアリマス、畏多クモ 陛下ノ渥キ大御心ハ天下万姓一人モ皆其所ヲ得、其

生ヲ安ゼンコトヲ常ニ冀ハセ給フコトハ申スマテモナイ、既ニ當時 陛下ニハ此事ヲ聞召

シテ、怪我人ハナカツタカト云フ有難ニ御尋ガアツタト云フコトヲ仄ニ承ツテ居ル、況ヤ此

清水君が死ナウトハ微塵ダモ恩ハセ給フ筈ガナイ、唯吾ミ臣民タル——臣民タル吾ミガ

任ズルノフ至當ト思ヒマス、之ヲ要スルニ山川博士ハ人格ハ高イカ知ラヌガ、大切ナ國

家的思想ノ大本ヲ逸シタモノデアル、國家ノ存立、國家ノ擁護、殊ニ我日本帝國ノ國

體維持ノ上ニ由タシキ大事デ、斷シテ一日モ看過スベカラザルコト、思フ、政府ハ我國

民道徳ノ根本觀念ニ背馳シ、國家ノ存立ニ危害ヲ與フル是等ノ言、之ヲ其責任上ド

ウセラル、デアルカ、ドウセラル、デアルカ、私ハ國家ノダメ將來ノタメ、實ニ實ニ憂慮ニ堪ヘ

マセヌカラ、茲ニ已ムナク此質問ヲ提出シテ、内閣大臣ノ責任アル答辯ヲ望ムト同時

ニ、忠愛ノ精神ニ富マセラル、滿堂諸君、將タ滿天下ノ人士ニ深ク注意ヲ拂ハレンコト

ヲ切ニ希望シテ止マナイ次第アリマス(喝采)

○佐々木安五郎君 本員ハ對清外交問題ニ付、質問致シマスニ付テハ外務大臣自

瓦リマスガ、併シ私ハ今ハ茲ニ此以上ニ論ズルコトヲ避ケテ、賢明ナル諸君ノ御判断ニ

任ズルノフ至當ト思ヒマス、之ヲ要スルニ山川博士ハ人格ハ高イカ知ラヌガ、大切ナ國

家的思想ノ大本ヲ逸シタモノデアル、國家ノ存立、國家ノ擁護、殊ニ我日本帝國ノ國

體維持ノ上ニ由タシキ大事デ、斷シテ一日モ看過スベカラザルコト、思フ、政府ハ我國

民道徳ノ根本觀念ニ背馳シ、國家ノ存立ニ危害ヲ與フル是等ノ言、之ヲ其責任上ド

ウセラル、デアルカ、ドウセラル、デアルカ、私ハ國家ノダメ將來ノタメ、實ニ實ニ憂慮ニ堪ヘ

マセヌカラ、茲ニ已ムナク此質問ヲ提出シテ、内閣大臣ノ責任アル答辯ヲ望ムト同時

ニ、忠愛ノ精神ニ富マセラル、滿堂諸君、將タ滿天下ノ人士ニ深ク注意ヲ拂ハレンコト

ヲ切ニ希望シテ止マナイ次第アリマス(喝采)

○佐々木安五郎君 本員ハ對清外交問題ニ付、質問致シマスニ付テハ外務大臣自

瓦リマスガ、併シ私ハ今ハ茲ニ此以上ニ論ズルコトヲ避ケテ、賢明ナル諸君ノ御判断ニ

任ズルノフ至當ト思ヒマス、之ヲ要スルニ山川博士ハ人格ハ高イカ知ラヌガ、大切ナ國

家的思想ノ大本ヲ逸シタモノデアル、國家ノ存立、國家ノ擁護、殊ニ我日本帝國ノ國

體維持ノ上ニ由タシキ大事デ、斷シテ一日モ看過スベカラザルコト、思フ、政府ハ我國

民道徳ノ根本觀念ニ背馳シ、國家ノ存立ニ危害ヲ與フル是等ノ言、之ヲ其責任上ド

ウセラル、デアルカ、ドウセラル、デアルカ、私ハ國家ノダメ將來ノタメ、實ニ實ニ憂慮ニ堪ヘ

マセヌカラ、茲ニ已ムナク此質問ヲ提出シテ、内閣大臣ノ責任アル答辯ヲ望ムト同時

ニ、忠愛ノ精神ニ富マセラル、滿堂諸君、將タ滿天下ノ人士ニ深ク注意ヲ拂ハレンコト

ヲ切ニ希望シテ止マナイ次第アリマス(喝采)

○佐々木安五郎君 国務ノ都合トハドウ云フ都合デス

○議長(大岡育造君) フロントコトハ先刻私カラ佐々木君ニ答へル

○服部綾雄君 質問書が出来居リマス

○議長(大岡育造君) 茲ニ御尋ニナツテ、政府が答へラレルコトナラバ、直グ答へラレ

ルデアラウト思ヒマス

○服部綾雄君 私ハ席ヲ譲ダタノデス

○議長(大岡育造君) 書面テ答辯スルト云フコトハ先刻私カラ佐々木君ニ答へル

○議長(大岡育造君) 茲ニ御尋ニナツテ、政府が答へラレルコトナラバ、直グ答へラレ

ルデアラウト思ヒマス

○服部綾雄君 登壇

○服部綾雄君 私ノ質問書ニ出シテ置キマシタ事柄ハ皆様ノ御手許ニ廻シテ居リマス

○議長(大岡育造君) 故ニ、極ク明瞭ナルコトデアルト思ヒマス、實ハ疾クニ質問シタコトデゴザイマスカラ、書面

ヲ以テノ御答ナラバ餘程以前ニ御答ガアルベキコト、思ツテ居タ、此問題ハ一等國ノ體

面ニ關スル大問題デアルト、私ハ信ズルノデアリマス、「デレンハム」案トシテ知ラレテ居ル

トコロノ俗ニ移民法改正案ト稱ヘラレテ居ルトコロノモノデアリマスルガ、私ハヤハリ日本

條約ノ上ニ關係アルモノトシテ、附屬ノ書類ニ現レタル外國人合衆國來住法ト云フ名

ヲ取ダタノデアリマス、我國ニハ移民ト非移民ノ區別アルが故ニ、移民法改正ト云フト

單ニ移民ニミ關スルモノ、如ク思フノデアリマス、併シ移民法ト譯シテ居ルトコロノモノ

ハ合衆國ニ於テ入國法ト譯シテモ宜イノデアル、ダガ外國人合衆國來住法ト云フ名

ガ故ニ、私ハ其言葉ヲ取ツテ質問書ニ記シタノデアリマス、我帝國ノ臣民ハ不能歸化外

國人ナリト云フ認定ヨリシマシテ、不能歸化外國人ノ入國ヲ禁止スルコロノ法律案ヲ

上院ニ提出セラレタルトコロノ修正說ガ委員會ニ於テ通過セフレ、其修正說ガ通過セラ

スカラ、私ニ譲リ合ウテ前後セラル、コトハ出來マセス、順次ニ許シマス

○服部綾雄君 尚御諒リテ願ヒタイ、政府委員が見エタヤウデアリマスガ、私ハ長ク話ス

オメナイガ、大臣が御出ガナイカラ控ヘタノデアリマス、其故ニ議場ニ御諒リ下サイ、私ニ

御諒リテ願ヒタイ

○議長(大岡育造君) 如何デス、質問ハ甚ダ數が多いノアリマスカラ、成ベク本議會ノ會議期中ニ諸君ノ質問ヲ終ラセタイト思ウテ運ンテ居ルノデアリマスガ……

〔「服部君ニ許スベシ」ト呼フ者アリ「異議ナシ異議ナシ」ノ聲起ル〕

○議長(大岡育造君) 服部綾雄君

〔「服部綾雄君登壇」〕

○服部綾雄君 極ク簡單ニシマスガ、少シク時間ヲ保留スルコトヲ願ヒタイ、此質問ニ付テ起リマシタコト、其他後ニ出來タニニ付テ外務大臣ニ聽キタイト思フテ居タア

スガ、私ノ質問書ニ出シテ置イタノハ明瞭ナル質問デアリマスガ、唯私ハ一言茲ニ日米

ノ兩國ノ親厚ハ永遠ニ續ク、此戰爭ノ日米戰爭ノ如キコトノ必無ナル其豫想六十分持テ

テ居ルモノアリマス、ダガ米國ニ於テ此項現レタルコロノ事柄ニ付テ誠ニ遺憾ニ思フ

ガ故ニ、私ハ此質問ヲ出シタノデアリマス、政府委員が此處ニ御出ニナル故ニ御答辯下

サルノナラバ、私ハ政府委員ニ直グ此事ヲ伺ツテ一二續ケテ問ヲシタ

〔「服部綾雄君降壇」〕

○議長(大岡育造君) 服部君、ドウ云フ御趣意デスカ

○服部綾雄君 質問書が出来居リマス

○議長(大岡育造君) 茲ニ御尋ニナツテ、政府が答へラレルコトナラバ、直グ答へラレ

ルデアラウト思ヒマス

○服部綾雄君 話ナラバ聊私ハ時間ヲ戴キマス

〔「服部綾雄君登壇」〕

○議長(大岡育造君) 服部君、ドウ云フ御趣意デスカ

○服部綾雄君 質問書が出来居リマス

○議長(大岡育造君) 茲ニ御尋ニナツテ、政府が答へラレルコトナラバ、直グ答へラレ

ルデアラウト思ヒマス

○服部綾雄君 話ナラバ聊私ハ時間ヲ戴キマス

〔「服部綾雄君登壇」〕

○議長(大岡育造君) 服部君、ドウ云フ御趣意デスカ

○服部綾雄君 質問書が出来居リマス

○議長(大岡育造君) 茲ニ御尋ニナツテ、政府が答へラレルコトナラバ、直グ答へラレ

ルデアラウト思ヒマス

○服部綾雄君 話ナラバ聊私ハ時間ヲ戴キマス

〔「服部綾雄君登壇」〕

○議長(大岡育造君) 服部君、ドウ云フ御趣意デスカ

○服部綾雄君 質問書が出来居リマス

○議長(大岡育造君) 茵ニ御尋ニナツテ、政府が答へラレルコトナラバ、直グ答へラレ

ルデアラウト思ヒマス

○服部綾雄君 話ナラバ聊私ハ時間ヲ戴キマス

〔「服部綾雄君登壇」〕

○議長(大岡育造君) 服部君、ドウ云フ御趣意デスカ

○服部綾雄君 質問書が出来居リマス

○議長(大岡育造君) 茵ニ御尋ニナツテ、政府が答へラレルコトナラバ、直グ答へラレ

ルデアラウト思ヒマス

○服部綾雄君 話ナラバ聊私ハ時間ヲ戴キマス

〔「服部綾雄君登壇」〕

○議長(大岡育造君) 服部君、ドウ云フ御趣意デスカ

○服部綾雄君 質問書が出来居リマス

○議長(大岡育造君) 茵ニ御尋ニナツテ、政府が答へラレルコトナラバ、直グ答へラレ

ルデアラウト思ヒマス

○服部綾雄君 話ナラバ聊私ハ時間ヲ戴キマス

〔「服部綾雄君登壇」〕

○議長(大岡育造君) 服部君、ドウ云フ御趣意デスカ

○服部綾雄君 質問書が出来居リマス

○議長(大岡育造君) 茵ニ御尋ニナツテ、政府が答へラレルコトナラバ、直グ答へラレ

ルデアラウト思ヒマス

○服部綾雄君 話ナラバ聊私ハ時間ヲ戴キマス

〔「服部綾雄君登壇」〕

○議長(大岡育造君) 服部君、ドウ云フ御趣意デスカ

○服部綾雄君 質問書が出来居リマス

○議長(大岡育造君) 茵ニ御尋ニナツテ、政府が答へラレルコトナラバ、直グ答へラレ

ルデアラウト思ヒマス

○服部綾雄君 話ナラバ聊私ハ時間ヲ戴キマス

〔「服部綾雄君登壇」〕

○議長(大岡育造君) 服部君、ドウ云フ御趣意デスカ

○服部綾雄君 質問書が出来居リマス

○議長(大岡育造君) 茵ニ御尋ニナツテ、政府が答へラレルコトナラバ、直グ答へラレ

ルデアラウト思ヒマス

○服部綾雄君 話ナラバ聊私ハ時間ヲ戴キマス

〔「服部綾雄君登壇」〕

○議長(大岡育造君) 服部君、ドウ云フ御趣意デスカ

○服部綾雄君 質問書が出来居リマス

○議長(大岡育造君) 茵ニ御尋ニナツテ、政府が答へラレルコトナラバ、直グ答へラレ

ルデアラウト思ヒマス

○服部綾雄君 話ナラバ聊私ハ時間ヲ戴キマス

〔「服部綾雄君登壇」〕

○議長(大岡育造君) 服部君、ドウ云フ御趣意デスカ

○服部綾雄君 質問書が出来居リマス

○議長(大岡育造君) 茵ニ御尋ニナツテ、政府が答へラレルコトナラバ、直グ答へラレ

ルデアラウト思ヒマス

○服部綾雄君 話ナラバ聊私ハ時間ヲ戴キマス

〔「服部綾雄君登壇」〕

ノ類ヲ以テ取除キタルトコロノモノハ此限リニアズト云フが如キ意味ナリト承知シテ居ルノテアリマス、果シテ此事が誤ラザルコトデアリマスルナラバ、帝國ノ臣民ハ不能歸化人ト云フモノ、種類三編入セラレテシマツタノアリマス、ダガ旅券制度ノ或ル規則ニ依ツテ日本ノ旅券ヲ持ツテ來ルトコロノモノニ限ツテ之ヲ許スト云フ如キ取除キヲ以テ、現在米國ニ入國シツ、居ルトコロノモノ、入國ハ差支ナイト云フ立場ニナッテ來テアルト私ハ思フノアリマス、ダガ之ニハ一ツノ大問題が關係シテ居リマス、一ツハ渡米セントスル帝國ノ臣民ノ權利テス、一ツハ在米帝國臣民ノ權利デアリマス、此「デレンハム」改正案ニ基マシタナラバ、全ク帝國ノ臣民ハ不能歸化人ノ中ニ編入セラレタルモノナルガ故ニ、全然入國ヲ禁止セラル、モノデアルノデス、併シ政府ヨリ特ニ旅券ヲ以テ送ルトコロノモノハ之ヲ許ス、許スニ付テハ其旅券ハ如何ナルモノニツコトノ註文ガ先方ヨリアルノアリマス、是ニ於テ權利ガ帝國ヨリ行クトコロノモノ、一般ニ關係シ、モウ一ツハ其目的ヲ外レテ米國ニ止マル場合ニ於テハ之ヲ送還スルトコロノ權能スラ彼ニアルコトヲ明カニスルモノデアリマス、此點ニ於テ最モ心配スルノハ果シテ私が聞クが如クアルナラバ、農民ノ保護、農民ノ居住ニ關スル總テノ權利ガ確立シテ居ルモノデアルト信ズルトコロカラ致シテハ、此農民ヲ最初入シタルトコロノモノト異ツタルトコロノモノトシコロノ案ヲ作ルノデハナイ、現ニ此法律ノ通過ノ後ニ於テハ最初ノ目的ト違ツタモノトシテ之ヲ送還スルコトモ出來ナイノデハアリマセヌ、新ニ「カリホルニヤ」方面ニ起ラントスル大問題デアルト私ハ信ズルノデアリマス、ワレハ實ハ條約改正ノ局ニ當ラレタル内田大使が今大臣トナシテ居ラルコトデアルガ故ニ、直接ニ其大臣ニ向ツテ條約改正ノ問題ニ付テ伺ヒ、茲ニ私ガ述ベルトコロノ問題ハ此以外ニアルノデアリマス、其成行ヲ明カニ質シタノデアリマス、併ナガラ私が以テ大切ナル問題トスルガ故ニ、當局者ニ於テモ大切ナル問題トセラル、カ、書面ヲ以テ御答下サルト云フコトデアリマス、其書面ニ依ツテ答ヘラレル結果ハ私ハ斷シテ私共國民ノ意見ヲ茲ニ發表シタイト思フノデアリマスケレドモ、其書面ハ或ハ末日アルカ知ラヌ、何レノ日——議會ノ開會中何レノトキニツコ受クルコトが出来ルカ知ラヌガ、誠ニ私ハ不親切ナル取扱デアルト云フコトヲ一言茲ニ述ベナバナラヌノデアリマス(早ク出セバ宜イ)「謹聽々々ト呼フ者アリ」ソレカラ此質問ヲ爲シテヨリ日米ノ間ニ起リ來タトコロノ問題ハ此以外ニアルノデアリマス、私ハ此問題ニ付テ書面ヲ以シテ政府が米國ヨリ協約ノコトニ付テ申込マレテ居ルナラバ、ソレニ對シテ私ハ意見ヲ述べタノデアリマス、又私ノ惑フ散ラシテ戴キタイト云フ希望ガアルノデアリマス、一ツハ博覽會ノコトニ付テ、私ハ少シク皆サンニ此問題ト關聯シタル點ヲ述ベテ見タ、桑港ニ日本へ參リマシタルトキニ確ニ之ヲ贊助スルノ意アルコトヲ示サレタルモノデアルル通知ヲ得タルト云フコト、委員會ニ於テ答辯ニナツテ居ルノデアリマス、故ニ通知ハアリマス、嘗テ「シャトル」ニ博覽會ヲ開カル、トキニ於テ其必要ヲ感シテ是非トモ之ヲ贊助スルハ、即チ日本ノ關係上誠ニ好結果ヲ來スモノデアルト思ウテ之ヲ述ベタルコトモアリ、其當時英國ニ於テ開カレタルトコロノ、即チ一野人ノタニミ弄バサレタルトコロノ日英ノ博覽會ニハ十分ノ力ヲ注イダガ、此「シアトル」ニ開カレタ博覽會ニハ何ノ助ケモ與ヘナ

ラザルモノナリト「云フノ修正ガ「オレゴン」州ノ議員ヨリ提出セラレテ、是が可決シタルコトハ此仲裁問題ガ特ニ吾ミ帝國ノ臣民ニ關係アルモノナリト私ハ言フ所以ノモノデアリマス、國是ト決定シタル政策トハドノヤウノモノデアルカト云ヘバ、能ク人ノロニモ言ハレ、吾ミノロニモ言ハレマス亞米利加ノ「モンロー」主義デアリマス、亞米利加ノ「モンロー」主義トハ歐羅巴ノ勢力ガ南米ニ伸ビントスルヲ亞米利加ガ之ヲ遮ラントスルヲ以テ國是ナリト思ウテ居ツタモノカ、此案ヲ提出セラレタルニ付テ、贊成シタルトコロノ「ロッヂ」ト云フ外交委員長ノ言葉ヲ引イテ申サウナラバ、或ル東洋ノ強國ガ墨其西哥ノ一ツノ灣ニ其根據地ヲ求メン、トスルガ如キ場合アルニ於テハ、斯ル問題ヲ仲裁條約ニ依シテ仲裁裁判ニ訴ヘルガ如キコトニ反対スルモノナリト云フコトヲ明カニ申シテ居リマス、東洋ノ強國、墨其西哥ニ船寄場ヲ作ラントスルガ如キ目論見アル場合ニ於テト云フトキニハ、何者ヲ指サレタルモノデアリマセウカ、昨年十一月三十日ニ發行セラレタル「アウトルック」ト云フ雜誌ヲ見ルナラバ、上院ニ於テ述ベラレタルトコロノ此三箇條ニモウ一箇條加ヘテ、第四ニ米國政府發給ノ旅行券否認ノ件ト云フ、此第四ヲ加ヘテ仲裁裁判所ニ訴ヘ得ザルトコロノモノト云フコトガ、前ノ大統領「ルーズベルト」ニ依シテ述ベラレテ居ルノテアリマス、然ルニ上院ニハ第四ノ米國政府發給ノ旅行券否認ノ件ト云フコトハ出ア居リマセス、此邊ハ最モ注意ニ注意ヲセラレタルモノデアラウト思フ、即チ亞米利加ト露西亞トノ條約ヲ廢棄シタルモ、何ガタメデアルカ、即チ米國政府ヨリ出サレタルトコロノ旅行券ヲ否認スルトコロノ其否認スル力ニ憤シテノ結果デハゴザイマセヌカ、然ルニ此仲裁條約ヲ定メルニ當シテ大切ナル此第四ヲ抜イテ、前ノ二ツヲ以テ之ヲ理由トシテ、此二箇條ハ仲裁裁判所ニ訴ヘザルトコロノモノト云フコトニシテ、通過シタコトヲ考ヘテ見テモ、亞米利加ト英吉利トノ間ニ結バレタル此仲裁條約ナルモノハ、如何ニ亞米利加ノ議院ニ於テハ我帝國ニ對スル態度ヲ取テ取テラモノデアルカト云フコトヲ疑ハシムルトコロノ事實ガ籠シテ居ルノデアリマス（拍手スル者アリ）米國政府ニ於テ發給シタル旅行券否認ノ件ニ付テ條約ヲ破棄スルトコロノ力アッタナラバ、我帝國ノ當局者ニシテ同ジ立場ニ立ツトコロノモノナラバ、確ニ覺書ヲ添ヘ、或ハ宣言書ヲ加ヘテ、條約ヲ改正スルが如キ不態ナルコトハセザルモノデアラウト信スルノデアリマス（拍手スル者アリ）我帝國ヨリ發スルトコロノ旅行券ヲ如何ニ輕蔑セラレ、如何ニ侮辱セラレテアルカヲ思ウタキニ米國ガ幸ニ露西亚ニ對シテ主張スルトコロノ主張ヲ捉ヘテモ、帝國ノ面目ハ維持シナケレバナラヌ立場ニ在ルモノデアルト私ハ信ズル者デアリマス（拍手スル者アリ）ケレドモ此問題ノ一箇條ヲ抜イタ所以ノモノハ、若シ亞米利加ニシテ之ヲ以テ主張スルノナラバ、吾ミ日本モ亦同ジ問題ヲ以テ之ヲ主張スルガ故ニ、是ハ省イタノアリマセウ、是ハ私ノ推測ガ誤ルカドウカ知ラヌガ、先ダ四ツノ大問題ヲ「ルーズベルト」ハ述ベタニモ拘ラズ、最初ノ二ツヲ以テ上院ヲ通過セシメテアルノデアリマス、サウシテ此國はト決定シタル政策、即チ「モンロー」主義ナルモノハ何ニ依シテ述ベラレタルモノデアルカナラバ、確ニ墨其西哥ノ例ヲ引き、東洋強國ノ例ヲ引イタニ取テモ、我帝國ヲ指シタモノデハナイカト云フ疑ハ當然ナルモノテアラウト思ヒマス、此時ニ當シテ斯ル待遇ニ甘シシテ帝國政府ガ如何ナル協約ヲ爲サントスルカ、私ハ之ヲ聽キタイノデアリマス、即チ「ロッヂ」ノ提出ニ依シテ修正セラレタルトコロノ其修正說ヲ通過セシメタコトアルノナレバ、帝國ノ面目ニハ闘セザルモノナリト云フ其關セズト云フトコロノ私ハ伺ヒタノデアリマス、若モ仲裁約條ガ果シテ成立シテ——勿論佛蘭西ガ之ヲ容レルカ、英吉利ガ之ヲ受ケルカハ別問題デアリマス、我が今日ノ場合之ヲ見誤ルコトアルナラバ、支那ノ外交ヲ見誤ルトコロノ眼孔ニアラザレバ見誤ルコト能ハ

ザルトコロノ問題デアリマス、私ハ確ニ通過スルモノナリト信ズル者デアリマス、私ハ袁ノ勢力ト、孫ノ勢力ガ合シテ力アル勤シテ爲スモノナリト信ジタ一人デアリマスガ、ヤハリ此佛蘭西ト獨逸ノ力ハ米國ト共ニ結シテ東洋ニ力ヲ得ント日本ヲ壓迫セんガタメニ動キツ、アルモノデハナイカト云フ疑ラ十分滿チテ居者デアリマス（拍手スル者アリ）前ニ申シマシタルガ如ク此ノ如ク言ヘバトテ、私ハ決シテ日米戰爭ノ如キモノヲ夢ミル者デハアリマセス、我帝國ノ外交振ハズシテ、今日ノ有様ニ在ルナラバ大丈夫デアリマス、是ガ起シテ強クナツタ、ソレデハ危イガ、サウデナイノデス、私ハ弱イ間ハ政府ニ於テハ異論ガアルマエ、國民果シテ此事實ヲ明カニシタ場合アリトシタナラバ、國民ノ聲トシテハ此外交ノ弱キヲ憤シテ勒發スルトキガアルノデゴザイマス、其時ハ最モ恐ルベキノトキデアルト私ハ思フ、日清、日露ノ戰爭ノ如キモ、外交家ノ誇ルベキトコロデハナイノデアリマス、外交家トシテリトシタナラバ、吾ミガ豫期セザルトコロノ結果ヲ見ルハ、決シテ怪マザルトコロ、疑フベカラザル事實ナリト吾ミハ覺悟シテ宜イノデアルト思フテス、ソレ故ニ外交當局者ニ向シテ此質問ヲスル、日清戰爭ヲ避ケネバナラナカッタ、然ルニ避ケルコトが出來ナクテ、遂ニ武力ニ訴ヘテ國力ヲ守ラナケレバナラストキ、國ノ面目ヲ保タナケレバナラヌ場合ガアタ、日露戰爭亦然リ、サラバ來ラントスルトコロノ前ニアルトコロノ事柄ヲ明カニシテ、之ヲ防ゲノ途ヲ講ズルハ、政府當局者ノ爲スベキコトデアラウト思フノデス、然ルニ外交ヲ祕密ニシテ、吾ミ國民之ヲ知ラザルが故ニ、默シテ居ルヤウナモノ、果シテ今日ノ米國ト日本トノ關係ヲ明カニシタナラバ、是テ吾ミガ多年望ムトコロノ親交ヲ永久ニ續ケ、戰爭ハ必無ノモノナリトノ確信ヲ以テ進マントスルハ、誠ニ困難ナルコトデアル（拍手スル者アリ）決シテ我日本帝國ノ臣民が困難ヲ感ズルノミナラズ、相對スルトコロノ列國民亦然リト私ハ言フ者デアリマス（拍手スル者アリ）支那ニ於ケルトコロノ外交ハ遂ニ英吉利ノ同盟國ノ英吉利ヲスラ獨逸ノ力ニ引付ケラレタルノ觀アルデアリマセヌカ、或ハ英吉利ノ如キ、佛蘭西ノ如キ、獨逸ノ如キ、亞米利加ノ如キ、是等ニ於テハ滿洲政密ニシテ、吾ミ國民之ヲ知ラザルが故ニ、默シテ居ルヤウナモノ、果シテ今日ノ米國ト日本ト共ニ支那ニ對スル政策ヲ一致ナラシメテ、我國ノ政策ヲ苦メントスル有様デアル又太平洋ヲ控ヘテ亞米利加ノ此仲裁條約ナルモノ、カヲ以テ我日本ニ迫リ來ラントスルトコロノ違ツタル方面ヨリ向シ力ヲ感ブル今日テハアリマセヌカ、私ハ此不能歸化ニ編入セラレタル帝國臣民トシテ、私ハ實ニ慨歎スルコトヲ知ラヌト云フ程私ハ深ク歎クモノデアリマス、政府ハ此特別待遇所謂、上ニ特別デハナイ、下ニ特別待遇ヲ與ヘシ、アル此根本ノ解決ヲ爲スノ意アリヤ否ヤ、爲スノ意アリヤ否ヤ、是マテ何ヲ爲シタカ、今後何ヲ爲サントスルカ、米國ガ如何ニ論セラレ、コトアリトモ、私ハ最高當局者ガ人道力ナシテ立ツテ居ルトコロノ「ルーズベルト」或ハ日本ト親交アルトコロノ「タフト」氏ノ如ク、今ニ於テハ日本モデス「エタブリッシュエド、ボリシー」私が英語ヲ使ヒマシテ御免下サイ、之ヲ直シヌガ既ニ定ツタルトコロノ米國ノ國是ハ何モノガアシテモ之ヲ運動カスコトハ出來ナイ、即チ「モンロー」主義ノ如キ、移民政策ノ如キ、米國三エスタブリッシュエド、ボリシー」ガアルナラバ、我帝國モ定ツタル國是ヲ以テ之ニ當ルハ當然ナハゴザイマセヌカ、其定ツタル國是ハ義ノ大統領「ルーズベルト」ニ依シテ唱ヘラレ、上院議員ニ依テ述ベラレタルトコロノ定ツタル國是ガアシテ、誇トスル共和國デアルノデアリマス、吾ミ帝國ノ臣民モ其定ツタル國是ハ祕密ナル國是デハナイ、公ケナル國是ニシテ「タフト」氏ニ對シテモ「ルーズベルト」氏ニ對シテモ、即チ、「エスダブリッシュエド、ボリシー」ナルモノヲ以テ當ナラケレバナラヌモノデアルト思フノデ



當局が支那ニ對スル外交ハ其機關ニ統一ヲ缺キ其連絡ニ機敏ヲ缺キ其畫策ニ研究ヲ  
缺キタルノ憾アリ政府ハ根本ヨリ之ヲ「新スルノ意ナキヤ如何」是ガ第一箇條、機關ト  
云ヒマシテモ外交ノ機關ニモイロ／＼アル、間接ノ機關モアレバ直接ノ機關モアル、正面  
ノ機關モ側面ノ機關モアリマスガ、歐羅巴諸國ニ於テハ、帝王外交ト稱シテ、帝王自  
ラが外交機關ノ樞軸トナツテ活動サレル所モアリマスケレドモ、我國ハ國體ノ相違ト、國  
情ノ差ニ依シテ、帝王外交ト云フコトハ望ムベカラズトルモ、セメテハ國民外交ト云フモ  
ノ位ハヤツテ見ダイト思フ、國民外交トハ何ゾヤ、國民ノ全體ガ外交ノ機關トナルノデア  
ル、即チ輿論ノ聲ヲ外交ノ後楯テトルノが始リアル、然ルニモ拘ハラズ是ハ唯今ノ内  
閣ノミラ攻メルノデナイガ、霞ヶ闕ト云フ所ノアノ外務省ノ邸ニ食付イテ居ル病氣ガアル、  
其病氣ハドウ云フ病氣カト云フニ、何時モ彼處ノ邸宅ニ入タモノハ必ズ其病氣ニ罹  
ル、ドウ云フ病氣ニ罹ルカト云フト、輿論ヲ無視スル、輿論トハ何ゾヤ、新聞、雑誌等  
ニ現ハレルモノ、演説、講演、口ニ現ハレルモノ、之ニ依シテ國民ノ意思ヲ發表スルト  
ロノ其聲、即チソレガ輿論、之ヲ時ノ外務ハドウ云フ具合ニ見ルカト云フト、何時モ外  
務ト云フモノガ輿論ヲ蔑視シテ輿論ノ要求スルトヨロニ聞カザルノミナラズ、時々輿論ノ  
鎮壓ニ掛ル、之ヲ歐羅巴諸國ノ外交ニ較ベテ見ルト、歐羅巴テハ成ルベク外交ノ後楯  
テトナルヤウナ輿論ヲ人民ニ起サセテ置イテ、口ニ筆ニ人民ハ此ノ如ク言フカラ私ノ言フ  
コトハ通シテ吳レナケレバ困ルト云ウテ相手國ニ申込ム、然ルニ日本ノ方ハ人民ノ要求ス  
ル聲ト云フモノヲ成ルベク鎮壓シテ置イテ、人民ハ極クオトナシイ人民テゴザルト言ウテ、  
向フニ懸合フ、國民ノ聲テハナイト云ウテ、何時モ輕蔑サレルノデアル、是ガ即チ日本ノ  
外交官ガ外交ノ機關即チ國民ヲ外交ノ機關トルコトヲ知ラザル過カラ起シタコトデア  
ルノデ、之ヲ餘リ壓迫シ過シタ結果、賴ミニ思ツタ外務、其外務ノ働キが國民ノ輿論ニ副  
ハナカツタ、輿論ヲ鎮壓サレタケレドモ、蓋ヲ取シテ現ハレタルモノハ思掛ケナイモノニアツタ  
ト云フタメニ爆發シタモノガ九月十五日ノ饋討デアル、輿論ノ聲ヲ壓迫シタ、メニ起シタ  
不祥ナル現象テアル、或ハソレハ國民ノコトデ、直接外交ノ機關ナイト云フカ知ラヌガ、  
外交ト云フモノハ國民ヲ離レテアルベキモノデナイン、國民ノ利害ト一致セザレバ外交ノ本  
能ガ發揮サレルモノデナイン、併ナガラ其輿論ハ輿論デアルト云フナラバ、更ニ然ラバ外務  
ノ方ノ直接ノ機關、出先キニ出テ居ルトコロノ公使ト云フモノト、クレカラ本省——外  
務ノ本省ト云フモノトノ遠絡ガ取レテ居ルヤ否ヤト云フコトヲ御尋申シタイ、北京ニ行ッ  
テ開イテ見ルト、北京ノ方ノ公使館テ此度ノ支那ノ動亂ニ對スル意見ト云フモノト、本  
省ノ意見ト云フモノハ、動モスレバ統一ヲ缺イタ形ガアル、不統ニ陷シテ居ルノミナラズ、  
同シ日本カラ行シタモノモ例ヘバ公使ノ下ニ居ル領事——領事が居ルト云フト、傍ニ  
守備隊長ガ居ル、領事ト守備隊長テ外交ヲヤツテ居ル、守備隊長ハ左ニ行カウト言フシ、領  
事ハ右ニ行カウト云フ、人々別ノ目的ヲ執シタ云フコトヲ聞イテ居ル、満洲ノ如キニ  
行シテ見ルト、更ニ能力分ル、南滿鐵道ト云フモノハ南滿鐵道テ外交ヲヤツテ居ル、關東  
都督府ハ關東都督府テ外交ヲヤツテ居ル、其外ニ領事ハ領事デヤツテ居ル、領事ノ下ニ  
居ル警察官、軍隊ノ下ニ居ル憲兵、其憲兵ガ捕ヘテ有罪ニシタモノヲ警察官ガ無罪ヲ  
主張スル、或ル所ニ行クト、其或ル所トハ鐵嶺テアル、鐵嶺ノ橋ヲコチラカラ渡ルト一圓  
九十五錢取ラレルガ、コチラカラ渡ルト只テ宜イ、支那人ハ日本ノ政治ハ妙デアル、左カ  
ラ渡ルト一圓九十五錢ノ罰金料ヲ仰付ケラレ、右カラ通ルト科料ガナクテ宜イ、ソヨデ  
第二著ノ支那人カラ見ルト日本ト云フ國ハドウ云フ國デアルカ、頭ガ二ツ三ツアツテ少  
シモ統一ヲシテ居ラヌ、ドウ云フ國デアラウカ、革命軍ニ對スル舉動モドウデアル、或ル

方面ニ付テハ革命軍ヲシテ右翼ヲ伸バサセルヤウニシテ、満洲ニ於テ發展スルカト思フト、一方カラハピッシュヤリソレハナラスト云フ、ヤレト云フノモ日本ノ官憲デ、止メルノモ日本ノ官憲デアル、是テ統一ガ行ハレテ居ルカドウカ、若モ具體的ニ聽キタイト仰シャ君モ御認メニナツタデアラウト思フ、然ラバ聯絡ト云フモノガアルカ聯絡が機敏ニ出來テ居ルカドウカ聯絡ノ機敏ナラザルモ夥シノイデ、殆ド聯絡がナイト云ウテモ宜シイ、或ル西洋人ガ斯ウ云フコトヲ云フタ、日本ハ生命ヲ懸ケテ戰フ戰爭ト云フコトニ付テハ、誠ニ効ガ立派デアルガ、生命ヲ懸ケヌモ濟ム外交ト云フモノニ付テハ誠ニ効ガ鈍イ、ナセサウ云フ譯デアラウト云フ評ヲシタコトガアル、生命ヲ懸ケヌコトニハ後ニ退リタカリ、生命ヲ懸ケナイデ濟ムコトニハ進ミタガルガ人情デアルガ、生命懸ケノコトハ立派ニ出來テ、生命ヲ懸ケヌデモ濟ムコトハ後ト退リヲスルト云フコトノ意味ガ分ラス、是ニ於テ研究ヲシテ、或ル軍人ニ問ウテ見ルト、或ル軍人ハ笑ッテ曰ク、吾々が戰爭ヲスルニハ斥候ト本隊ト聯絡ガアル、外務省ノ外交ニハ斥候兵が居ルヤ否ヤ、斥候ガ何處ニ出シテアルカ悲意哉、外務省ノ外交ニハ斥候兵が居ラス、敵が何レニ在ルヤ、敵ノ弱點ガ何處ニアルカ、敵ノ長所が何處ニアルカ、一向分ラヌ暗中ノ摸索、探リ探リニ出テ行シテ、田舎者ガ「ボーラマ」ヲ見ルヤウニ暗イ所カラニユット明ルイ所ヘ出テ、背景ノ大キナノニ驚イテ、何處ガ本物ヤラ、何處ガ附ケ物ヤラ、粉面棒ヲ振シテ居ルノデアル、是ニ於テ何ヲヤラウト思シテモ、ヤリヤウガナニ、若モ聯絡ガ立派ニ付テ居ルト云フナラバ、袁世凱ノ心ハ一舉一動鏡ニ懸ケテ見ルガ如一番聯絡ヲシテ居ルカ、諸君、亞米利加ノ軍人ガ袁世凱ノ手許ニ行シテ居ルカ、英國ノ軍人カ、露西亞ノ軍人カ、日本ノ軍人ガ行シテ居ルカ、是ハ公然ノ秘密ダカラ云ヅテモタカモ知レスガ、日本ニ對シテハドウ云フコトヲシテ居ルカ、餘リ聯絡ノ形ガ見エヌ、袁世凱ノヤルコトガ一モ分シテ居ラヌ、是ガ聯絡ノ取レナイ證據デアル、此聯絡ノ取レナイコトク分ラナケレバナラヌガ、日本カラ軍人ハ行シテ居リナガラモ其軍人が袁世凱ノタメニ効イタカモ知レスガ、日本ニ對シテハドウ云フコトヲシテ居ルカ、餘リ聯絡ノ形ガ見エヌ、袁世凱ノヤルコトガ一モ分シテ居ラヌ、是ガ聯絡ノ取レナイ證據デアル、此聯絡ノ取レナイコトヲ有形的ニ現ハシテ見セヤウ、最モ見易イトコロデ、ソレハ何ンデアルカ、安奉線デアル、安奉線ト云フモノが通ジタ、ソレヲ通ズルニ付テハ南滿鐵道ガ一千五百万圓ヲカケテ居ルノミナラズ、鶴綠江ノ架橋ヲヤルニ朝鮮鐵道カラ二百万圓出シテアル、是ハ何ニカ歐羅巴ト亞細亞トノ聯絡ヲ付ケル、サウ云フ意味ニ於テ一千五百万圓ヤ一千八百万圓ハ惜クハナイト云フ意味ニ於テ安奉線ノ鐵道ヲ搭ヘルニ付テハ、支那ガ故障ヲ云シテ云フノデ、然ラバ自由行動ヲ取ルト云シテ刀ニ手ヲ掛ケテ威張リ散ラシタコロノ鐵道デアル、此鐵道が出來上シタ今日ノ外務省ハ之ヲ取ルトキニハ此ノ如キ決心ヲ以テヤッタガ、其後ノ運用ハ如何ニシテ居ルカ、此歐羅巴ト亞細亞ヲ繫グタメニ取シタ其鐵道ガ、誌ナドモ到著スル譯ニナルガ、安奉線ハ世界ノタメノ通路ヲ搭ヘルト云シテ、國家ノ費用ヲ抛シテ居リナガラ、國民ノ便宜ト云フモノハ一モ計シテ居ラヌガドウダ、此ノ如ク聯絡ノハ載セテ吳レナイカラアル載セテ吳レ、ハ毎日ヤ々遅ニ馳セナガラモ日ニシテ新聞、雜誌ナドモ到著スル譯ニナルガ、安奉線ハ世界ノタメノ通路ヲ搭ヘルト云シテ、國家ノ費用來ルカ、若モ外務省が最初自由行動デモ取シテヤルゾト言シテ、支那ヲ威シツケタト云フ

權幕ニヤル必要ガアルナラバ、取ッタ後ノ經營ハ益、立派ニシナケレバナラスト思フ、日本ヨリ外ニ出テ居ル者ハ恰モ絶海ノ孤島ニ流サレタ「ロビンソン」俊寛ノヤウニナツテ居ル、此ノ如キ慘状ニ陷ヅテ居ツテモ知ラヌ顔ヲシテ居ルノデアル、コレモ聯絡が立派ニ取レテアルカナイカ、能ク考ヘテ見レバ分ラウト思フ、現ニ天津、營口ニ通ズル電信線、此線ハ日本ノ外交官ノ腰一ツテ日本が架ケルコトハ何時デモ出來タノアアルガ、ソレモ出來ナイ、此項新聞ニ掲ゲテ居ルトコロヲ見ルト、コレガタメニ何倍ト云フ、横文字電報料ノ非常ニ高イモノヲ出サナケレバナラズ、其出ス金ハドウカト云フト此議會テ何時デモ默ツテ支出スル、ソレヲ能ク調ベテ見ルト、ソンナニ高ク出サヌデモ外交官ノ腕一本デ出來ルコトデアルノニ、外交官ノ無能ナルガタメニ國民ハ何時デモ無用ナル負擔ヲシナケレバナラズ、是等總テノコトニ付テ聯絡が取レテ居ニイ譯據デアルノミナラズ、外交ヲヤルト云フコトニ付テハ民間ノ士——各方面ノモノ商人テアラウガ、何ンテアラウガ、聯絡ヲ取ヅテ、總ノモノヲ斥候兵ニ使ウテ、アレヲ斯ウレバドウナル、何處ヲ打テバ斯ウ響クト云フコトヲ考ヘテ外交ヲシナケレバナラズノニ、商人ハ商人デアル、書生ハ書生デアル、浪人ハ浪人デアルト云フテ、役人唯獨リ尊シ、外交ハ十三行野紙ニ印込シアルモノト云ハヌバカリニ、汝等何ヲ知ルカト云フ態度デアルガタメニ、ドンナコトヲ知ツテ居ルモノデモ云ウテ聽カセルコトヲ憚ル、石井次官ハ極ク領事ト商人トノ聯絡が取レテ居ルト云フコトヲ云ハレタガ、コレハ嘘デアルト云フコトヲ憚ラヌ、ナセ憚ラヌカ、一モ聯絡が取レテ居ナイ、澤來太郎君が天津ニ行ッタキニ此動亂ニ付テ領事ハドウ云フコトヲ實業家諸君ニ注意シタカト云フ問題ヲ出シタキニ、何ニモアリマセヌ、其所ニ於テ澤來太郎君ハソレハ怪シカラズコトデアルカラ、諸君が此動亂ニ付テ希望ガアレバ研究ヲスルト云フノテ、其要求ニ依テ始メテ天津ノ商人が意見ヲ出シタト云フ譯デアル、何事モ言ハナカツタト云フノハ、即チ聯絡ノ取レテ居ナイ證據デアル、若モ聯絡が取レテ居ツタナラバ明治四十二年一月一日ニ袁世凱ノ方カラ電報ヲ打ツテ日本ニ居ル革命黨ノ主領黃興ノ所ニ光緒皇帝崩ゼラレタアルカラ、諸君が此動亂ニ付テ希望ガアレバ研究ヲスルト云フノテ、其要求ニ依テ始メテ天津ノ商人が意見ヲ出シタト云フ譯デアル、是ハ黃興ノ友人デアル宮崎滔天、此人間が自ラ發表シテ居ルカラ公然ノ祕密デアル、又日本ノ外交官ニシテ革命ノ事情ヲ探ルタメニ熱心デアルカラ、各種ノ方面ニ亘ツテ竝ベテ見レバ、竝ベテ見ル程聯絡が切レテ居ルコトハ明カナ譯デアル（「講談デスカ」ト呼フ者アリ）殊ニ畫策ト云フコトニ付テハ機敏ヲ缺イテ居ル、畫策ニ付テハ研究ヲ缺イテ居ル、此畫策ト云フコトハ餘程研究ヲシナケレバナラズコトデアルニ拘ラズ、日本ノ立テタル畫策ハドウ云フ研究ガアルノデアルカ、最初ハ傍観デアタ、其次ハ立憲君主ヲ言ウテ見タ、立憲君主ニ都合が悪ルイ、英國が贊成シナイ、英國が贊成シナイトクルト引繕リ返シテ、今度ハ又暫ク傍観、コレカラ共和ニナルト今度ハ共和贊成、七面鳥ノ顔ノ如ク早變リヲスルトコロノ日本ノ外交ニ誰が信用ヲ措カヌ結果ハ、研究ノ仕方が足ラズニ唯暗中ニ模索シテ、シナイトクルト引繕リ返シテ、英ノ方面ニモ信用ヲ得ルコトが出來ヌト云フ

ヤウナ意味ガアルカナイカ、改メルト云フ意味ガアルナラバ諸君ノ面前ニ於テ今ヨリ後ハ必ず此病ヲ改メルト云フコトヲ誓ツテ貰ヒタノデアル、此意味ガアルカナイカト云フコトヲ承リタイ、ソレカラ第二ハ「我帝國ト他列國トカ支那ニ對スル本來ノ立場ハ自カラ軒輊アルヘキ皆ナリ政府ハ之ヲ同一視シ若クハ帝國ヲ以テ他國ノ後塵ニ座スヘキモノト思考セルニハ非サルカ否カ」日本ト他ノ列國ト支那ニ對スル此關係ノ上ニ於テ自ラ申乙ガアルベキ筈テアル、日本ハ東洋ニ居リ、支那モ東洋ニ居ル、歐羅巴諸國——西洋ガ支那ニ對スルノト、鄰同士ノ日本ガ支那ニ對スルノトハ、其間ニドウシテモ立場ガ違ハナケレバナラズ譯デアル、然ルニモ拘ラズ日本ノ政府者ハ列國ガドウ言フアラウ——外國ガドウ言フアラウ、先ツ西洋ノ方ノ顔ヲ御覽セラレル譯デアル、而シテ後ニ自分ノ意思、自分ノ定見ト云フモノハナクシテ、鄰リ而モ遠キ鄰リノ顔バカリ見テ、其後ニアトカラソロく往カウト云フヤウナ立方が屢々顯ハレテ居ルノデアル、コレデ是ハ同ジ火事デモ川向ノ火事ト鄰同士ノ火事ハ火事が違フ、火事ハ火事デモ火事が違フ、火事ニ遭フ立場ガ違フ西洋列國ノ人間ガ支那ニ對シテハ川向フノ火事デアルガ日本ガ支那ノ動亂ニ對スルノハ軒續キノ火事デアル、軒續キノ火事ニハ軒續キニ對スルダケノコトヲシナケレバナラズ、川向フノ火事ノ人が見テ居ルヤウナコトデ外ノヤツガヤラズカラ俺モヤラスト言シテ居レルカラ居レニカ、西洋ノ人ハ何ント言シテ居ル、露西亞ノ司令官ハ斯ウ云ウテ居ル、日本ハ亞細亞ノ主人公トシテ十分勤イテ良イ、唯門戸ヲ閉テ貰ツテハ困ルカラ、列國ノタメニ門戸ヲ明ケテ置イテ吳レザヘスレバ、日本ガ亞細亞ノ主人公タル役目ヲ取ルコトハ一向差支ナイト云フコトスマモ明言シテ居ル、シテ見レバ日本ガ此際十分東洋ノ主人公トシテ發動的ノ意味ニ於テ——自ラ勤キ掛ケノ意味ニ於テ活動シナケレバナラズ事件ニモ拘ラズ、外交官ノヤリロヲ見ルト仲裁一ツスルニモ、先づ英國ト相談ヲシヤウト言フ、英國ト相談甚ダ宜ラウ、英國ハ日英同盟デアルカラ頗ル日英同盟ノ尊敬スル意味ニ於テ英國ト相談ナサルモ宜シイガ、其英國ハ何ント言フ、御仲間入りハナリマセムト言シテ、北京デ別ネシマッタ、サウデスカ、英國ガ仲間ニ入ラナケレバ困ルト言シテ、日本ガ手ヲ引いて居ルト、豈ニ圖ランヤ英國ハ領事ノ名ニ於テ漢口ノ方面ニ仲裁ヲヤラセタ、而シテ日本ノ公使カラ、アレハドウ云フ譯カト言シテ尋ねタラ、アレハ領事がヤツタコトデアルカラ、私ハ知ラナカツタト言フコトデ濟マンテ居ル、コレテハ私ニ付テ往キマセウカト言シテ跡カラ復タソロく付テ往ツタノデアル、是ハドウ云フモノデアル、若モ日英同盟ナルモノガ健實ニ今ニ其様が結付ケテアルナラバ、日本が英國ニ相談シタコトハ何ニモ差支ナイ譯デアルニモ拘ラズ、英國ノ領事が片ツ方デヤッタ、其跡ヲ復タ日本ガソロく付テ往カウト云フコトハ、日本ヲシテ頗ル輕カラシムル所以デアルト私ハ思フノデアル（拍手起ル）昔西郷隆盛ガ「バーチス」ニ逢ツテイロくノ談判ヲ持掛ケルト「バーチス」ハイツモ佛蘭西ガ承諾シナイト言フコトロ口癖ニシテ居ツタト云フコトデアル、所ガ或ル席上ニテ西郷隆盛ガ「バーチス」ニ出會シテ卒然トシテ問ウテ曰ク、時ニ英國ハ佛蘭西ノ屬國デアルカト言シタ所ガ「バーチス」大ニ怒ツテ何ニガ屬國デアル、英國ハ獨立國デアルト言シテ、然ラバ英國ハ英國ダケテ考ガ付キサウナモノデアル、何ヲ言ウテモ「バーチス」ハ佛蘭西ニ相談

ラスル、相談ラスルト言シテ、アナタガ仰シヤルカラ佛蘭西ノ命令ヲ御聽キサル國ト思ッテ居ツタカラ、ソレニ屬國カト問ウタ譯アルト言シテ、一言ビシャット言ツタコロガ「パークス」大ニヘコタレテシマンダ、若シ西郷隆盛が今アラバ、日本ハ英國ノ屬國デアルカト云フ問題ヲ起スカモ知レヌノアル、之ニ對スル外務大臣ノ答辯が承ハリタ、ドウ云フ答辯が出來ル（笑聲起り、拍手起ル）ソコテ日本ハ日本シテノ立場ガアル以上ハ日本ハドウシテモ他ノ列國ヨリモ一頭地ヲ挺イテ居ル東洋ノ主人公ヲ以テ自ラ任シテモ、世界ノ人間ハ異論ハナイト云フコトハ北京デモ日本ガ今度ハ何ニカシテ吳レルダラウト言シテ暫ク控ヘテ居タトコロガ、何ニモシナイ、シナイカラ、英國ガ然ラバト言シテヤリ出シタ、始メハ日本ノヤリ口ヲ見テ居ツタトコロガ、何ニモシナイノデ、日本ハ誰カ何ニカスルダラウ、自分ハ其跡ニ付テ往ケバ貞イト云フ顔ヲシテ居ツタタメ後回シニシテ、向フカラ先ンゼラレタ、一事が萬事イツデモ遲レ馳セニナタ居ル、此ノ如キハ日本ヲ以テ他ノ國ノ立場ト同一視シテ居ルカ、サモナケレハ日本ハ他ノ國ヨリ遙カ後坐——アトノ方ニ坐ラナケレバナラスト思テ居ルガ、外務大臣ノ之ニ對スル意見が承リタ、ドウ云フ積リアルカ、是が第二番、第三番ハ支那ニ對スル領土保全ト政體不干涉ト云フ一ツノ主義ハ竝立ツテ往クトキモアリ、往カナイトキモアル、或時ニ於テハ領土保全ト云フコト、政體不干涉ト云フコトガ竝立ツコトガアルガ、或時ハ竝立タヌコトガアル、ナゼ竝立タヌカ、甲ノ持シテ居ル屋敷、其地面、此等ハ人ニ譲ルコトハ出來ヌ、人ニモ分割サセナイ、質ニモ入レサセヌ、抵當ニモ入レサセヌ、賣ルコトモナラヌ、家屋敷ダケハ残シテヤル、保存シテヤルト云フコトハ、是ハ領土保全ト能ク似テ居ルガ、併ナカラ其家屋敷ヲ賣拂タリ何ニカスル起リハ何ンナルカト云フ、財政ノ不如意、即チ家ノ政治ノ立方ガ惡ルイト、遂ニハ家屋敷ヲ賣リコカサナケレバナラス、此場合ニ於テハ先ツ家屋敷ヲ保ッテヤルタメニ家ノ政治——家政ニモ喙ヲ容レナケレバナラヌコトが出來テ來ルニ違ヒナイ、是ニ於テ支那ニ於テノ政治ノ仕方ガ善イ惡ルイ、其政體ノ立方ノ善イ惡ルイニ付テハ、其支那ノ領土が四五五裂ニナルト云フ大ナル思ガ生ズルコトガアルカモ知レヌ、又此場合ニ於テハ領土保全モ大事アルガ、政體不干涉モ大事アルガ、何レヲ採ルカト云フコトが一問題ニナガテノ領土保全ラスルタメニモ政體ニ干渉セザルベカラズト云フヤウナコトが出来テ來ルカモ知レヌ、此場合ニ於テハドウ云フ處置ヲ執ルカ前以テ、聽イテ置キタイ是ガ第三番目アル、第四番目ハ若モ絕對ニ政體不干涉ト云フコトデアルナラバ、日本政府ハ支那ノ領土ガ四分五裂ニナガテモ、政體不干涉ダト言シテノケルト云フナラバ、ソレデモ宜シイ、一貫シタ主義ガ此ニアタラ宜シイ、主義アル行動ナラバ宜シイ、絕對ニ政體不干涉ト云フコトデアリトスルナラバ、伊集院公使が立憲君主ト云フ說ヲ以テ袁世凱ニ強ヒ付ケタ、云フコトハ是ハ政體ニ干渉シタノアル、政府ノ趣旨ハドコマデモ政體不干涉アルナラバ、伊集院公使ハ政體干涉ワヤツト云フコトニナガテ來ル、所が此事ハ伊集院公使ノ誤解アルカドウカ、外務大臣ハ曰ク、伊集院公使ハ個人トシテヤツタコトデアル、政府ハ知ラヌト云フコトヲ「言ハレテ居ルガ、個人トシテヤル人ニモ人ニ依ル、公使ト云フヤウナ人間ガヤルトキニヘ、ドニモ個人トシテヤツ仕事トハ見マセス、一國ノ公使ガヤツタト云フコトニナガテ來ルノデアル、西洋各國ノ北京ニ於テノ外交ノヤリ方ヲ見ルト、ドウ云フコトヨヤツテ居ル、或ル難問題が起ルト其問題ノ起ツタトキニ先ニ手ヲ出スノハ誰ガヤルカト云フ、公使ノ下ニアル一等書記官位ノモノガ難問題ヲヤツテ見テ、公使ハボント餘所へ往シテ不在ニナガテ居ル、サウシテ其不在ノ間ニ一等書記官位が試ミテ見テ、ソレガ巧ク行クト公使ハ戻ツテ來テ本當ニ談判ヲスル

若シヤリ損ハバ、アレハ不在ニ書記官ガヤツタコトダカラト言シテ、書記官ニ轉任フ命スル、一個人テヤツタト言シテモ、公使テハ言譯ニシマセヌ、不埒ナコトヲシタト言シテ、公使ガス、大ニヘコタレテシマンダ、若シ西郷隆盛が今アラバ、日本ハ英國ノ屬國デアルカト云フ問題ヲ起スカモ知レヌノアル、之ニ對スル外務大臣ノ答辯が承ハリタ、ドウ云フ答辯が出來ル（笑聲起り、拍手起ル）ソコテ日本ハ日本シテノ立場ガアル以上ハ日本ハドウシテモ他ノ列國ヨリモ一頭地ヲ挺イテ居ル東洋ノ主人公ヲ以テ自ラ任シテモ、世界ノ人間ハ異論ハナイト云フコトハ北京デモ日本ガ今度ハ何ニカシテ吳レルダラウト言シテ暫ク控ヘテ居タトコロガ、何ニモシナイ、シナイカラ、英國ガ然ラバト言シテヤリ出シタ、始メハ日本ノヤリ口ヲ見テ居ツタトコロガ、何ニモシナイノデ、日本ハ誰カ何ニカスルダラウ、自分ハ其跡ニ付テ往ケバ貞イト云フ顔ヲシテ居ツタタメ後回シニシテ、向フカラ先ンゼラレタ、一事が萬事イツデモ遲レ馳セニナタ居ル、此ノ如キハ日本ヲ以テ他ノ國ノ立場ト同一視シテ居ルカ、サモナケレハ日本ハ他ノ國ヨリ遙カ後坐——アトノ方ニ坐ラナケレバナラスト思テ居ルガ、外務大臣ノ之ニ對スル意見が承リタ、ドウ云フ積リアルカ、是が第二番、第三番ハ支那ニ對スル領土保全ト政體不干涉ト云フ一ツノ主義ハ竝立ツテ往クトキモアリ、往カナイトキモアル、或時ニ於テハ領土保全ト云フコト、政體不干涉ト云フコトガ竝立ツコトガアルガ、或時ハ竝立タヌコトガアル、ナゼ竝立タヌカ、甲ノ持シテ居ル屋敷、其地面、此等ハ人ニ譲ルコトハ出來ヌ、人ニモ分割サセナイ、質ニモ入レサセヌ、抵當ニモ入レサセヌ、賣ルコトモナラヌ、家屋敷ダケハ残シテヤル、保存シテヤルト云フコトハ、是ハ領土保全ト能ク似テ居ルガ、併ナカラ其家屋敷ヲ賣拂タリ何ニカスル起リハ何ンナルカト云フ、財政ノ不如意、即チ家ノ政治ノ立方ガ惡ルイト、遂ニハ家屋敷ヲ賣リコカサナケレバナラス、此場合ニ於テハ先ツ家屋敷ヲ保ッテヤルタメニ家ノ政治——家政ニモ喙ヲ容レナケレバナラヌコトが出來テ來ルニ違ヒナイ、是ニ於テ支那ニ於テノ政治ノ仕方ガ善イ惡ルイ、其政體ノ立方ノ善イ惡ルイニ付テハ、其支那ノ領土が四五五裂ニナルト云フ大ナル思ガ生ズルコトガアルカモ知レヌ、又此場合ニ於テハ領土保全モ大事アルガ、政體不干涉モ大事アルガ、何レヲ採ルカト云フコトが一問題ニナガテノ領土保全ラスルタメニモ政體ニ干渉セザルベカラズト云フヤウナコトが出来テ來ルカモ知レヌ、此場合ニ於テハドウ云フ處置ヲ執ルカ前以テ、聽イテ置キタイ是ガ第三番目アル、第四番目ハ若モ絕對ニ政體不干涉ト云フコトデアルナラバ、日本政府ハ支那ノ領土ガ四分五裂ニナガテモ、政體不干涉ダト言シテノケルト云フナラバ、ソレデモ宜シイ、一貫シタ主義ガ此ニアタラ宜シイ、主義アル行動ナラバ宜シイ、絕對ニ政體不干涉ト云フコトデアリトスルナラバ、伊集院公使が立憲君主ト云フ說ヲ以テ袁世凱ニ強ヒ付ケタ、新振張スルコトハ容易ニ出來マイト思フ、是が今ニ於テ此ニ伊集院公使其人ヲ其儘ニアルガ、伊集院公使タルモノハ自ラ去ルカ、サモナケレバ政府ハ彼ヲシテ其職ヲ得セシメテ、更ニ第三ノ新タル方面ニ此幕ヲ切落サスト、散々失敗ニ失敗ヲ累ネタル此外交ヲ刷勵クコトノ出來ナイ處ニ當筋メラレテ居ルカラ、伊集院公使ニ對シテハ甚々御氣ノ毒アラカ、改メヌ積アルカ、ドウ云フ積アル、是が第四番目ノ質問アル、第五番目ハ支那ニ於ケル共和論者ニ對シ政體不干涉ヲ唱ヘ來リシ政府ハ他日滿蒙其他ノ地ニ於テ勤王論其他共和反對論者ノ起シタトキニ於テモ、ヤハリ政體不干涉ト云ウテ知ラヌ顏ヲシテ置クト云フトコロノ意味ハドウ云フ意味アルカ、其事ヲ承リタ、是ハ改メル積アルカ、改メヌ積アルカ、ドウ云フ積アル、是が第四番目ノ質問アル、第五番目ハ支那ニ於ケル共和論者ニ對シ政體不干涉ヲ唱ヘ來リシ政府ハ他日滿蒙其他ノ地ニ於テ勤王論其他共和反對論者ノ起シタトキニ於テモ、ヤハリ政體不干涉ト云ウテ知ラヌ顏ヲシテ見テ居ルカドウカ、之ヲ承リタ、今現ニ昌蔭ト云フ男ハ陝西ノ方ニ興シテ端郡王ヲ引伴レテ謀反ヲ起シ掛ケテ居ル、彼ハ共和反對ヲアル、滿洲ノ或ル方面ニモ張作霖ナル者ガ立シテ、共和反對ヲアル、其中ニハ將來回々教徒ノ如キモノか動出スカモ分ラヌカ、是が動出シタトキニハ、再び支那ハ大擾亂ノ位置ニ立シテモ其時ニヤハリ政體不干涉ト見テ居ル積アルカドウカ、殊ニ日本ニ利害ノ最モ厚イ滿洲方面、蒙古方面ニ大騒動が持上ツタト云フコトキニ於テモ政府ハドコマテモ知ラヌ顏ヲシテ居ル積アルカドウカ、此時ニ對スル處置ヲ承リタ、ソレカラ第六番目ハ「我當局ハ曾ア孫黃等革命論者ノ我帝國內ニ在ルヲ忌ミ壓迫疎外シテ以テ時ノ清廷ニ好意ヲ示セシコトアリ今後モ亦袁政府ニ反對意見ヲ有セル者ニ對シテハ當年ノ孫黃ニ對スル同様ニ取扱ヲ爲ス積リナリヤ否ヤ」我政府ハ孫逸仙、黃興ガ日本ニ來タトキニアラユル虐待ヲ加テ居ツタ、是ハ嘘デハナイ、彼處ニモ居ラセヌ、此處ニモ居ラセヌ、下宿屋ニ居レバ彼等ヲ泊メテ吳レルナト云ツテ、下宿屋ニモ居ラレヌヤウニシタ、イロ／＼、ナル追害ヲ加ヘタ、此項革命ト云フコトニナルトソロ／＼、出テ往シテ手續ヲヤラウト云ツテ孫黃ニ對スル同様ニ取扱ヲ爲ス積リナリヤ否ヤ、我政府ハ孫逸仙、黃興ガ日本ニ來タトキニアラユル虐待ヲ加テ居ツタ、是ハ嘘デハナイ、彼處ニモ居ラセヌ、此處ニモ居ラセヌ、下宿屋ニ居レバ彼等ヲ泊メテ吳レルナト云ツテ、下宿屋ニモ居ラレヌヤウニシタ、イロ／＼、ナル追害ヲ加ヘタ、此項革命ト云フコトニナルトソロ／＼、出テ往シテ手續ヲヤラウト云ツテ孫黃ニ對スル同様ニ取扱ヲ爲ス積リナリヤ否ヤ、我政府ハ孫逸仙、黃興ガ日本ニ來タトキニアラユル虐待ヲ加テ居ツタ、是ハ嘘デハナイ、其人間ガ我日本ハ逃ゲテ來モ、ソレテハ誰モハス積リナリヤ否ヤ、當年ハ清廷ニ對シテ好意ヲ示スタメニ清廷ニ反對スルモノノ虐待セルガ、其

ハリ虐待スルカドウカ、現ニ或ル親王ハ、日本ノ旅順ノ官舍ニ居ル、又袁世凱ニ反對ノ人間ハ日本へ逃ゲテ來サウデアル、逃ゲテ來サウナモノガ澤山見エルガ是ハ前以テドウレタ、香港ハ自分ノ領分ニアリナガラ支那ノ官吏ハソレヲ受領スルコトが出來ナイデ、英國ハ談判シテ孫ヲ奪シテ來テ保護スル、是レ英國ノ大ヲ成ス所以デアル、日本ハドウデアル、窮鳥懷ニ入ルトキハ獵夫モ是ヲ捕ラズト云フ義俠ヲ以テ任シテ居ル國デアル、然ルニモ拘ラズ偶、賴ヅテ來タモノニ向ツテソレヲ迫害バカリシテ居ルノデアル、迫害ヲシタ人間が漸ク芽ヲ出スト、後トカラ付イテ往ガウトシテ居ル人がアルヤウニ承リマス、政府ハヨモヤ斯ル淺薄ナル考デハアルマイト思フケレドモ、是マテ往々サウ云フ嫌ヒガアツカラ、今度ハドウナルカト云フコトヲ聽イテ置キタイ、是が第六番目ノ質問デアル、第七番目ハ今回勃發シタトコロノ北京ノ暴動ニ對シテハ政府ハ之ヲ一時的ノモノノト見テ居ルカ、又ハ永續的ノ大患ト見テ居ルカ、ドウデアルカ、永續的ノモノニアルトスレバ最後ノ方策ハドウスル積テアルカ、私共ノ考ハルトコロデハ今回起シタトコロノ革命騒動、共和論ノ如キモノハ南ノ方デハ徹底シテ居ルカモ知レヌケレドモ、北方ニ於テハ人民ハ共和ノ何モノタルヤ殆ド知ラヌノデアル、革命ノ何モノタルコトヲ知ラヌノデアル、革命トハ何ダ、租稅ヲ拂ハズニ政治がシテ貴ハレルサウダ、共和トハ何ダ、役人が居ラヌヤウニナルサウデアル、斯様ノ意味ニシカ實際解釋シテ居ラヌ、然ルニ愈々共和政府ヲ建テ、百般ノ政治ヲ新ニスルニ付テハ金ガ澤山掛ル、然ルニ政府ニ金ガ無クナツタコトハ私ガ云フマテモナク現ニ今ニ起ルトコロノモノハ人民ハ掠奪ニ遭ヘバ戸ヲ閉ヂテ商賣人ハ商賣ヲ廢メル、工ハ工ヲ廢メル、農ハ農ヲ廢メル、從ツテ金融ハ逼迫スル、總テ不景氣ノ襲フトロトナツテ、遂ニ支那四百餘州ノ人民ハ悉ク飢餓ニ迫ラケレバナラヌ、サウナツテ來ルト彼等ハ共和トカ革命トカ云フヤウナ空漠タル抽象的問題ト云フヤウナコトノ以外ノロノ問題、麵麪ノ問題ト云フモノヲ此ニ於テ絶叫シテ立ツトキニ方ダテハ、支那ノ動亂ト云フモノハ非常ナモノヲ現ハシテ來ルト解釋シテ居ル、然ルニモ拘ラズ政府ノ或ル處デハ今度ノ動亂ハ直キニ治マルト云フ人がアルサウデアルガ、支那ハ到ル處麻ノ亂レシ如クニ亂レテ居ルノデアル、此次ニ起ルトコロノモノハ人民ハ掠奪ニ遭ヘバ戸ヲ閉ヂテ商賣人ハ商賣ヲ廢メル、工ハ工ヲ廢メル、農ハ農ヲ廢メル、從ツテ金融ハ逼迫スル、總テ不景氣ノ襲フトロトナツテ、遂ニ支那四百餘州ノ人民ハ悉ク飢餓ニ迫ラケレバナラヌ、サウナツテ來ルト彼等ハ共和トカ革命トスルナラバ、大動亂ノ起シタ曉ニハ何ト爲サルカ、其覺悟ヲ今カラ聽イテ置キタイ、ソレデ最後ニハドウナルカト云フ第一番が學生ノ亂、第二番が兵隊ノ亂、第三番が百姓ノ亂ト移ツテ來ルト、支那ハ殆ド四分五裂ニナツテ來ル、學生ノ亂ニ革命共和ト云フ間ハ外國人ノ生命財産ハ尊重スベシ、安全ニシテヤルベシト云フコトヲ云ウテ居ルケレドモ、第二ノ兵隊ノ掠奪戰爭ニ移ツタキニハ、日本ノ扶桑館ト云フ北京ニアル宿屋ハ掠奪サレタ、獨逸ノ人間モ、英國ノ宣教師モ、殺サレタト云フコトデアルガ、若シサウ云フ事柄デアリ構ハヌト云フコトニナル、モウ一つ範圍ガ廣シテ來ルト、第三番目ハ殆ド義和團ノ如キ形勢ヲ現ハシヘセヌカト云フ眞レガアル、此時ニ於テ能ク東洋ノ治安ヲ保ツ實力ヲ有シテ居ルモノハ日本ニアラザレバ露西亞、日露ノ兩國ヲ除イテハ殆ドナ、サウスルト列國ハ又再ビ人道問題ト云フコトノタメニ、日本カラ兵隊ヲ出シテ吳レト云ワテ來ルニ相違ナイ、今ヤ云ウテ來サウニ承テ居ル、此場合ニ於テヨシ來タ、日本ハ何日デモ東洋ノ巡查

往ク前ニ日本ハ此ノ如キ動亂ニ對シテハ此ノ如キ處置ヲ執ルカラ、之ニ付テハ列國ハドウ云フコトシテ吳レルカ、支那ハ如何ナル報酬ヲ與ヘルカト云フ位ニ前以テ極メ定メズニ置イテ、人道問題デアルト云ヘバ直様出テ往クト云フコトハ善イコトデアルカ、惡イ事デアルカ、コイツハ考フベキ問題デアルト思ヒマスガ、政府が最後ノ之ニ對スル方策ヲ承リタイ、是が第七番目、第八番目ハ支那ノ借款問題ニ關スルコトデアル、此借款問題ハ唯今四國借款ノ中ニ日本ト露西亞が割込マウトシテ居ルサウデアルガ、袁世凱ノ借りタイト云フノハ六億万圓デアル、六億万圓ヲ借リテ之ヲ六箇國カラ分配シテ貸ストシテモ、一億万圓宛貸サナケレバナラヌ、一億万圓宛貸シテソレデ濟ムカ濟マヌカト云フコトニナルト、ソレダケデハ濟ミサウモナイガ、又貸シテ吳レト云フコトデ又第二ノ借款ヲ云ウテ來ル、第一ハ能クヤッタガ、第二ニ應ジテレヌヤウナ不體裁ガアツハナラヌ、此借款問題ト云フモノハドウ云フ具合ニ動クカニ付テ研究ヲ要スル、此度ノ革命亂ニ付テ四國借款問題ハ一億万圓デアル、一億万圓ヲ貸シタノハ鐵道國有ラヤラウト云フノガ四川ニ於テ暴動が發シタノデ、片々方ニハ利權回収借款ニ對スルヨロヘノ權利ヲ抵當ニ入レタノヲ人民ガ反對ヲシテ、アノ權利ハ取戻サナケレバナラヌ、此權利ハ取戻サナケレバナラヌト云フコトニナリマシタガ、今度日本ガ加ハルト云フ評判ノアル四國借款ニハ、日本ガ本當ハ加ハシテ居ルカドウカ、本當ニ加ハシテ居ルナラバ、之ニ對シテ利權回収問題、第二ノ動亂ノ原因ヲスル眞ガアルカナイカアルナラバ、ドウ云フ方法テ之ヲ防イテ、サウシテ自分が他ノ列國ト共ニ申シカラヌヤウナ組入ヲスル積リデアルカドウカ承リタイ、今日ハ恰モ借款問題ニ對シテ私ノ知ツテ居ル小田切万壽之助君ガ今日出發スルサウデアルカラ、此極ク適切ナル最近ノ問題ニ付テ政府ハ此借款問題ニ付テドウ云フ積リヲ持ツテ居ルカ、之ヲ承リタイ、以上八箇條デアルガ、茲ニ外務大臣ガ來テ居ラレヌノデ、自分ハ敵ニ満足ヲ與ヘラレルヤウナ答辯ハ出來ヌト思ヒマスカラ、居ラストコロデアルガ、此事ヲ質問シテ置キマス、是ダケデアリマス(拍手スル者アリ)

〔才賀藤吉君登壇〕

○才賀藤吉君 諸君、本員が政府ニ質問書ヲ提出致シマシタ趣意ハ、海外輸入品防  
止ニ關スル件デアリマス、我國今日ノ海外貿易ハ諸君モ御承知ノ通り年々歳々輸入超  
過ヲ示シテ、加フルニ我國ハ多年債務國トシテ其結果海外ニ又多額ノ利子ヲ拂ハナケ  
レバナラヌ運命ニ居リマス、旁々以テ我財政ノ基礎ヲシテ不安ナラシメマスルコトハ上下  
共ニ頗ル之ヲ憂慮スル次第デアリマス、因テ私ハ其財政ノ一端ヲ補フタメニ茲ニ輸入品  
ヲ防遏スル政策ヲ講ジタイノガ、一ツノ目的デアリマス

議長大岡育造君議長席ヲ退キ副議長肥原  
利議長(巴藤龍吉)暫時此席ニ著キマス

朝議表(元承龍門) 普持批審三著述マス

○語長(財場前右)書此句ニ至ニ  
○才賀藤吉郎  
○觸逸<sup>ガ</sup>今日ノ讀書ヲ爲シソハ實ニ工業政策其宜シキヲ得タメテア

レバ英吉利ガ從來製造工業ニ付テノ先進國デアル、英吉利ノ「ネットホール」ト云フ或ル

會社が多年木挽子ヲ造ツテ世界ノ信用ヲ博シタ、其「ネットホール」ノ會社ノ造ツタ木挽

子ト同シ寸法ノモノガ日本ニ來レバ「クロス」五十錢モスル、是ト同等ノ品物ガ獨逸テ造

ソレ故ニ世界アハ——世界デ信用ノアル「ネットホール」ニ向シテオ前ノ方モ獨逸ノ如ク相當ノ値段ノモノヲ造ツタラバ、ドウカト云フコトヲ屢々得意先カラ注文ヲシマシテモ英吉利ハ廉イ物が欲シケレバ、獨逸ノ物ヲ御買ヒナサイ、高イ物が好ケレバ私ノ物ヲ買ウテ下サトイト云フコトヲ多年主張シテ居リマシタガ、遂ニ近來獨逸ニ打勝ツコトガ出來ズシテ、獨逸製ノ「ネットホール」ト云フモノヲ造出シタヤウナ譯ニナシテ居リマス、其代價ハ獨逸ト同ジ代價ヲ供給スルコトニナリマシタ、是等ハ英吉利ト雖モ遂ニ獨逸ノ工業政策ニ負ケタンデアラウト思フノロデス、又我國デ造リマスルトコロノ此日本酒ノ如キ日本酒ト云フ名ノ下ニ其原料ノ大部分ハ獨逸ノ「バールク」ヲ使シテ居ル、實ニ是等モ日本ハ獨逸ノ工業ニ壓セラレテ居ルノデアリマス、此ノ如キ例ハ澤山アリマスガ、又米國ノ現時ノ富ハ實ニ工業ノ發達ニ大原因ヲ爲シテ居ルト思フノロデアリマス、今日ヨリ二十五六年以前ハ米國ハ諸機械ハ皆歐羅巴ヨリ輸入致シマシタガ、一十五六年後ハ年々歲々世界ニ向シテ輸出スル國トナリマシタ、我國ノ今日ノ工業上ノ學識、技能、是等ノ點ハ日々進歩シテ大見ルベキモノガアリマスルニ拘ラズ、國民一般ハヤハリ歐米ノ製品ニ重キ信用ヲ拂シテ、内地ノ製造品ヲ輕視スルコトハ殆ド先天的ノ習慣トナシテ居リマス、是等ハ頗ル我國ノ產業上慨嘆スベキコトデアラウト自分ハ考ヘルノデアリマス、是等ノ先入主トナッタル原因カラシテ益々輸入ヲ助長致シマシタ、年々歲々此輸入超過ト云フコトヲ見ルヤウナ譯アリマスカラ、私ハ是ニ付テ大ニ諸君ト共ニ此憂ヲ分子タイト思フノロデアリマス、第一質問致シマスル趣意ハ「鐵道電氣瓦斯ノ如キ特許ヲ要スル事業ノ需用品ハ一切内地製造品ヲ以テ供給セシムヘキ方法ヲ採ルコトハ我邦現下ノ急務ナリト信ス」輸入品防遏ノ方法モ種々ゴザイマセウガ、私ハムツカシイ、大言壯論ヲ致スノロデガザイマセヌ、出来易イ、實行シ易イモノカラ漸次其目的ヲ達シタイト思ヒマス、即子此鐵道事業或ハ電氣事業、瓦斯事業ノ如キ、特ニ監督官廳ノ許可又ハ特許ヲ要スル事業、或ハ官省が自ラ經營スルトコロノ事業、即チ鐵道ニアリ、其他機械其他ノ材料ヲ利用スベキ事業、是等ノ事業ニ向シテ出來得ルダケ内地ノ製造品ヲ使用スルト云フ趣意ヲ以テ致シタインデアル、官省モ自ラ此方針ヲ執リ、國民モ一般ニ此方針ヲ執リマシタラバ、幾分カ以テ或ハ此輸入ヲ防遏スルコトが出來ヤウト考ヘテ居リマス、昨年ノ輸入品中諸機械ヲ輸入シマシタ高ガ、一千六百七万餘圓ニナシテ居リマスガ、其他電話、電氣用ノ「ケーブル」鐵道鐵橋用ノ材料、機關車、車臺、鐵管、是等ノモノヲ合計シマスルト、約七千五百万圓カラニ達シテ居リマス、テ政府ガ今日マテ爲シテ居ルトコロノ事業ノ多クハ、ヤハリ所謂舶來品ナルモノヲ使ヒ、又一般國民が爲ストコロノ事業ニモ多ク此舶來品ナルモノヲ使シテ居リマスルガ、茲ニ米國ノ一例ヲ舉ゲテ見マスレバ、先年亞米利加が比律賓群島ヲ手に入レマシタ際ニ於テ、大平洋ニ海底電線ヲ敷設スルニ當シテ、從來ハ亞米利加ニ於テ海底電信線ナドハ製造が出來ナカツタニ拘ラズ、亞米利加製ノ電線ヲ使用セヨ、斯ル條件命令ヲ發シテ許用スルニ付テ費用が多大ニ要ルナラバ軍艦ヲ貸シテヤツテモ宜トイト位、亞米利加政府可スルサウテアリマス、然ルニ我國ハ曩ニモ申シタ通り臣民共ニ輸入品ヲ喜ブノロデアリマス、殊ニ此民間ノ事業ヲ政府ノ役人ガ検査ニ參リマスト、心ナキ下級ノ検査官ナドハ舶來品ナラバ百ノ程度ニ試験スベキモノノデモ、之ヲ九十年程度ニ試験シテ安心シテ居ル、若シ之ヲ日本製ト云フナラバ、百ノ程度ニ試験スベキモノヲ百以上ニ試験シテ、尙之ニ不

安ノ念ヲ懷イテ居ルヤウナコトガアルノデアリマス、從來内地製ハ頗ル粗造ナモノモ澤山オザイマシタガ、近來ハ學術共ニ進歩致シマシテ、頗ル完全ナモノガ、追ニ出來テ參リマシタ、内國ニ製造サレル品ヲ以テ内國ノ事業ニ充テルコトハ餘り困難テナクナシタノアリマス、既ニ諸君モ過日横須賀ノ造船所ニ往シテ御覽ニナリマシタ通り、鉛ノ河内艦ハ二万八百噸アリマスガ、其中材料ハ約八割日本製ヲ用井タト言ヒマス、其前ニ建造サレタ云フコトハ明カニナシテ居ラウト思フテス、本員等モ大ニ之ヲ見テ喜ンダ一人デゴザイマスガ、借マダ其中ニ大分研究スベキ餘地ガ残シテ居リマス、御覽ニナリマシタ通り小サナ電動機ハ皆内地品造リマスガ、肝腎ナ發電所ニ往シテ見レバ、盡ク外國品ヲ使シテ居ル、カラ澤山ニ使シテ居リマス、之ヲ以テ見マシテモ内國製品ア追ミ總テノコトニ用ガ足スト云フコトハ明カニナシテ居ラウト思フテス、本員等モ大ニ之ヲ見テ喜ンダ一人デゴザイマスガ、借マダ其中ニ大分研究スベキ餘地ガ残シテ居リマス、河内ハ薩摩ヨリ大キシテ、而モ内地ノ材料ヲ使シテコトガ一割割一步ニナシテ居リマス、河内ハ薩摩艦ハ一万九千三百五十噸アリマシテ、内國製ノ材料ヲ用井タト言ヒマシタ通り、鉛ノ河内艦ハ二万八百噸アリマスガ、其中材科ハ約八割日本製ヲ用井タト言ヒマス、其前ニ建造サレタトコロノ薩摩艦ハ一万九千三百五十噸アリマシテ、内國製ノ材料ヲ用井タト言ヒマシタ通り、鉛ノ河内艦ハ二万八百噸アリマスガ、其中材科ハ約八割日本製ヲ用井タト言ヒマス、其前ニ建造サレタカラ澤山ニ使シテ居リマス、之ヲ以テ見マシテモ内國製品ア追ミ總テノコトニ用ガ足スト云フコトハ明カニナシテ居ラウト思フテス、本員等モ大ニ之ヲ見テ喜ンダ一人デゴザイマスガ、借マダ其中ニ大分研究スベキ餘地ガ残シテ居リマス、御覽ニナリマシタ通り小サナ電動機ハ皆内地品造リマスガ、肝腎ナ發電所ニ往シテ見レバ、盡ク外國品ヲ使シテ居ル、而モ其電氣方式ハ依然トシテ直流電氣ノ方式ヲ守シテ居ル、無線電信ハ固ヨリ高流電氣デナケレハイケマセヌガ、其他高流電氣ヲ使用レバマダ簡便ニ出來ルモノガアラウト本員ハ考ヘマシテ、當局者ニ就ニ二三御尋ヲ致シマシタレドモ、當局者ハマダ研究ニナシテ居ラスヤウデアリマシテ、餘程以前ノ時代ニ於テ總テノ軍艦ニ施設シクトコロノ同様方式ノ直流電氣式ヲ用井ア居ルト云フコトハ又是本員が頗ル滿足ノ出來ヌ次第ニアリマスカラ、内地品ヲ使シテモ十分安心シテ其使用ノ途ニ充テルコトガ出來ヤウト思フテ參リマシタガ、此地下線モ或ハ電話ニ地下線モ同シコトス、是等ハ殆ド總テガ輸入品ニナシテ居リマスガ、近來其製造會社ニ於テハ是等モ完全ナルモノガ、造出サレタノアリマスカラ、内地品ヲ使シテモ十分安心シテ其使用ノ途ニ充テルコトガ出來ヤウト思フニモ内地品ヲ使用セヨト云フ特別ノ命令カ或ハ條件ヲ附シテ金、内地製品盛ナラシムノデアリマス、内地ノ工業ハ學術ト技術ト共ニ斯ノ如ク進歩シテ參リマシタガ、今一段是ニ保護ト獎勵ヲ加ヘテ更ニ一倍ノ進歩ヲサスコトガ曰下ノ急務アラト思フノロデス、ソレ故ニ政府ハ政府自ラ爲ストコロノ官署ノ事業ニ内地ノ製造品ヲ用井、又民間ノ事業ニモ内地品ヲ使用セヨト云フ特別ノ命令カ或ハ條件ヲ附シテ金、内地製品盛ナラシムルコトガ必要アラウト思フノロデアリマス、テ勞、是ガ盛ニナリマスレバ、輸入品ノ防遏モ出來ルコトアリマスカラ、政府ハ是等ニ向シテ極メテ必要ナコト、シテ内地製品ヲ多ク使用ヒ、又民間事業ニモ之ヲ使ハシムルノ意思有リヤ否ヤト云フコトガ本員ノ第一問アリマス、第二問ハ「畜々輸入品防止ノ消極的施設ノミナラス進シテ支那方面一切ノ需用ニ應スベキ自覺竝ニ實際ノ設備ヲ要スルモノト信ス」既ニ内國品ガ完全ニ出來マシタ以上ハ此地勢上支那ニ對シテハ列國ニ比較シテ最も優越ノ地位ヲ占メテ居ル我邦ニアリマスカラ、大ニ支那ヲ指導啓發シテ彼ニ向シテ物質的文明ノ品ヲ供給シナケレバナラヌト信ズルノデアリマス、政府ハ之ヲ保護獎勵スル意思ガアルカドウカト云フノガ此趣意ニアリマス、一例ヲ申シマスレバ、我國ニ近來輕便鐵道法ガ許サレテ、小サナ輕便鐵道ガ諸方ニ起リマシタガ、此機關車ト云フモノハ多ク獨逸カラ輸入サレテ居ル、何故ニ是ガ獨逸カラ輸入サレルカト言ヒマスト、獨逸ノ政府ハ機關車一臺輸出スレバ、之ニ對シテ幾許カノ保護ヲシテ居ル、ソレ故ニ各國ハ皆値段ノ競争ニ於テ獨逸ニ負ケルノデアリマス、我政府ハ支那ニ向シテ内地ノ機械ヲ輸出スル場合ニハ此ノ如キ覺悟ガアルカ否カト云フコトが第一ノ問アリマス、第三ノ質問ハ「我邦機械及材料ノ製造工業ヲ發達セシムルノ目的ヲ以テ特種金融機關ノ組織ヲ爲ス意思ナキヤ」我邦ノ製造工業家ノ多くハ資本ニ乏シノデアリマス、國家が財政ニ乏シト同シク工業家ハ頗ル資本ニ乏シノデアリマス、且此工業ト申スモノハ資本ノ運用上實ニ多大ノ苦勞ヲスルノデアリマス、未

ダ工業經濟上ノ金融機關ノ完全ニナツテ居ラナイノハ頗ル遺憾トシテ居リマス、明治十四年末ノ銀行ノ總資本金ヲ見マスベ、七億四千七百十九万圓ト云フコトニナツテ

居リマスケレドモ、此等ハ多クハ商業資本ニ使用サレ、又其一部ハ不動產資本ニ使用サレテ居シテ、工業資本ト云フモノが極メテ少ナイモノデ、其數ハ明カニナツテ居リマセヌ、又勸業銀行ガ貸出シテ居ルトコロノ總額ハ一億三千三百五十七万圓餘トナツテ居リマスケレドモ、四十二年ノ末ニ於テ製造工業專用ニ貸出シタモノハ僅ニ三千四百四十九万圓シカニナツテ居リマセヌ、日本興業銀行ハ三千九百七十五万圓ノ貸出ヲシテ居リマスケレドモ、是亦工業資本ニ向テ幾ラ貸出シテアルカト云フコトハ不明デアリマス、此ノ如ク製造工業ト云フモノニ重キ位置カレテ居ラナイ、然ルニ製造工業ハ一旦資本ヲ投ズレバ其資本ガ現金ニ變ルマノ間ハ頗ル技術上ノ苦心ヲ要シ、又其物品販賣上ニ苦心ヲ要シ其間ニ於テ幾多ノ日子ヲ費サナケレバ元ノ金ニ變シテ來ナイノデアリマス、我邦ノ製造家ハ資本ヲ得ルニ急ニシテ、而モ是ガ不便利ナルガタメニ或ハ一面製品ノ粗製ニ流レル虞モナイコトハナインオデアリマス、頗ル此等ハ本員ハ遺憾トスルトコロデアリマスガ、近ク大坂ノ某銀行ハ此等ノ點ヲ憂ヘテ、商工業家ニ資本ヲ流通スル目的ヲ以テ五百万圓ノ増資ヲシタサウテアリマス、此ノ如キ計畫が續々現レテ參リマスコトハ、製造工業家ノ最モ喜ブトコロデアリマシテ、從ツテ安心シテ業務ニ從事スルコトガ出來、進ンテ技術モ精巧ニナリ、製品モ亦自ラ巧妙ナモノが出來ルヤウニナルデアラウト思ヒマスガ、併ナガラ現今我邦ノ工業界ニ對シテハ以上ノ如キ小資本ニアツテハ到底満足ノ出來ナイモノニアリマス故ニ、政府ハ特種ノ金融機關ヲ組織スルカ、又ハ現在ノ特種銀行ヲシテ更ニ此工業經濟上資金流通ノ方法ヲ講シテ我邦製造工業ノ發達ヲ大ナラシムルノ意有ルヤ否ヤ、是ガ第二問アリマス、第四問ハ「官營製鐵所ハ五十磅以下ノ『レール』製造ヲ見合セシ理由如何」四十四年ノ我邦ノ軌道ノ輸入額ハ五百五十万三千圓ニナツテ居リマスガ、今輕便鐵道法が實施サレマシテ以來、今日マテ鐵道ヲ計畫サレテ居ルモノ、中官有線ヲ除キマシテモ、尙一千九百二十二哩アリマス、此輕便鐵道ニ要スル軌道ヲ三十磅ノ軌道ヲ使用スルトマシテモ、其軌道代ノミデ約一億一千六百八十八万圓ヲ要スル譯アリマス、其他國有鐵道ニ使用スルトコロノ軌道代ヲ合セマシタラバ、實ニ多大ノ額ニ上ルノアリマス、而シテ國有ノモノハ假ニ製鐵所ニ於テ完全ニ製作スル致シマシテモ、此一千九百二十二哩アリマス、

テ居ラナイノデアリマス、製鐵所ハ前年マテハ五十磅以下ノ軌道ヲ製造致シマシタニ拘ラズ、一兩年前ヨリ之ヲ中止致シマシタ、輕便鐵道ハ國家が利子ヲ補給シテマデモ其施設ノ完全ナラシコトヲ助ケテ居ルニ拘ラズ、由來製鐵所ハ國費ヲ年々損失シツ、尙此需用ニ應ズルコト能ハズシテ、徒ニ輸入ノ助長セシムルト云フコトハ實ニ國家財政上當ヲ得タコトデナカフウト自分ハ信ズルノデアリマス、眼前既ニ一億圓以上ノ需用ガアルニ拘ラズ、五十磅以下ノ軌道ヲ何故ニ使用セザルカト云フノガ本員ノ第四問デス、テ以上ノ政策ニシテ當ラ得マシタナラバ、我國財政基礎ノ幾分ヲ安固ナラシムル最モ捷徑アラウト信ジマシタ故ニ、貴重ノ時間ヲ費シテ此質問ヲ提出致シマシタ次第アリマス、之ニ對シ満足ナ答辯ヲ得マシタラ、本員ハ誠ニ満足ニ存シマス(拍手起立)

○副議長(肥塚龍君) 質問第五、鐵政策ニ關スル質問演説ハ武藤金吉君ヨリ之ヲ明日ニ延期シタ、斯ウ云フ申出ガアリマスガ、御異議アリマセヌカ(異議ナシト呼フ者アリ)

○副議長(肥塚龍君) 然フバ是ハ延期スルコトニ致シマス、是ヨリ日程第一、擔保附社債信託法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス

第一 擔保附社債信託法中改正法律案(政府提出) 第一讀會  
○政府委員橋本圭三郎君登壇

○政府委員(橋本圭三郎君) 擔保附社債信託法ノ第四條ニ「社債ニ附スルコトヲ得ヘキ物上擔保ハ左ニ掲クモノニ限ル」ト云フコトニナツテ居リマシテ、此輕便鐵道ガ入ッテ居ラヌノデアリマス、ソレテ此丁度今オ賀君ノ御話ニナツテ輕便鐵道ガ段々出來テ参リマスニ依シテ、此輕便鐵道モ「軌道抵當」ト云フ第八ノ次ヘ加ヘマシテ、便利ヲ圖リタ

イト云フ極ク簡単ナ案アリマストウカ御協賛ヲ願ヒマス  
(副議長肥塚龍君讀長席ヲ退キ、議長大岡育造君復席ス)  
○議長(大岡育造君) 日程第一ニ移リマス  
(副議長肥塚龍君讀長席ヲ退キ、議長大岡育造君復席ス)  
○議長(大岡育造君) 第一右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉  
○恆松隆慶君 此案ハ議長指名九名ノ委員ニ付託セラレントラミマス  
○議長(大岡育造君) 恒松君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ  
(「異議ナシト呼フ者アリ」)

○議長(大岡育造君) 御異議が無ケレバ本案ハ議長指名九名ノ委員ニ付託スルコトニ決シマシタ、日程第二、鐵道又ハ船舶ト露國ノ鐵道又ハ船舶トノ貨物ノ聯絡運送ニ關スル法律案第一讀會ヲ開キマス  
第三 鐵道又ハ船舶ト露國ノ鐵道又ハ船舶トノ貨物ノ聯絡運送ニ關スル法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會  
鐵道又ハ船舶ト露國ノ鐵道又ハ船舶トノ貨物ノ聯絡運送ニ關スル法律案第一讀會  
法律案

第一條 鐵道又ハ船舶カ主務大臣ノ認可ヲ得タル契約ニ依リ露國ノ鐵道又

ハ船舶ト物品ノ聯絡運送ヲ爲ス場合ニ於テハ本法ニ依ル  
第二條 鐵道營業法第五條乃至第九條ノ規定ハ船舶ニ之ヲ準用ス但シ運送

品ノ發送ハ運送申込ノ順序ニ依リテ之ヲ爲スヘシ  
第三條 運送契約ハ鐵道又ハ船舶カ運送ヲ爲スコトヲ約シ荷送人ヨリ運送品及運送状ヲ受取ルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス  
鐵道又ハ船舶カ運送契約ヲ爲シタルトキハ荷送人ニ運送狀ノ副狀ヲ交付スヘシ

運送狀及運送狀ノ副狀ニ記載スヘキ事項及其ノ記載ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
第四條 運送狀、貨物引換證及船荷證券ニ關スル商法ノ規定ハ之ヲ適用セス

**第五條** 鐵道又ハ船舶ノ使用人ハ運送状ノ作成ニ付テハ荷送人ノ代理人ト  
爲ルコトヲ得

**第六條** 特定ノ者ニ對シ運送賃ノ割引ヲ爲特約ハ之ヲ無効トス但シ總テ  
ノ鐵道及船舶ノ合意ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

**第七條** 運送品及運送状ヲ受取リタルトキハ荷受人ハ運送状ニ記載シタル  
金額ヲ鐵道又ハ船舶ニ支拂フ義務ヲ負フ

前項ノ支拂ハ荷送人竝總テノ鐵道及船舶ニ對シテ之ヲ爲シタルモノトス  
鐵道又ハ船舶ハ其ノ責任ニ關シ特約ヲ爲スコトヲ要セス但シ運送状ノ副狀ヲ紛失シタル場合ニ於テ鐵道又ハ船舶ノ定ム

**第八條** 鐵道又ハ船舶ハ運送品ヲ受取リタル旨ヲ記載シタル運送状ノ副狀  
及運送状ニ記載シタル金額ト引換ニ非サレハ運送品ヲ荷受人ニ引渡スコト  
ル規程ニ依リ荷受人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

**第九條** 運送品引渡ニ關スル手續ニ付テハ鐵道又ハ船舶ノ定ムル規程ニ依  
ル規程ニ依リ荷受人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

**第十條** 運送品ノ全部若ハ一部ノ滅失又ハ毀損ニ關シテハ鐵道又ハ船舶ハ  
直ニ運送品ノ狀態竝損害ノ原因、額及發生時期ヲ證スル書面ヲ作成スヘ  
シ運送契約ニ基キ運送品ニ付權利ヲ有スル者カ運送品ノ全部若ハ一部ノ  
滅失又ハ毀損アルコトヲ主張スルトキ亦同シ

前項ノ書面ニ記載シタル事項ハ請求ニ因リ利害關係人ニ之ヲ通知スヘシ  
第十一條 荷受人ハ損害ノ調査ノ完了スル迄運送品ノ受取ヲ拒ムコトヲ得

**第十二條** 運送状ニ掲ケタル物品中不足アルトキハ荷受人ハ運送品受取ノ  
際鐵道又ハ船舶ニ對シ之ヲ證スル書面ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

**第十三條** 鐵道又ハ船舶ノ責任ハ荷受人カ運送品ヲ受取り且運送賃其ノ他  
ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ消滅ス但シ左ノ各號ノニ該當スル場合ハ此  
ノ限ニ在ラス

一 荷受人カ鐵道又ハ船舶ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リテ損害ノ生シ  
タルコトヲ證明シタルトキ

二 荷受人カ運送品ヲ受取リタル日ヨリ十四日內ニ第十六條第二項ノ鐵  
道又ハ船舶ノニ對シ延著ニ關スル損害賠償ノ請求ヲ爲シタルトキ

三 荷受人カ第十條第一項ノ規定ニ依リテ證明セラレタル運送品ノ一部  
滅失又ハ毀損ニ付損害賠償ノ請求ヲ爲シタルトキ

四 鐵道又ハ船舶カ第十條第一項ノ規定ニ依リ爲スヘキ調査ヲ其ノ過失  
ニ因リ爲ササリシ運送品ノ一部滅失又ハ毀損ニ付荷受人カ損害賠償  
ノ請求ヲ爲シタルトキ

五 荷受人カ直ニ發見スルコト能ハサル運送品ノ一部滅失又ハ毀損ニ付  
損害賠償ノ請求ヲ爲シタルトキ但シ運送品ヲ受取リタル日ヨリ十四  
日內ニ鐵道又ハ船舶ニ對シ一部滅失又ハ毀損ノ通知ヲ發シタルトキ  
ニ限ル

前項ノ請求ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

**第十四條** 運送品カ到達驛又ハ到達港ニ達シタル後稅關又ハ保稅倉庫ニ之  
ヲ引渡シタルトキハ其ノ後ニ生シタル運送品ノ滅失又ハ毀損ニ因ル損害  
ニ付テハ鐵道又ハ船舶ハ其ノ責任ニ關シ特約ヲ爲スコトヲ得

前項ノ特約ハ荷受人ニ對シ及荷受人ノ爲ニ其ノ效力ヲ生ス  
ムル所ニ依リ私設倉庫ニ引渡シタルトキ亦同シ

**第十五條** 惡意又ハ重大ナル過失ニ因ラサル運送品ノ滅失又ハ毀損又ハ延著  
ニ付テハ鐵道又ハ船舶ハ其ノ責任ニ關シ特約ヲ爲スコトヲ得

前項ノ特約ハ荷受人ニ對シ及荷受人ノ爲ニ其ノ效力ヲ生ス  
ムル所ニ依リ私設倉庫ニ引渡シタルトキ亦同シ

**第十六條** 運送契約ヲ爲シタル鐵道又ハ船舶竝運送狀ト共ニ運送品ノ引繼  
タル鐵道若ハ船舶ノニ對シテノミ之ヲ提起スルコトヲ得

第一項ノ損害賠償ノ請求ハ本訴カ同一ノ運送契約ニ基ク場合ニ於テハ反  
訴又ハ相殺ノ抗辯ニ依リ前項以外ノ鐵道又ハ船舶ニ對シ之ヲ主張スルコ  
トヲ得

**第十七條** 引渡期間滿了後三十日內ニ運送品ノ引渡ナキトキハ運送品ハ滅  
失シタルモノト推定ス

**第十八條** 鐵道又ハ船舶カ運送状ノ副狀ノ呈示ヲ荷送人ニ請求セスシテ其  
ノ指圖ニ從ヒタルトキハ鐵道又ハ船舶ハ運送状ノ副狀ヲ所持スル荷受人  
ニ對シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

**第十九條** 減失シタル運送品ニ對スル賠償金ヲ受取リタル者其ノ受取證書  
中ニ運送品カ引渡期間滿了後四月内ニ發見セラレタル場合ニ於テ直ニ鐵  
道又ハ船舶ヨリ通知ヲ受クヘキ旨ヲ記載シタルトキハ其ノ通知ヲ受クル  
權利ヲ有ス鐵道又ハ船舶ハ此ノ記載ヲ證スル書面ヲ交付スヘシ

運送品カ發見セラレタルトキハ前項ノ權利者ハ賠償金ヲ返還シテ發送驛  
若ハ發送港又ハ到達驛若ハ到達港ニ於テ無償ニテ運送品ヲ引渡スヘキコ  
トヲ請求スルコトヲ得但シ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日ヲ經過シ  
タルトキハ此ノ限ニ在ラス

**第二十條** 鐵道又ハ船舶ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ生シタル運送品ノ  
滅失、毀損又ハ延著ニ關スル損害賠償ノ請求權ハ三年ヲ經過シタルトキ  
ハ時效ニ因リテ消滅ス

**第二十一條** 損害賠償ノ請求權ノ消滅時效ハ運送品ノ一部滅失又ハ毀損ノ  
場合ニ於テハ引渡ノ日ヨリ、運送品ノ全部滅失又ハ延著ノ場合ニ於テハ  
引渡期間滿了ノ日ヨリ進行ス

**第二十二條** 損害賠償ノ請求權ノ消滅時效ハ運送品ノ一部滅失又ハ毀損ノ  
料金ノ支拂ノ日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

割增金徵收ノ請求權ハ運送費支拂ノ日ヨリ、支拂フヘキ運送費ナキトキ  
前項ノ請求權ハ運送費支拂ノ日ヨリ、支拂フヘキ運送費ナキトキ

ハ運送契約ヲ爲シタル日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

運送費、附帶料金又ハ割増金ノ過徴額返還ノ請求權ハ過徴額支拂ノ日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

第二十三條 鐵道又ハ船舶ニ對スル運送費又ハ附帶料金ノ過徴額返還ノ請

求ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ書面ニ記載スヘキ事項及之ニ添附スヘキ書類ハ鐵道又ハ船舶ノ定期規程ニ依ル

第二十四條 運送費若ハ附帶料金ノ不足額ノ追徴又ハ其ノ過徴額ノ返還ノ請求權、割増金ノ徵收又ハ返還ノ請求權及運送品ノ滅失、毀損又ハ延著ニ關スル損害賠償ノ請求權ニ付テハ書面ヲ以テ請求ヲ爲シタル時ヨリ時效ノ進行ヲ停止ス

前項ノ請求ヲ受ケタル者カ書面ヲ以テ拒絕ノ旨ヲ通知シ且請求書ニ添附シタル書類ヲ返還シタルトキハ其ノ通知及返還ノ時ヨリ殘餘期間ニ付時效ハ進行ス再請求ヲ爲スモ時效ノ進行ヲ停止セス

第二十五條 鐵道又ハ船舶ニ對スル損害賠償ノ請求權ニ付テハ民法第百四十五條及第五百八條ノ規定ヲ適用セス

第二十六條 運送契約ニ基ク裁判上ノ請求ニシテ鐵道又ハ船舶ニ對スルモノハ荷送人又ハ荷受け人ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 聯絡運送ニ關スル訴訟ニ付テハ民事訴訟法第八十八條第一項ノ規定ヲ適用セス

第二十八條 鐵道又ハ船舶カ他ノ鐵道又ハ船舶ヲ共同被告トシ聯絡運送ニ基ク損害賠償ノ求償ノ訴ヲ提起シタルトキハ裁判所ハ同一ノ判決ヲ以テ裁判ヲ爲スヘシ

第二十九條 聯絡運送ニ關シテ露國裁判所ノ爲シタル判決ノ執行判決ニ付テハ民事訴訟法第五百五十五條第二項第五號ノ規定ヲ適用セス

第三十條 第八條但書、第九條及第二十二條第二項ノ規程ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ且之ヲ告示スヘシ

第三十一條 本法ニ於テ裁判所ト稱スルハ裁判權ヲ行フ官廳ヲ謂フ

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○議長(大岡育造君) 日程第四、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ移リマス

○恒松隆慶君 本案ハ十分委員會デ說明アルモノト致シマシテ、議長指名十八名ノ委員ニ付託セラレントヲ望ミマス

○議長(大岡育造君) 恒松君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ

○議長(大岡育造君) 御異議がナケレバ恒松君ノ動議ノ如ク、十八名ノ委員議長指

名ニ決シマシタ、日程第五、樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案、第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長井上角五郎君

第五 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律 第一讀會ノ續(委員長)

案(政府提出)

報告

○井上角五郎君 諸君、本法律案ハ樺太ニ於ケル石炭鑛區……政府ニ於テ十分ニ調査致シマシタルトコロノ南部、北部、中央部ノ石炭ノ鑛區ノ石炭ヲ競爭入札ニ附シテ、採掘料ヲ徵收シテ、之ニ採掘サスト云フ法律案デゴザイマス、元來樺太ニ於テノ鑛業法ノ施行ハ勅令ヲ以テ之ヲ定メ、之ニ對スル各種ノ條件ハ皆今マテ勅令ヲ以テ定メテ居リマシタガ、今回ハ其様ナコトヲ勅令デヤルヨリハ法律デヤルガ、宣カラウト云フノア、是が出來マシタノデ、其法律案モ極メテ適當ナモノトモ心得マシ、且ハ勅令デヤブテ居ツメモノヲ更メテ、今後法律デ同意ヲ求メテ來マシタモノデゴザイマスカラ、委員會ニ於キマシテハ別ニ異議ナク原案ノ儘可決致シマシシテゴザイマス、此段御報告致シマス

○恒松隆慶君 別ニ議論モナイヤウニ見受ケマスカラ、讀會ヲ省略シテ確定セラレントヲ望ミマス

○議長(大岡育造君) 恒松君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案 確定議

○議長(大岡育造君) 御異議ガナケレバ讀會ヲ省略シテ本案ハ可決確定致シマシタ、日程第六、朝鮮ニ於ケル學校職員ニシテ國庫ヨリ俸給ノ支給ヲ受ケサル文官判任以上ノ者ノ退隱料及遺族扶助料ニ關スル法律案第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長横山金太郎君

○横山金太郎君 諸君、本員ハ本案ニ付テノ委員會ノ經過及結果ヲ報告致シマス、本案ハ頗る簡單デゴザイマスルノミナラズ、會期切迫ノ折柄デゴザイマシタ故ニ、委員會ヲ開キマスルコトハ僅ニ二回ニ止シテ居リマスルケレドモ、併シ審議ハ慎重ニ盡サレタノデゴザイマス、本案ハ恒松代議士ノ叫ハレマシタ如ク、題目ハ甚ダ長クアリマスルガ、要スルニ國家ノ直營卽チ官立デス、又私立デナリ所謂國家ノ直營デナリ、私立デナリ、朝鮮ノ文官判任以上ノ學校職員ニ對シマスル退隱料及遺族扶助料ヲ與フルコトヲ規定スベク政府ヨリ提出サレタ案デアルノデアリマス、案ノ内容ハ明治二十二年以來數回ノ改正ヲ經マシテ、今日現ニ行ハレテ居リマスルトコロノ内地ニ於ケル府縣郡市町長ノ公立ニ係ル學校職員ニ對シマスル退隱料及遺族扶助料ヲ規定セラレタ法律ト同一デアルノデアリ

第六 俸給ノ支給ヲ受ケサル文官判任以上ノ者ノ退隱料及遺族扶助料ニ關スル 第一讀會ノ續(委員長)

法律案(政府提出)

(横山金太郎君登壇)

朝鮮ニ於ケル學校職員ニシテ國庫ヨリ俸給ノ支給ヲ受ケサル文官判任以上ノ者ノ退隱料及遺族扶助料ニ關スル 第一讀會ノ續(委員長)

法律案(政府提出)

マス、故ニ此案が法律トナリマシタ曉ニ於テ、其支配ヲ受ケルトコロノモノハ日韓合併以前ニ在シテ韓國ノ經營ニ係ラテ居リマスル學校ノ職員ト、我帝國ガ在外指定學校トシテ取扱シテ居リマシタ學校ノ職員トデアリマス、就中在外指定學校ノ職員ニ對シマシテハ、既ニ明治三十八年ノ法律ハ十四號ニ依シテ從來本案ト同一待遇ガ與ヘラレツ、アッタモノデアリマス、併シ一朝此日韓ガ合併致シマシテ、日本ノ領土トシテノ朝鮮トナツタ後ニ至シテハ、在外指定學校ト云フ其名稱ヲ尙存シテ、且之ニ對シテ其法律ニ依シテ之ガ給與ヲナスト云フコトハ、自ラ適當ナラザルコトニ歸著スルト云フ理由ガ一ツト、ソレカラ又在來ノ韓國國立學校ノ職員ハ何等此法律ノ保護待遇ヲ受ケタモノデハナイノデアル、テ此ノ如キハ合併後齊シク皇化ニ服シタル新附ノ國ヲ懷ケ、民ヲ柔ケル所以デハナイト云フコトモ一ノ理由トナリ、加フルニ明治四十四年ノ九月ニ勅令ノ二百二十九號ヲ以テ教育令が發布セラレマシタ結果トシテ、朝鮮ニ於ケル教育行政ノ統一が計ラレマシタノモニアリマス、其極彼ト此トノ間ニ取扱ヲ異ニスルト云フコトハ甚ダ理由ノナイコトデアルカ

ヲ、同一ノ法規ノ下ニ同一ノ待遇ヲ與ヘルコトハ、甚ダ適當ナルコトデアル、殊ニ本案ノ如キハ内地ニ於ケル府縣立其他ノ公立學校職員ノ退隱料及遺族扶助料ノ法律ト共ニ、我國ノ教育ノ普及獎勵ヲナス上ニ於テ與シテ力ノアル言ハ甚ダ效能ノアルトコロノモノデアルト云フコトハ疑ノナイコトデアル、委員會ハ即チ以上ノ理由ノ下ニ全會一致ヲ以テ之ヲ可決スルコトニ決定ヲ致シマシタ、此段御報告ニ及ビマス

○恒松隆慶君 本案ヲ讀會ヲ省略シテ確定セラレントラ望ミマス

○議長（大岡育造君） 恒松君動議ニ御異議ハアリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

朝鮮ニ於ケル學校職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケサル  
文官判任以上ノ者ノ退隱料及遺族扶助料ニ關スル法律案 確定議

○議長（大岡育造君） 御異議ナケレバ本案モ讀會ヲ省略シテ可決確定ヲ宣告致シマス、日程第七乃至第九ハ同一委員ニ付託シ關聯シタル議案アリマスカラ一括シテ議題トナシマス、御異議ハアリマセヌカ

○議長（大岡育造君） 恒松君動議ニ付シマス、委員長西谷金藏君

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

日本勸業銀行法中改正法律案（政 第七

第一讀會ノ續（報告）

政府提出）

農工銀行法中改正法律案（政 第八

第一讀會ノ續（報告）

政府提出）

北海道拓殖銀行法中改正法律案（政 第九

第一讀會ノ續（報告）

政府提出）

〔西谷金藏君登壇〕

○西谷金藏君 諸君、唯今議題ニナリマシタ此ニ案ハ何レモ同一ノ委員デゴザイマス、此勸業銀行、農工銀行、拓殖銀行三於テ賣出ストコロノ債券ガ改正商法ニ依レバ一申込書ヲ取ルコトニナシテ居ルノデス、然ルニ此申込書ヲ取ルコトハ雙方共ニ非常ナ繁雜ニシテ不便ヲ感ズルノデアルカラ、之ヲ商法ヨリ取除法ヲ設ケテ從來ノ通り申込

書ヲ徵セズシテ募集スルノ方法ヲ取リタイ、此事ニ付テハ商法ヲ審議サレルトキニ當ラブ、法律取調委員會ニ於テモ特別取除法ヲ設ケルコトハ、議論ガ一致シテ居ルトコロノ問題ニシテ、委員會ハ滿場一致ヲ以テ政府案ニ同意スルコトニ可決致シマシタ、此段御報告申シマス

○恒松隆慶君 本三案ハ一括トシテ議題ト爲シ、唯今委員長ノ報告通り讀會ヲ省略シテ確定セラレントラ望ミマス

○議長（大岡育造君） 恒松君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

日本勸業銀行法中改正法律案 確定議

農工銀行法中改正法律案 確定議

北海道拓殖銀行法中改正法律案 確定議

○議長（大岡育造君） 恒松君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（大岡育造君） 此場合日程ヲ變更シテ追加豫算案及明治四十二年度豫備金支出ノ件外三案ゴザイマス、都合此四案ノ報告ヲ委員長ヨリセラレントラ希望致シマス、引續イテ議題ト致シタ

○議長（大岡育造君） 恒松君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（大岡育造君） 御異議がナケレバニ案トモ委員長報告通り可決確定致シマス――野田卯太郎君

（特第一號）明治四十五年度各特別會計歲入歲出豫算追加案  
(第四號)明治四十四年度歲入歲出總豫算追加案  
(追第一號)豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件  
(第一號)明治四十五年度歲入歲出總豫算追加案  
(第二號)明治四十五年度歲入歲出總豫算追加案  
(特第二號)明治四十五年度特別會計歲入歲出豫算追加案  
(特第三號)明治四十五年度各特別會計歲入歲出豫算追加案

〔野田卯太郎君登壇〕

○野田卯太郎君 是ヨリ豫算委員會ノ經過ヲ報告シマス、明治四十四年度ノ歲入歲出總豫算ノ追加案、第一號同ク四十五年ノ追加案第四號デス、次ガ第一號明治四十五年度歲入歲出總豫算ノ追加案、第一號同ク四十五年ノ追加案デアリマス、特第一號四十五年ノ特別會計ノ歲入歲出ノ追加案デアル、特第一號、特第二號、追第一號、是ハ豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ニ關スル件、是ダケデゴザイマスガ、此案ハ總て必要ナルモノナリトシマシテ、總ノ原案ニ可決致シタ次第デアリマス、尤モ茲ニ申上ゲテ置キマスノハ第二號ト云フ追加案が出テ居リマスガ、是ハ露國ト鐵道及船舶ノ連絡ニ關スル案デアリマシテ、是ハ別ニ法律案が貴族院カラ昨日アタリ回シテ居ルヤウデゴザイマス、法律案が決定シナシタメニ此案ダケハ豫算委員會テ取除ケテ置キマシタカラ、追テ又御報告スル譯デゴザイマセウカラ、ドウカ決定シマシタ分ハ本會ニ於テ滿場一致ノ御贊成アラシコトヲ希望致シ

○議長(大岡育造君) 全部ヲ議題ト致シマス

(「委員長報告通り異議ナシ」と呼フ者アリ)

○議長(大岡育造君) 御異論ハアリマセヌカ

(「ナシ」と呼フ者アリ)

○議長(大岡育造君) 御異論ガナケレバ一括シテ可決確定ヲ宣告致シマス——次ニ

事後承諾モ議事日程變更ニ入ラテ居リマスカ

○恆松隆慶君 無論其積リテ申シマシタ

○野田卯太郎君 尚申上ゲテ置キマスガ、乙號丙號モ第二號ノ中テゴザイマスガ、是

モ原案ノ通リニ可決致シマシタ

○議長(大岡育造君) 總テ報告ノ通リニ可決致シマシタ、御異論ハアリマスマイ

(「異議ナシ」と呼フ者アリ)

○議長(大岡育造君) 御異論モアリマセヌカラ、追加ノ分モ可決シマシタ、明治四十

三年度豫備金支出ノ件外三件承諾ヲ求ムル件、委員長菅原傳君

明治四十三年度豫備金支出ノ件

明治四十三年度豫算外支出ノ件

明治四十三年度特別會計豫備金支出ノ件

明治四十三年度特別會計豫備金外ニ於テ豫

算超過及豫算外支出ノ件

(承諾ヲ求ムル件)

(菅原傳君登壇)

○菅原傳君 明治四十二年度豫備金支出ノ件、外二件ニ對スル特別委員會ノ經過

ト結果ヲ簡單ニ御報告致シマス、特別委員會ハ八回開會致シマシタガ、今概要ヲ申述

ベラバ四十三年度ニ於キマシテ一般會計ニ於テ第一豫備金百万圓、第二豫備金二百

萬圓ヲ支出シマシテ、尙其上ニ國庫剩餘金千二十幾万圓ヲ支出シテアル次第アリマ

ス、特別會計ノ方ニ於キマシテモ豫備金以外ニ巨額ノ剩餘金ヲ支出シテアルノアリマ

ス、是等計數ニ關スルコトハ御手許ニアルトコロノ計算書ニ明記シテアリマスカラ、茲ニ

ハ略シテ置キマス、唯是等巨額ノ支出ニ對シテ一言申上ゲテ置キマスレバ、是等巨額ノ費

用ヲ要シ、且四十三年度ニ於テ關東、東北等ニ大洪水ノアツタメニ支出が多カッタ

ト云フコトガ、殊ニ四十三年度ニ於テ剩餘金ノ支出ノ多イト云フ、一原因ニナツテ居ルノ

アリマス、計數ニ關スルコトハ大體此ノ如キアリマスガ、之ニ對シテ承諾ヲ與ヘルカ、

與ヘスカト云フコトニ付キマレテハ、議論一ソニ岐レタノアリマス、一方ハ承諾ヲ與フベ

カラズ、一方ハ承諾ヲ與フベシ、且承諾ヲ與フベカラズト云フ、議論ハ之ニ附帶シテ豫備

金ヲ増額スベシ、第一豫備金ニ於テ三百万圓、第二豫備金ニ於テ四百万圓、合計豫

備金ニ於テ七百万圓ヲ増加スベシ、承諾ヲ與ヘルト同時ニ此七百万圓ノ豫備金ヲ

増加スベシト云フ意味ヲ以テ論セラレタノアリマス、一方ニ承諾ヲ與フベシト云フ方ニ

於キマシテハ附帶ノ希望ガアツタノアリマス、其希望ハ豫備金以外ニ政府が責任ヲ以

テ支出シタルモノニ對シテハ、次期ノ議會ニ提出シテ承諾ヲ求ムベシ、斯ウ云フ希望ヲ附

帶シテ承諾ヲ與ヘタノアリマス、今此兩方ノ論議セラレタコロニ論據ニ付テ簡單ニ申

上ゲテ見マスレバ、承諾ヲ與フベカラズト云フ人ノ論據ハ、要スルニ違憲デアルト云フノテス、尙少シク足リストコロガアリマスカラ附加ヘテ置キマスガ、此豫備金ニ付テハ別ニ議論ガナカッタノテ、豫備金以外ツマリ剩餘金ニ付テ議論ガアツタノアリマス、少シ訂正シテ置キマス——豫備金以外剩餘金ニ付テ承諾ヲ與フベカラズト云フノハ憲法違反デアル、一體豫算ハ申上ケルマデモナク毎年ノ經費ト云フモノハ豫算デ極ツテ居ルノアル、ソレ以外避クヘカラザルトコロノ豫算ノ不足ハ——豫算外ノ支出ニ付キマシテハ憲法六十條ニ依テ第一、第二ノ豫備金ト云フモノガ設ケラレテアル故ニ、通常ノ豫算ノ外ハ第一、第二豫備金ニ依テ支辨スベキモノアル、其以上他ニ於テ支出ヲ許ス場合ハ憲法七十條ノ公共ノ安全ヲ保持スル云々ト、緊急ノ場合、此七十條ニ依ル外途ハナイノアル、要スルニ第一豫備金、第一豫備金、憲法七十條ノ此三ツノ種類ノモノニ依ルヨリ外ナインアル、剩餘金ヲ政府が支出スル如キハ憲法ヨリ見テモ、會計法ヨリ見テモ、違憲アル故ニ、是ハ承諾ヲ與フベカラズト云フ趣意アリマス、ソレニ關聯シテ特別會計ニ付テモ議論ガアリマシタガ、殊ニ朝鮮ノ特別會計千二百何万圓ト云フコトニ付テハ法規ヲ無視シトコロノ支出アル、又此韓國併合ノ場合ノ百五十万圓ノ機密費ノ如キモ政府ノ説明ヲ以テ満足スルコトハ出來ヌノアル、説明ガ不十分デアル、是等ノ點ニ付テモ不當アルト云フ、要スルニ憲法違反ト云フ點カラシテ承諾ヲ與フベカラズト云フ議論アリマシタ、豫備金ヲ増加スルト云コトニ付テハ歲計ガ一億ノ場合モ、亦今日ノ如ク六億ニモ垂ントスル場合モ、豫備金ガ同ジデアルト云フコトハ道理ニ於テ當前ノ事情カラ言ウテモ許スベカラザルコトア、相當ニ増加スベキモノアル、故ニ七百萬圓ニ増スベキモノアルト云フヤウナ理由デアツノアリマス、是ガ承諾ヲ與フベカラズト云フ議論ノ大要デアリマス、之ニ對シ承諾ヲ與フベシト云フ議論ノ大體ヲ申シテ見マスレバ、承諾ヲ與フベカラズ、憲法違反アルト云フコトハ、必不排スベキ反對スベキ議論デナリ、一應道理ノアル議論アル、サリナガラ剩餘金ニ付テハ議會開設以來幾多ノ論争、幾多ノ議論ニ付テモ變化ガアリ、或ル場合ニ於テハ議會ニ於テ憲法違反ノ決議モアリ、或ル場合ニ於テハ實地問題ヲ取テ可否ヲ決シタコトガアリ、殊ニ第九議會以來ハ寧口實地問題ニ付テ其支出シタコロノ事項ニ付テ可否ヲ決シテ來タヤウナ慣例ニアリ、故ニ不文法的此慣例ニ依シテ處置スルガ相當デアル、唯今議題ニナツテ居ル四十二年度ノ此剩餘金ノ支出ニ付テモ其事柄ニ付テ見ルトキハ必要已ムヲ得ザルトコロノモノニアリ、若シ此剩餘金ヲ支出スルコトアツテハ不可アル、サリナガラ行政官署ニ付テ漫ニ剩餘金ヲ支出セシムルガ如キハ——溢出スルガ如キハ最モ不可ナルモノアル、立法者トシテ監督ヲ嚴重ニシ出來得ルダケ責任支出ト云フガ如キヲ爲サシメザルガ宜ノアル、若シ此剩餘金ヲ溢リ支出スルコトアツテハ不可アル、監督上ノ點カラシテ是マテハ翌々年度ニ剩餘金ノ支出ヲ議會ニ提出シテ是ガ承諾ヲ求メタノアリマシタガ、ソレテハ監督上責任ヲ問フ上ニ於テモ、手ヌルイノアル、翌年——次ノ會期ニ出スト云フコトニスルノガ當然アルト云フノテ、將來ノ希望ヲ附加ヘテ承諾ヲ與ヘルト云フコトニシタノアリマス、尙此豫備金増加ノコト、朝鮮合併ノトキニ機密費ノコトニ就テ承諾ヲ與ヘル議論ニ反對スル承諾ヲ與フル方ノ議論ガアリマシタガ、之ヲ短ク申セハ豫備金ヲ或ル程度マテ増加スルト云フコトハ惡ルイコトアハナイケレドモ、多額ノ豫備金ヲ増加スルト云フコトハ今日ノ財政デ不可ナルモノアル、加之餘リ豫備金ヲ多クシテ當局者ニ勝手

ニ使ハシムルコトハイカヌカラ、餘リ多ク増スコトハイカヌト云フ趣意ガアッタノデアリマス、又朝鮮ノ機密費ト云フコトニ就テモ是ハ祕密會デアル、説明モ不十分トハ申スモノ、一面カラ申セバ朝鮮併合ヲ大兵ヲ動カズシテ、所謂一兵ヲモ劔ラズシテ、アノ併合ヲ爲シタト云フコトヲ見レバ、當局者ノ力ヲ多トシナケレバナラズ、此意味合カラスレバ百五十万圓ト云フ金額モ必ズ多イトノミハ言ヘナイ、承諾ヲ與ヘル方ハ相當デアラウト云フ意味合デアッタノデアリマス、此ノ如ク兩方ノ意見ガアッタノデアリマスルガ、反對ノ方ハ大體ノ根據ハ違憲論ナリト云フ趣意ニ於テ承諾ヲ與ヘズ、承諾ヲ與ヘル方ハ今日マデノ慣例ニ依リ、事業ヲ調査シテ不當デナイカラ承諾ヲ與ヘル、且將來監督ヲ嚴ニスル意味ニ於テ將來ハ次ギノ議會ニ此剩餘金ノ支出ハ承諾ヲ求ムルコトニ爲スペシト云フ意味デ決シタノデアリマス、概要御報告致シマス

(大藏大臣山本達雄君登壇)

○大藏大臣(山本達雄君) 今日此問題ニナリマシタ豫備金以外ノ支出ニ至リマシテ委員會ニ於テ、支出シタ次期ノ議會ニ於テ事後承諾ヲ求ムルが如何ト云フ希望ヲ以テ御決議ニナリマシタ、其當時ニ私ハ政府ノ方針ヲ御答申シタガ、稍、明瞭ヲ缺イテ居ル點ガアリマシタ故ニ、此所ニ改メテ御答ヲ致シマス、豫備金以外ニ於テ政府ノ責任ヲ以テ豫算外支出ヲ爲シマシタ場合ニハ、次期ノ議會ニ之ヲ提出ヲ致シマシテ、事後承諾ヲ求メルヤウニト云フ御希望ニ對シマシテハ出來ルコトナラバ、御希望ニ副フヤウニ致シタイト云フ考ヲ持ツテ居リマス、併ナガラ現行ノ取扱ハ既ニ多年行ヒ來リマシタモノデアッタ云フコトヲ極メテ御答申スコトハ、慎重ニ考慮ナリマス、要スルニ慎重ニ考慮ヲ致シ、十分ニ攻究ヲ盡シマシタ上デ、意見ヲ決定致シタイト考ヘマス、左様御了承アラシコトヲ願ヒマス

○ト部喜太郎君 大藏大臣ニ御尋ラシタイノデアリマス、唯今事後ノ承諾ヲ求メマス時期ニ就テ委員會ニ於ケルトコロノ質問ニ對スル答ヲ明瞭ニサレタノデアリマスガ、其時期ノコトハ姑ク措キマシテ、政府ハ今後ニ於キマシテ憲法並ニ會計法ノ明文ニナイ國庫剩餘金ノ支出ト云フヤウナコトヲ舊來ノ慣例ニ依テ相變ラズ實行ナサルト云フ御考デアルノデアリマセウカ、ドウデアリマセウカ、是ハ簡單ナル質問デアリマスケレドモ、甚ダ大切ナル點デアリマスカラシテ、此際單ニ事後承諾ヲ求ムル時期ニ關スル辯明ノミニアラズシテ、今後モ尙舊來ノ惡慣習ヲ襲踏シテ、憲法違反ノ行爲ヲ敢テ爲サルト云フ御所存デアリマセウカ、ドウデアリマセウカ、此點ニ就テハッキリシタ御答ヲ得テ置キタイノデアリマス

(大藏大臣山本達雄君登壇)

○大藏大臣(山本達雄君) 御答致シマス、政府ハ今日豫算外ノ支出ヲ以テ憲法違反トハ信シテ居ラナイ、ソレカラ又此後ニ至リマシテモ、成ベク此ノ如キコトハ實際ノ上ニ避ケタイト云フ考ヲ持ツテ居リマス、併ナガラ事實實際ニ於テコトニム得ナイコトガアリマスナラバ、ヤハリ今日ノ場合支出スルヨリ外ニ致方ナインデアリマス、御答致シマス

(加藤政之助君登壇)

○加藤政之助君 諸君、本員ハ此問題ヲ否認致シテ、併セテ將來此ノ如キ剩餘金支

出ノ弊害ヲ根絶センコトヲ希望致ストコロノモノニアリマス、此豫算外支出ノ問題ハ諸君ノ御承知ノ通り第一議會以來、今日マデ連年政府ト議會トノ間ニ紛争ヲ重ネタルトコロノ問題ニアリマス、ソレ故ニ之ヲ詳シク諸君ニ此憲法上ノコトヲ御話スルマデモナク、諸君ノ御承知ノトコロデアリマスケレドモ、手續キトシテ其要領ダケハ申上ゲナケレバナラヌト思フノデアリマス、而シテ其豫備費ノ支出ト云フモノハ諸君ノ御承知アラセラレル點ガアリマシタ故ニ、此所ニ改メテ御答ヲ致シマス、豫備金以外ニ於テ政府ノ責任ヲ以テ豫算外支出ヲ爲シマシタ場合ニハ、次期ノ議會ニ之ヲ提出ヲ致シマシテ、事後承諾ヲ求メルヤウニト云フ御希望ニ對シマシテハ出來ルコトナラバ、御希望ニ副フヤウニ致シタイト云フ考ヲ持ツテ居リマス、併ナガラ現行ノ取扱ハ既ニ多年行ヒ來リマシタモノデアッタ云フコトヲ極メテ御答申スコトハ、慎重ニ考慮ナリマス、要スルニ慎重ニ考慮ヲ致シ、十分ニ攻究ヲ盡シマシタ上デ、意見ヲ決定致シタイト考ヘマス、左様御了承アラシコトヲ願ヒマス

○ト部喜太郎君 大藏大臣ニ御尋ラシタイノデアリマス、唯今事後ノ承諾ヲ求メマス時期ニ就テ委員會ニ於ケルトコロノ質問ニ對スル答ヲ明瞭ニサレタノデアリマスガ、其時期ノコトハ姑ク措キマシテ、政府ハ今後ニ於キマシテ憲法並ニ會計法ノ明文ニナイ國庫剩餘金ノ支出ト云フヤウナコトヲ舊來ノ慣例ニ依テ相變ラズ實行ナサルト云フ御考デアルノデアリマセウカ、ドウデアリマセウカ、是ハ簡單ナル質問デアリマスケレドモ、甚ダ大切ナル點デアリマスカラシテ、此際單ニ事後承諾ヲ求ムル時期ニ關スル辯明ノミニアラズシテ、今後モ尙舊來ノ惡慣習ヲ襲踏シテ、憲法違反ノ行爲ヲ敢テ爲サルト云フ御所存デアリマセウカ、ドウデアリマセウカ、此點ニ就テハッキリシタ御答ヲ得テ置キタイノデアリマス

○大藏大臣(山本達雄君) 御答致シマス、政府ハ今日豫算外ノ支出ヲ以テ憲法違反トハ信シテ居ラナイ、ソレカラ又此後ニ至リマシテモ、成ベク此ノ如キコトハ實際ノ上ニ避ケタイト云フ考ヲ持ツテ居リマス、併ナガラ事實實際ニ於テコトニム得ナイコトガアリマスナラバ、ヤハリ今日ノ場合支出スルヨリ外ニ致方ナインデアリマス、御答致シマス

(大藏大臣山本達雄君登壇)

○大藏大臣(山本達雄君) 御答致シマス、政府ハ今日豫算外ノ支出ヲ以テ憲法違反トハ信シテ居ラナイ、ソレカラ又此後ニ至リマシテモ、成ベク此ノ如キコトハ實際ノ上ニ避ケタイト云フ考ヲ持ツテ居リマス、併ナガラ事實實際ニ於テコトニム得ナイコトガアリマスナラバ、ヤハリ今日ノ場合支出スルヨリ外ニ致方ナインデアリマス、御答致シマス

(加藤政之助君登壇)

○加藤政之助君 諸君、本員ハ此問題ヲ否認致シテ、併セテ將來此ノ如キ剩餘金支

必要ノ處分ヲ爲シタキニハ、次ノ議會ニ提出シテ、事後承諾ヲ求メヨト明記シテアル  
ノデアル、是レ憲法ノ命ズルトコロデアル、然ラバ政府ハ此七十條ニ依ツテ處分シタルトコ  
ロノ特別會計ノ朝鮮ノ一千二百何十万圓ト云フコトハ憲法七十條ノ命ズルトコロニ依ツ  
テ、次ノ議會即チ第二十七議會ニ提出シテ、議會ノ承諾ヲ求ムルガ當然ト思ヒマス、然  
ルニ之ヲ爲サズシテ、今期ノ議會ニ之ヲ提出シタノデアル、故ニ是ハ違憲ノ處置デハ  
ナイカト云フコトヲ委員會ニ於テ、政府當局者ニ質問ヲ致シマシタコロガ、當局者ノ申  
スニハ是ハ陛下ニ奏上シテ裁可ヲ仰ギ、憲法六十四條ノ二項ニ依ツテ裁可ヲ與ヘラレ  
タノデアルカラ、ソレ故ニ此六十四條ノ二項ニ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムベシト云フ  
形式ヲ取ツタノデアルト、斯様ナ辯解アリマス、所が是ハ如何ニモ、ドウモ政府ノ辯解ノ  
仕方若シ是ガ六十四條ノ二項ニ依ツテ裁可ヲ仰イダト云フモノニアリマスレバ、私ハ七  
十四條ニ依ツテ處分シタル件ヲ六十四條ノ二項ニ裁可ヲ仰イダト云フコト、是亦其手  
續ヲ誤ダモノニアルト斷言セザルヲ得ナイト思フノニアリマス、斯様ナ次第ニアリマシテ、  
其事後承諾案ハ違憲、違法ノ處置デアルト考ヘマスカラ、吾ミハ之ヲ不當ト決議シテ  
政府ノ反省ヲ促サンコトヲ望ムノデアル、併ナガラ吾ミモ徒ニ政府ト争フ重ネルコトヲ望  
ムトコロノ者デハナイ、出來得ベクンハ此ノ如キ弊害ハ之ヲ根絶センコトヲ希望スルトコロ  
ノ者ニアリマス、而シテ此ノ如キ弊害ヲ根絶スルト云フコトハ、本期ノ議會ノ如キハ最モ  
私ハ時機ヲ得タル場合デアルト考ヘルノデアル、ナゼカト云フト此處ニ列セラル、トコロノ  
政友會ノ諸君ハ、多年吾ミト共ニ此剩餘金支出ヲ以テ或ハ違憲ナリトシ、或ハ違法  
ナリトシテ、時ニ之ヲ否認シ、時ニ政府ニ警告ヲ與ヘタルトコロノ諸君ニアル、故ニ此ノ  
如ク剩餘金ノ支出ヲ政府が濫リニ續ケルト云フコトハ、政友會所屬ノ議員諸君ノ望マ  
ザルトコロニアラウ、而シテ現内閣ハ政友會ノ内閣ト稱シテ居ルノデアル、此ノ如キ場合コ  
ソ此殆ド一十年ニ垂ントスル久シ間政府ト議會トノ間ニ紛争ヲ重ヌタル問題ヲ解決  
シテ、將來此弊害ヲ根絶スルト云フコトハ、殊ニ好機デアルト私ハ考ヘルノデアル、ソレデサ  
ウスルニハ如何ニシタラ宜カラウカ、豫備金ヲ設ケマシタコトハ今ヨリモ十數年前ノコトデ  
アツテ、我帝國ノ歲入歲出トモ僅カ數千萬ニ過ギナカッタトキノ時代ニアリマス、然ルニ今  
ヤ是が五億何千万圓、殆ド六億ニ垂ントスルトコロノ歲出デアル、此場合ニ於テ十數年  
前ニ定メタルトコロノ第一豫備金百万圓、第二豫備金百万圓、此ノ如キ少額ノ金  
ヲ以テ當局者ニ豫算外ノ支出ヲ爲スベカラズト求メテモ、是ハ實際ニ於テハ、或ハ運用  
上無理デハナイカト云フコトヲ吾ミハ考ヘルノデアル、然ラバ此弊害ヲ根絶スルノ途ハドウ  
レバ宣イカト申シマスルト、先づ第一豫備金、第二豫備金ヲ相當ノ程度マデ増加致  
シテ、サウシテ政府ニ將來剩餘金ヲ恣ニ支出スルコトナカラシムルノガ、一番適當ナル此紛  
爭ノ解決方デアルト吾ミハ考ヘルノデアリマス、而シテ先刻委員長ハ此豫備金ノ増加ヲ  
七百万圓ニスルト云フノニアリマス、而シテ諸君、過去ノ政府が剩餘金ヲ支出致  
年ノ間テ日露戰爭ノトキトキ朝鮮合併ノトキトキ、此三箇年ヲ除キマスレバ剩餘金ノ支出  
ノ平均額ハ三百四十万圓ニアリマス、而シテ現在ノ第一豫備金、第二豫備金ハ三百

万圓デアリマス、サウスルト云フ提ニニ加フルニ三百四十萬圓ヲ以テスレバ、此十數年間ノ平均ニ該當シテ居ル譯ニアリマス、故ニ第一豫備金ヲ三百万圓トシ、第二豫備金ヲ四百万圓トスレバ、爾來政府が其責任ヲ重シシテ議會ノ議決シタルトコロノ金額ノ外、分厘モ濫リニ使フベカラザルモノデアルト云フコトノ覺悟ヲ以テ、我財政ノ衝ニ當フレタナラバ、之テ過去剩餘金ヲ支出シタト云フ此弊根ヲ全ク斷ツコトが出來ルノデアラウト吾ミハ考ヘルノデアリマス、而シテ是ニ於テノ一ノ問題ハ、政府ノ當局者モ言ヒマスル、又委員會ニ於テモサウ云フ考ヲ持タレタトコロノ諸君ガアルノデアリマスガ、ソレハ一ノ此弊ヲ根絶スルトコロノ方法デアルニハ違ヒナイ、併ナガラ我財政ノ現況ニ於テハ今日ハ四百万圓ト云フ豫備金ヲ増加スル其財源何レニアルヤ、其財源ガナケレバ出來ヌデハナイカ、斯ウ云フコトヲ言ハレルノデアリマス、所ガ吾ミノ考ヘルトコロニ依レバ此弊ヲ根絶スルト共ニ此財源ヲ作ルコトハサノミ至難ノコトデハナイ、隨分出來得ル事柄デアルト考ヘルノデアル、ソレハ如何ナル方法デアルカト申シマスレバ、過去ニ於テハ全ク豫算不用ニ屬スルトコロノ剩餘金又自然ノ歲入ノ增加ヨリ來タルトコロノ剩餘金、是ハ年々歲々多少アルノデアリマス、殊ニ近キ數年間ニハ巨額ノ剩餘金ガアツタノデアル、此ノ如キ剩餘金ガ財政上ニ存在シテ居レバコソ、當局者ハ過去ノ慣例ニ依シテ不用意ニモ此剩餘金ヲ濫リニ支出スルコトヲ致スノデアリマスル、故ニ斯ノ如キ種類ノ剩餘金ハ將來ニ於テハ我現在帝國ガ負フテ居ルトコロノ巨額ノ公債、此公債ノ償還ノ財源ニ充テルト云フコトニ極メテシマフガ宜カラウト思フ、此ノ如キ剩餘金ハ若シ剩餘金ガアツタナラバ、アツタケノ額ヲ必ズ公債ヲ償還スルトコロノ基金ニ縁入レル——組込ムト云フコトニ一方極メテシマフ、サウ極メテシマフト云フト、此剩餘金が自然ニ公債償還ノ基金ニ回シテ往クカラシテ、今マテ一般會計カラ公債ニ縁入レタトコロノ此金額ガ、ワレガタメニアイテ來ルト云フコトハ、一方ニソレハ不用ニナルト云フコトガ生ズル、故ニ此不用ニナルトコロノ金ヲ以テ此第一豫備金、第二豫備金ノ増加額、即チ四百万圓ヲ作出スト云フコトハ、是ハ極メテ容易ナル話ア、爲シ得ルトコロノ事柄デアルトス様ニ考ヘルノデアリマス、此ノ如キ其財源マデ明カニアルト云フ以上ハ此豫備金ヲ増加シテ、サウシテ過去ノ剩餘金ヲ支出シテ弊害ヲ根絶スルト云フ、吾ミノ所見ニ對シテ反對ヲ試ムル理由ハ寸分ナイコトデアラウト私共ハ考ヘマス、故ニ此剩餘金支出ノ現在ノヤリ方ヲ否認致シテ、而シテ將來之ヲ根絶センガタメニ豫備金ノ増加ヲ主張スルノデアリマス

○齋藤珪次君 諸君、唯今尊敬スルトコロノ加藤君カラ本案否認ノ御議論ヲ承リマシテゴザイマスル、私共ハ即チ委員長報告通り本案ヲ承認致シテ、之ト同時ニ希望ノ條件ヲ抱持スルモノアリマシテ、即チ大藏大臣ノ唯今答辯ヲ致サレマシタコロノ希望ヲ私共ハ持ツテ此案ヲ承認セントスルモノアリマス、加藤サンノ豫備金ヲ設ケテ將來此問題ヲ解決シテ此弊害ヲ根絶セシメントスルコトハ、一應御尤モノ議論ノヤウニ見エマスル、併ナガラ此剩餘金ノ支出即チ豫備金以外ノ支出ト云フコトハ、今日マテノ實例ニ徵シマシテ、トテモ四百万ヤ五百万ダケデ必シモ之が根絶が出來ルト云フノ實例ハナノイテ

アリマスル、一例ヲ以テ御話致シマシテモ此二十四年度ヨリシテ四十三年度ニ至リマスルマデノ間ニ於テ、日露戰爭以外ニ於テモ五百萬、六八百万ヲ支出シテ居ルコトハ幾多アルノテアリマシテ、平均致シマシテマルテ支出ヲセヌコトガ三度アリマシテモ、尙平均シタ額五百七十八万一千幾ラト云フモノガ剩餘金支出ノ平均額ニナシテ居ルノテアリマス、故ニ茲ニ或ル一定ノ豫備費ヲ設ケタカラ、此剩餘金支出ヲ根絶セシムルト云フコトハ、言ノベクシテ事實ニ於テ是ハ容易ニ行ハレナイノデアル若シ之ヲ際限ナキ要求ニ向ッテ之ヲ應ゼントナラバ、豫備費ヲ大ナル額ニ設ケナケレバナラヌノデアッテ、然ルトキニハ是亦一ノ濫費濫出ヲ致サシメルノテアリマスル、即チ豫備費トシテ一旦協賛ヲ與ヘタモノ、支出ハ剩餘金トシテ免ニ角憲法上明記シテ許サレザルモノトノ、此支出ニ於テ政府ノ即チ政府者タルモノ、之ヲ支出スルニ於テ窮屈ナル度合ハ許サレタルモノト、許サレザルモノトニ於テ必ず相違ガアルニ達ヒナイ、故ニ豫備金ヲシテ多カラシムルノハ之ヲ言ヘバ即チ濫費濫出ノ弊ヲ増スノデアッテ、寧ロコレヨリモ此協賛ヲ與ヘシテ置イテ、而シテ之ヲ支出スルニ於テハ責任ノ問題ヲ以テ所謂責任支出ヲ致サシメテ、而シテ之ヲ今日ノ如ク次ノ次ノ議會ニ出スト云フが如キ、此緩漫ナル承認ノ仕方デナク、免ニ角一部剩餘金ヲ支出シタル以上ハ、之ヲ次ノ議會期ノ帝國議會ニ提出セシメテ其責任ヲ問フト云フコトヲスルコトガ全ク時機ニ適シタルモノト吾ミハ信ズルノテアリマスル、憲法上ノ議論ハ加藤サンモ申サレアリマスガ、恐ク滿場ノ諸君モ初期議會以來ノ問題デザイマスカラ、是ハ吾ミ共申ス必要ハナカラウト思フ、又之ニ付テハ適當ナル法律家ノ所論ニ任セテ實例カラシテ吾ミ共ハ立論致シテ居ルノテアリマスガ、加藤サンノ御議論ハ政府ニ向ツテ本案提出ノ理由ヲ聞クト、政府ハ憲法上ノ條規ニ據リタルニモアラズ、會計法ノ明文ニ據リタルニモアラズ、唯慣例ヲ以テ之ヲ支出シタルト云フガ如キハ實ニ違憲、違法ノ處置デアルト絶叫セラレテ居ル、是ハ成程其御議論ハ一期以來是亦繼續シテ居ル問題ニアル、今更此處ニ御聞ヲスル要ハナイノデアル、此議論ヲ併シ政府ヲシテ今日言ハシムルニ至ツタコロノ慣例ヲ作ツタモノハ抑々何時デアッタカ、即チ加藤サンナドモ其内閣ニ就テ内閣ヲ助け、其政府ノ處置ニ同意ヲセラレタトコロノ松隈内閣ニ於テ初メテ此議論ハ起ツテ來タト私ハ記憶シテ居ル、即チ憲法上ノ爭議ハ其場合ニ於テ遂ニ政府議會ノ間ニ一新面目ヲ起シテ即チ憲法上ノ議論ハ御互ニ盡キルコトガナイノデアル、故ニ此承諾問題ニ付テハ憲法ノ問題ヲ避ケテ茲ニ事實問題ニ付テ其當否ヲ攻究シテ而シテ承諾ヲ與ヘルヤウニ致サウト云フコトガ、即チ松隈内閣ノ當時ニ於テ是ハ濫費ヲ致シタノデアル、故ニ是ハ全ク今日カラ見レバ是ガ惡ルイ、私共ハ言フノデナイ、議會ノ進行上憲法ノ解釋ヲ政府ト共ニ常ニ衝突シテ居タ議會が免ニ角政府者ト議會デ茲ニ憲法ノ妥協が出來タノデアル(「憲法ノ妥協ト云フコトガ、即チ松隈内閣ノ當時ニ於テ是ハ濫費ヲ致シタノデアル、何故ナラハ何時マデモ此憲法ノ争フ議會ト政府デヤタトコロガ決スルトコロナカッタノデアル、私共ハ第三議會ニ於テ彼ノ憲法論ニハ同意ヲ表シテヤタモノデアッタノデアルケレドモ、委員會ニ於テ否決シタルトコロノ此違反論ハ本會ニ於テ遂ニ倒レタノデアル即チ違憲ニアラズト本會ハ之ヲ決セラレタノデアル、次ニ於テ又此議論ハ違憲論が勝フ得マシテカラニ遂ニ本會ニ於テ違憲ナリト云フ決議ハ致シタノデアル、併ナガラ之ニ向テ敢テ政府ノ反應ガナカッタノデアル、是ハ第一番ニ於テ即チ第三議會ニ於テハ吾ミハ

此支出ハ違憲ニアラズ、剩餘金支出ハ違憲ニアラズト議會ハ之ヲ容レテ其後ニ於テ違憲ナリト決議シタ先例ガアルが故ニ、兩者ノ議論マダ一致シナイ中ニ、遂ニ兩者トモ此議論ニ疲レテ、第九議會ニ於テ此妥協ハ成立シテ、即チ憲法上ノ議論ハ之ヲ避ケ事實ニ於テ其問題ニ付テ當否ヲ決スルト云フコトノ進行ニナツタノテアリマスル、故ニ今日ノ政府ニト云フノテアル、故ニ追窮ヲスレバ、已ムヲ得ナイ前ニ遡シテ六十四條第二項ニ依ルト明言セザルヲ得ナイカト追窮ヲスレバ、已ムヲ得ナイ前ニ遡シテ六十四條第二項ニ依ルト明言セザルヲ得ナイノ御議論其他憲法ノ御議論ニ付テハ私共ハ敢テ反對シナシノテアル、成ベク政府者ヲシテ責任支出ナル其責任ヲ有效ニ確的ニ之ヲ致サセタノデアル、今マデノ如クニ責任デアルトハ言ヒナガラモ之ヲ翌々年度ニ提出スルガ如キハ、甚ダ緩漫タルモノテアルガ故ニ、茲ニ今回新ニ次期ノ議會ニ於テ之ヲ提出スルト云フコトノ希望ヲ以テ之ヲ通過セシメントスルモノデアル、若モダ、段々御批評ガアルヤウデゴザイマスケレドモ、加藤サンノ御議論ノヤウニシテ、唯豫備費ヲ以テ之ヲ根絶スルト云フ御趣旨ニアッタナラバ、是ハ誠ニ此議論ハ薄弱タルモノテ、モウ直ゲニ翌年ニ於テ若シ大水害ノ如キ、若クハ大事變が起ツテ御覽ナサイ、翌年ニ於テ直グニ其議論ハ破レテシマフノデアル(此時發言スル者アリ)何デスカ

○議長(大岡有造君) 静ニ願ヒマス

○齋藤珪次君 私共ハ何議論デモ鄭重ニ聞イテ居リマスカラ、暫クハ御聽キニナツタラ如何、藏原サント云フ方ハ常ニ馱辯ヲ弄スル方デアルが、モウ少シ慎ンダラ宜シイ(此時發言スル者アリ)下ラストハ何事デアル、人ノ議論ヲ――要スルニ吾ミハ今日ニ於テ此剩餘金支出ヲ認ムルト云フコトハ相當ナルコト、信シテ居ルノデアル、然ルトコロガ此憲法論ヲナサルニモ拘ラズ論者ノ一人ハ其憲法論デ大體之ヲ否認シテ置キナガラ、尙且小サイ問題ニ之ヲ否認スルコトバ例ニ舉ゲテ居ルノデアル、憲法論デ否認スルナラバ、ソレデハ不十分デアル、而シテ朝鮮ノ合併ニ對シテ支出シタルトコロノ機密費が不當デアル、或ハ此合併ニ付テノ費用が不當デアルト云フ如キ議論ヲ致シマスケレドモ、是等ニ付テハ私共ハ前ニ申ス如ク事實ニ於テ是ガ當不當ヲ認メルノ考タルガ故ニ、是モ相當ト認ムルノデアル、何トナレバ朝鮮ノ合併ニ對シテ支出シタルトコロノ機密費が不當デアル、高イカモ知レヌ、多額ト云ヘバ多額ト言ハレルカモ知レヌ、併ナガラ一度之ヲ實行シタラバ如何デアル、免ニ角二千万ノ民衆ヲ有シテ居ル朝鮮國ノ併合ヲシテ一兵ニ劍ラズ、砲火ヲ發スルコトナクシテ、此併合ヲ實行シタニ於テハ、百五十万圓ノ犠牲ハ決シテ高イカモ知レヌ、多額ト云ヘバ多額ト言ハレルカモ知レヌ、併ナガラ一度之ヲ實行シタラバ如何デアル、免ニ角二千万ノ民衆ヲ有シテ居ル朝鮮國ノ併合ヲシテ一兵ニ劍ラズ、砲火ヲ發スルコトナクシテ、此併合ヲ實行シタニ於テハ、百五十万圓ノ犠牲ハ決シテ高イカモ知レヌ、多額ト云ヘバ多額ト言ハレルカモ知レヌ、併ナガラ一度之ヲ實行シタラバ如何デアル、又或ル論者ハ此ノ如キ剩餘金支出ヲ爲シ績ケテ若シ剩餘金が無クナリシキハ如何スルト立派ナ難問ヲ出サレタヤウデアルガ、國家ニ剩餘金ノ無イト云フコトハ決シテナシノデアッテ、即チ其年ノ豫算ト云フモノガアッテ、其殘テ居ルモノハ總テ剩餘金ト

云フ範圍ニ於テ之ヲ見ルハ決シテ爲シ得ラレナイコトナインデアル、況ヤ吾ミハ他ノ外國ノ例證等ニ付テ見マシテモ、何レノ國デモ今日ニ於テ爲政者ニ向ッテ其國家ノ急務ニ屬スル支出ト云フモノヲ許サナイモノデハナイ、日本ノ如キ窮屈ナル憲法ト云フモノハ僅ニ一國位シカ今日ハナイ、何レノ國デモ此支出ト云フモノハ相當ナル途ヲ開イテ居ルコトニアレバ我邦ノ今日此立憲ノ——憲法運用ノ進ムニ致シマシテハ此不足ヲ補フノトキハ蓋シ近キニアルグラウト信シマスケレドモ、今日ノ場合ハ何人が爲政者ニナルト雖モ、現状ニ於テ此運用微リセバ政務ヲ執ルコトハ出來ナイノデアツテ、即チ加藤サンガ先キニモ申シタ通り豫備金ノ如キ——三百万圓ノ豫備金デ五億——幾億圓ノ歳出ヲ處理シテ往クニ至リマシテハ、實ニ其權衡ヲ失シテ居ルモノデアルが故ニ、此場合ニ於テハ此豫備金ノ不足ヲ補フタメニ宜シク責任支出ノ先例ヲ開イテ、サウシテ政府者ヲシテ十分責任ヲ持タシテ、此問題ヲ解決スルが相當ト信シマシテ、吾々ハ此承諾案ニ賛成スル者アリマス（拍手スル者アリ）

○議長(大岡育造君) 卜部喜太郎君

ト部喜太郎君 諸君、豫備金以外ニ國庫剰餘金ヲ支出シテ居ルト云フ 事柄ガ憲法竝ニ會計法ノ明文ニ據テ居ラナイト云フニ付テハ反對論者モ少シモ異論ノナイトヨロアリマス、吾ミノ希望致シマスルトコロハ國家ノ政務ヲ運用スル上ニ於テ必要ナル經費ノ支出ヲ拒ムモノデハナイノデアリマス、必要ナル場合ニ於テハ幾ラ支出シテモ宜イノアリマスルガ、憲法政治ノ下ニ在リテハドウゾ此憲法竝ニ法律ノ規定ノ範圍内ニ於テ適法ナル國費ノ支出ヲシタイト云フノガ、吾ミノ希望テアリマス、反對論者ノ齋藤君ノ御論ヲ聽キマスルト憲法ハ甚ダ窮窟ニアッテ、如何ニモ國家ノ必要ニ應ズルコトノ出來ナリ我憲法ノ規定ト云フモノハ決シテソンナ窮窟ノモノデハナイノデアリマス、緊急必要ノ經費ヲ支出スル途ニ於キマシテ立派ナル規定が存シテ居ルノデアリマス、唯之ヲ用ユルモノガ亂暴ニモ憲法ノ規定ト云フモノヲ無視シテ其規定ニ從ハナイ結果、遂ニ二十有餘年ノ間今日ノ如キ惡習慣ト云フモノヲ襲踏シ來タト云フコトニナルノデアリマス反對論者ハ憲法違反デアルト云フ論ニ其點ニ付テハヤハリ同感デアル、然レドモ國家必要ノ經費ヲ支出スル場合ニ於テハ所謂責任支出ト云フモノヲ認メナケレバナラヌノデアルト云フニ付テアリマスケレドモ、憲法ノ七十條ニハ反對論者ノ云ハル、ガ如キ場合ニ於テ政府ノ責任付テハ云フモ出スルコトノ出來ル規定ノ明文ガアルノデゴザイマス、若夫レ此明文ニ依シテモ尙且國家ノ必要ニ應ズルコトが出來ナイ場合ガアタナラバ、立派ニ臨時帝國議會ヲ開イテ議會ノ協賛ヲ受ケテ然ルベキコトデアルノデアリマス（「政府ノ見解ハソコデナイ」ト呼フ者アリ）政友會ノ人々ハ動モスルト此重大ナル問題ニ付テ希望ヲ述べ、或ハ警告ヲ加ヘルト

リマセヌカ、ソレ故ニ吾ニハデス、飽マテ憲法ノ明文會計法ノ明文ニ則リテ國家ノ必要ノ經費ヲ支出シテ往キタイ憲法ト云フモノハ飽マテ守リテ往キタイト云フ精神カラ此機會ニ於テ此事後承諾案ニ對シテ否認ナシテ、將來之ヲ改メルト云フ途ヲ開キタイト云ノガ吾々ノ希望ニアッテ、恐ク此希望ニ反対ノ諸君ト云フモノハ私ハ一人モナカラウ思フノデアリマス諸君、少シク問題ガ餘所ニ外レルノ感ナキニシモアラズデアリマスケレドモ、私ハ此近來議會ノ權能ト云フモノガ段々ニ縮小サレルヤウナ感シガアルノデアリマス、六億ニ近イトコロノ豫算ト云フモノハ年々歲々政府ノ希望通りニ殆ド僅ノ削減モナク通過シテ居ルノデアリマス、又政府ノ希望通りニイロ／＼ノ豫備費ナドモ設ケテ居ルノデアリマス、此豫算ヲ使用シタ其決算ニ付テハドウ云フ態度ヲ取シテ居ルカト申シマスト云ブト、會計検査院ノ審査ニ附セラレテ本院ニ提出サレタトコロノ、此決算ノ結果ニ依リマスト、年々歲々不法違法ノ此支出ト云フモノガ澤山ニアルノデアリマス、アルケレドモ其度毎ニ將來ニ向シテ警告ヲ與ヘルト云フ 意味ニ於テ常ニ之ヲ承認シテ居ルノデアリマス、豫算ニ於テハ政府ノ註文通りニ悉ク之ヲ認メ、決算ニ於テモ多クハ單ニ將來ヲ警告スルト云フ意味ニ於テ常ニ違法不當ノ支出ト云フモノヲ看過シ來シテ居ルノデアリマス、斯様ニ議會ハ常ニ政府ニ向シテ警告ヲ與ヘルト云フ 意味ニ於テ常ニ之ヲ承認シテ居ルノデアリマス、國庫剩餘金ト云フモノヲ無暗ニ擗出シテ其擗出シタ結果ハ憲法ノ第何條ニ據ルノデアルカ、會計法第何條ニ據ルノデアルカト云フコトヲ尋ネレバ、明カニ之ニ答フルコトヲシナインオニアリマス、又顧ミテ此立法ノ方面ヲ見マスルト新ニ臺灣ハ日本ノ領土ニ加ヘリ新ニ朝鮮ハ日本ニ合併サレタト云フヤウナ場合ニ於キマシテモ、帝國議會ガ立派ニ持シテ居ル立法權ト云フモノハ所謂委任立法ノ形式ニ依リテ臺灣總督若クハ朝鮮總督ノ手ニ移サレテ居ルノデアリマス、法律ヲ作ルノ權能ハ行政官ニ悉ク之ヲ委任ヲシ、決算ニ付テハ不法、不當ノ支出ト云フモノヲ咎ムルナクシテ、單ニ將來ヲ警告スルト云フヤウナ方法ヲ以テ之ヲ承認シ、國費ノ濫費ト云フコトニ付テハ憲法違反ノ行爲マテモ之ヲ看過スルコトニナリマスレバ、國運ハ益々進暢シテ、領土モ擴張シ、誠ニ立派ニ國ハ進シテ參リマスケレドモ、吾ニ議會ノ權能ト云フモノハ一年ヲ經る毎ニ段々小サクナツテ來ル、議會ノ權利ト云フモノハ日ニ消滅シ去ルモノアリト云フコトニ付テハ憲法違法ノ行爲マテモ之ヲ看過スルコトニデアリマス、ソレ故ニ私ハ今日ノ場合ニ於キマシテハドウカ一ハ憲法政治ノ常道ニ立復シテ、憲法ト云フモノヲ十分ニ擁護シテ往クトコロノ途ヲ立テタイト云フ希望カラ本案ニ承諾ヲ與フベカラズト云フ意見ヲ述ベル次第アリマス、若夫レ唯今ノ問題ト云フモノハ政友會ノ内閣ノ時代ニヤツタコトデハゴザイマセヌカラシテ、即チ既往ノコトハ今之ヲ咎メ立テヲスルト云ウテモ、責任ノ歸スルトコロト云フモノガナイモノアルカラ已ムヲ得ストシマシテモ、將來然ラバ今ノ政府ト云フモノガ斯ウ云フヤウナ違法ノ支出、違憲ノ支出ハ一切ナラスト云フ覺悟デアルト云フナラバ、又考ヘヤウモアルノデアリマスケレドモ、此點ニ付テ大藏大臣等ニ段々ノ質問ヲ加ヘマシタケレドモ、將來トテモドウモ如何トモシ難イノデアル、先刻本員ノ質問ニ對シテモ大藏大臣ハ成ベク斯様ナ處置ヲ執ルコトハ避ケヤウトスルケレドモ、万已ムヲ得ザル場合ニハ又如何ナル處置ラナスカモ知レヌ、マダ追々此ノ如キ處置ヲ繼續シテ行カナケレバナラヌカノ如キ答辯ガアツタノデアリマス、斯様ニ今ノ政府ノ態度が曖昧デアッテ、ヤハリ惡習慣ラ益々繼續シテ行カウト云フヤウナ、政府ニ所存ノアルノヲ

吾々が認メタル今日ニ於テハ益々此惡慣例ヲ一時ニ打破シテ、新局面ニ向ツテ此途ヲ開イテ行ク必要ト云フモノハ、目前ニ迫ツテ居ルコトナハイカト思ハレルノアリマス、私ハ豫言ヲ致シマスルガ、齋藤君ノ如キ御希望ヲ以テ本案ヲ可決致シマンシタコロデ、來年度ニ至ツテモ又候同一ノ論争ヲ此壇上ニ於テ續ケナケレバナラヌト云フヤウナ、誠ニ悲ムベキ運命ニ諸君ハ陷ルデアラウト云フコトヲ私ハ思フノアリマス、ソレ故ニ將來ノコトヲ慮リ、詰リ此際斷然タル處置ヲシテ、憲法ヲ守ルト云フコトガ目今テノ急務デアルガ故ニ、斷ジテ國庫剩餘金ノ支出ニ付テ承諾ヲ與フベカラズト云フ意見ヲ持ツ者デアリマス

○議長(大岡育造君) 松田源治君

〔松田源治君登壇〕

○松田源治君 本員ハ委員長ノ報告ニ賛成スル一人ニアリマス、本問題ハ第三期ノ帝國議會ヨリ現ハレテ、今日マテ繼續シテ居ル問題ニアリマス、吾々ハ豫備金以外ノ支出ハ憲法ニ認メザル行爲デアル、因ツテ政府ハ責任ヲ以テ憲法ニ認メナイトコロノ行爲ヲ爲シタモノデアルカラ、後日責任解除ノタメ帝國議會ニ提出シテ其承諾ヲ求ムルモノデアルト云フ解釋ヲ採ルノゴザイマス、此問題ニ付キマシテハ第二期以來問題ニハナツテ居リマスケレドモ、第十回ノ帝國議會ニ於テ殆ド解決サレテ居ルノゴザイマス、私ハ是ヨリ簡單ニ此問題ヲ諸君ニ訴ヘマシテ、本問題ヲ解決スル御参考ニ供シテ見タイト思フノニアリマス、ソレハ第二期議會ニ於テ初メテ起リマシタ、第三議會ニ於キマシテハ委員會ハ如何ナル意見ヲ以テ憲法違反ナリトシタコト云フコトハ、是ハ菅原委員長モ述ベラレタ通り、六十四條ノ一項ト、六十九條ハ關聯セル條文デアシテ、六十四條ノ二項ハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求メヨト云フコトバカリ書イテアル、六十九條ニ於テハ其財源ヲ規定シテアルノデアルカラ、豫備金以外ノ支出ハ憲法違反ナリト云フコトガ委員會ヲ通過致シテ居ルノアリマス、然ルニ本會議ニ於キマシテハ憲法違反ニアラズト云フ決定ヲ第二帝國議會ニ於テ結果ヲ付ケテ居ルノゴザイマス、ソレカラ第四及第六回ノ帝國議會ニ於キマシテハ、憲法違反トシテ不承諾ニナツテ居リマス、而シテ第六帝國議會ニ於テハ別ニ決議案ヲ提出シマシテ、剩餘金ノ支出ハ憲法違反ナリト云フ決議ヲ致シテ居リマス、ソレカラ第九議會ニ於テハ少々此論點が變ツテ來マシタ、如何ナル理由ニ依テ帝國議會ハ豫備以外ノ剩餘金ノ支出ヲ承諾シタカ、ドウモ不明デアリマスケレドモ、其時ノ委員會ニ於キマシテ委員一人ガ政府委員ニ質問ヲ致シテ居ル、ドウ云フ質問ヲ致シテ居ルカト申シマスレバ、政府ハ剩餘金ヲ支出シタルハ憲法ノ箇條ニ依リテ帝國議會ハ豫備以外ノ剩餘金ノ支出ヲ承諾シタカ、ドウモ不明デアリマスケレドモ、其時ノ委員一人ノ解説ノ通リ憲法上ニナイケレドモ、國家ノ發展上爲サセルヲ得ナリテモ若シ憲法第何條ニ依ツテ支出シタルヤノ質問アリトセハ已ムヲ得ズ六十四條第二項ニ依ツテ支出シタリト云フ答辯ヲ爲シタ、即チ強テ固執スルノテナイ憲法ガ認メテ居ナシタリト云フニアラズシテ、國家ノ發展上爲サセルモナリヨリ責任ヲ帶びテ之ヲ爲シタリト云フニアルカトノ質問ニ對シテ、政府ハ大體ニ於テハ委員ノ意見ノ如シ、然カラ責任ヲ以テ支出シタルモノアリト云フコトヲ第九回ノ帝國議會ニ於テ答ヘテ居ル、松限内閣デアル、是ハ明瞭ニナツタ、此内閣ハ何レノ内閣アリマスカト云フト、松方正義伯總理大臣ト爲シ、進歩黨ノ大隈重信君ヲ外務大臣ト爲シタル、世ノ所謂

マスレバ、政府委員ハ政府ヲ代表シテ政府ニ於テハ憲法第六十四條ニ依ルノ意見ヲ固持スルモノニアラズ、要スルニ必要避クベカラザル費用ナルガ故ニ、責任ヲ以テ財政上ノ處分ヲ爲シタルモノナリト書イテアル、是ニ於テ憲法ノ解釋ハ一決シタ、松隈内閣ニ於テ憲法ノ六十四條ノ一項ニ依ツテモナデハナイ、即チ責任ヲ以テ財政上ノ處分ヲ爲シタリト云フコトヲ決定シテ、而シテ事後承諾ヲ責任解除ノ意味ヲ以テ求メテ居ルト云フコトハ、第十帝國議會ニ於テ政府委員ノ答辯ニ依ツテ明カニナシテ居ル、其後ノ議會ニ於キマシテハ此慣例ヲ「慣例ハ憲法ヲ破ル能ハズ」ト呼フ者アリ)私ハ憲法ノ條文ヲ言フノデハナイ、憲法法理論トシテ此解釋ヲ政府ガ執ツテ居ルノアリ、而シテ第十二帝國議會ヨリ今日マテ此松隈内閣ノ慣例ヲ採ル内閣モアリ、採ラザル内閣モアリシテ、免モ角モ不文ノ法典、不文ノ慣例トシテ、政府ハ剩餘金ノ支出ヲ責任ヲ以テヤツタモノデアル、而シテ責任解除ノ意味ニ於テ帝國議會ニ提出スルト云フコトハ殆ド曾テ動カスベカラザル論理ニナツテ居ルノデアル(「ソレヲ破ルガ吾ニデアル」ト呼フ者アリ)黙ッテ御聽キナサイ、事實ハ此通りデアル、是が宜イ、即チ諸外國ニ於キマシテモ憲法八條ノ緊急勅令即チ法律ニ代ルベキ勅令ヲ認メテナイトコロノ國ガアル、佛蘭西ノ如キ其他ノ國デアル、其時分ハ國家ノ進運上法律ニ代ルベキ勅令ヲ發シナケレバ國家ノ進運ヲ阻礙スルガ故ニ、爲政者ハ責任ヲ以テ憲法ニ違反スルノ行爲ヲナシ憲法ニ認メザル行爲ヲナシテ、他日國家ニ責任解除ノ意味ヲ以テ其勅令案ヲ提出致シテ居ルト云フコトハ、是ハ歐米等ニ於テモ澤山アル、即チ財政上ニ於テモ豫備金ヲ使シマッテ國家ノ進運上金ノ支出が要ル、國家ノ發展上國家ノ進運ヲ阻礙スルコトハ出來ナイ、爲政者ハ行政ノ運轉ヲ阻害スルコトが出來ナイ、故ニ責任ヲ以テ憲法ニ依ラズ即チ憲法ニ認メザル行為ヲ責任ヲ以テ後日帝國議會ニ責任解除ノタメニ提出スルト云フコトハ、憲法政治論トシテ即チ立憲政治運用ノ妙ナリト私ハ申スノアリマス(「政府モ議會モ憲法ヲ破ル能ハズ」又「序ニ豫算廢止論ヲヤリ給へト呼フ者アリ)即チ本件ハ本員等ハ今日マテ議會ノ採り來レル慣例ニ依リ政府ハ――(「慣例ハ憲法ヲ破ル能ハズ」ト呼フ者アリ)責任ヲ以テ憲法ニ認メザル行爲ヲ爲シ、而シテ帝國議會ニ豫算協賛權ヲ侵シタルガ故ニ、次ノ議會、其次ノ議會ニ於テ、責任解除ヲ求ム意味ヲ以テ、本案ヲ提出シタル理由三基テ其支出如何ヲ論セズ、事實が適當ナラバ適當ト承諾シ、事實が不適當ナラバ即チ之ニ不承諾ヲ與ヘル、即チ適當ナル憲法論ト、憲法ノ明文論以外ニ政府ノ責任ヲ以テナシタル行爲ヲ認メテ、而シテ其事實ニ於テ決定スルト云フコトハ最モ當フ得タルモノト本員ハ考ヘルノアリマス、「事實ハ憲法ヲ蹂躪スル能ハズ」ト呼フ者アリ)之ヲ要スルニ此處デ再ヒ明言シテ置キマス、要スルニ今日マテノ慣例ニ依ツテ責任ヲ以テ爲政者ガ國家ノ進運ヲ阻止スルコトヲ得ズ、剩餘金ヲ支出シタルモノアリマス、而シテ次ノ當ナリト認メマシタカラ、是ニ承諾ヲ與フルコトハ當然ナリト思フノアリマス、而シテ次ノ議會ニ提出スルト云フ希望ハ憲法ノ第七十條ニ據リマシテモ、憲法ノ認メテ居ル行爲協賛權ヲ害シタル理由ニ依リ、豫備金以外支出ナル本問題ヲ帝國議會ノ承諾ヲ求ムルタメニ提出シタルモノト、吾々ハ考慮致シマシテ、而シテ本案ニ向ツテ事實ヲ審査シテ適當ナリト認メマシタカラ、是ニ承諾ヲ與フルコトハ當然ナリト思フノアリマス、而シテ次ノ議會ニ提出スルト云フ希望ハ憲法ノ第七十條ニ據リマシテモ、憲法ノ認メテ居ル行爲ニ付テモ、其提出ヲ憲法ハ要求シテ居ルノアリマスカラシテ、本件ノ如キ憲法ニ認メザ

ラ、此點ニ於テ政府ニ希望ヲ述ベマシテ本案ハ事實ニ依ツテ決定スル、事實が適當デアレバニラ承諾スルが當然ナリト考ヘマスカラシテ、本員ハ事實ニ依ツテ之ヲ承認シタイト云フ考テアリマズ

〔「採決々々」ト呼フ者アリ〕

○議長（大岡育造君） 採決ヲシマス、明治四十二年度豫備金支出外三件ノ決ヲ採リマス、委員長ノ報告ニ賛成ノ諸君ハ起立ヲ求メマス

起立者 多數

○議長（大岡育造君） 多數、豫備金支出外三件共ニ可決致シマシタ、日程第十  
一、民事上告豫納金手續廢止法律案

○恆松隆慶君 第十ガゴザイマス

○議長（大岡育造君） 第十八延期ヲ申込マレテアリマス

○恆松隆慶君 延期ヲサレルコトヲ御報告下サラナケレバナラヌ、提出者カラ延期スルナラ承諾シマス

○議長（大岡育造君） 御詰リラシマス第十八延期ノ申込ガアリマスガ、之ヲ許可シテ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（大岡育造君） 御異議ガナケレバ許可スルコトニ致シマス、改メテ日程第十  
一、民事上告豫納金手續廢止法律案第一讀會ヲ開キマス、富島暢夫君

第十一 民事上告豫納金手續廢止法律案（富島暢夫 第一讀會  
君外一名提出）

民事上告豫納金手續廢止法律案

明治十年二月布告第十九號民事上告豫納金手續ハ之ヲ廢止ス  
(富島暢夫君登壇)

○富島暢夫君 私ノ此處ニ提出致シマシタ、法律案ハ民事上告豫納金ヲ廢止シタイ  
ト云フ案デゴザイマシテ、理由ハ至ツテ簡單ナノデゴザイマス、民事訴訟ニ付ギマシテ一二  
審ノ事實裁判ヲ經マシテ第二審ノ上告ヲ爲ス場合二十圓ノ保證金ヲ納メルト云フコト

ニナッテ居リマス、而シテ此十圓ノ保證金ハ上告ノ趣意ガ立チマシタトキニハ納メタ人ニ  
返シテ吳レマスケレドモ、其趣意ノ立タナイトキニハ沒收ラスルコトニナッテ居ル、是ハ畢竟

濫訴ヲ防グト云フ目的カラ出テ居ル法律ト思ヒマスケレドモ、人智ノ進ミマシタル今日ニ  
於キマシテハ、吾ミハ十分此訴訟ニ付キマシテ利害關係ヲ研究スル能力ヲ持ツテ居リマス

ルカラシテ、今日デハ此濫訴ノ弊害ハナイ苦デアルト考ヘマスノミナリマセズ、大ナル事件ニ  
於キマシテハ僅三十圓位デ訴訟ヲ止メルモノデナイ、然ルニ小サナル事件ニ至リマスト

云フト、殊ニ貧困者ノ訴訟ヲ爲ス場合ニ於キマシテ此十圓ト云フモノが非常ニ妨ラ致ス

ノデアリマス、此點ニ於キマシテ是ハ吾ミノ出訴ノ自由ノ權利ヲ妨ゲルト云フコトニナルト  
思ヒマス、ソレデ是ハ今日デハ有害無益ノ法律デアルト考ヘルノデ、此法律ハ三十五年

前ノ舊思想ニ基イテ、出來ア居ル法律デゴザイマシテ、智識ニハ適合シナイ法律デアルト

考ヘルノデ、ソレデ此案ヲ出シマシタ譯デゴザイマス、御賛成ヲ願ヒタク終リニ一言致シタ

イノハ此法律ヲ廢シマスト云フト、國庫ノ收入ヲ幾分減ズルト云フコトニナルノデアリマ  
スケレドモ、此法律が徵稅主義デ存在セシメナケレバナラヌト云フコトニナリマスレバ、益  
非理ナル法律デアルト考ヘルノデアリマス、何トナレバ吾ミハ訴訟ヲ爲シマスニ付キマシテ、  
印紙法ニ依ツテ相當ノ印紙ヲ納メテ居リマス、然ルニ此保證金ヲ積マセテ之ヲ沒收スル  
ト云フコトニナリマスト、罰金ヲ食ハスヤウナ譯ニナッテ居リマス、ソレデ益、非理ナ法律ア  
リマスカラシテ、本案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、御賛成ヲ願ヒマス

〔「採決々々」ト呼フ者アリ〕

（政府委員法學博士齋藤十一郎君登壇）

○政府委員（法學博士齋藤十一郎君） 極ク簡單ニ政府ノ意向ヲ此際申シマス、此  
案ニ付キマシテハ現行ノ裁判所ノ組織ノ上カラト、ソレカラ經費ノ點カラト此一點カラ  
致シマシテ、多年政府ハ此案ニハ反對ヲ致シテ參ツタノデアリマス、然ルトコロ此度行政  
整理ノ計畫が政府ニゴザイマスコトハ御承知ノ通り、而シテ其整理ノ範圍ハ申スマテモ  
ナク此裁判所ノ構成ノ上ニモ及ブ見込デアリマス、就キマシテハ政府ニ於キマシテモ多年  
當院ノ御意見ヲ尊重致シマシテ、是ハ整理ノ一ノ問題ト致ス計畫ニナッテ居ルノデアリ  
マス、此際ニ本年直ニ此案ヲ御決定ニ相成リマシテ實行ヲセラレマシテハ政府ハ實ハ誠  
ニ困難ヲ致ス次第デアリマス、是ダケノコトヲ申上ゲテ置キマス

○恆松隆慶君 今政府委員ノ明瞭ナ答辯ガゴザイマシタ、テ提出者ノ御考ヲ伺ハウト  
ニ議長（大岡育造君） 決ヲ採リマス、本案ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

○恆松隆慶君 今政府委員ノ明瞭ナ答辯ガゴザイマシタ、テ提出者ノ御考ヲ伺ハウト  
ニ思ヒマシタガ、提出者が何トモ申シマセヌカラ此場合はハ免ニ角九名ノ委員ヲ議長ヨリ  
指名アランコトヲ願ヒマス

〔「賛成々々」ト呼フ者アリ〕

○議長（大岡育造君） 恒松君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ

〔「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（大岡育造君） 御異議ガナケレバ本案ハ議長指名九名ノ委員ニ附託スルコト  
ニ決シマシタ、日程第十一、新聞紙法中改正法律案、委員長松田源治君

第十一 新聞紙法中改正法律案（松田源治 第一讀會  
君外五名提出）

〔松田源治君登壇〕

○松田源治君 新聞紙法中改正法律案ノ委員會ノ經過並ニ結果ヲ報告シマス、新  
聞紙法案ハ一回委員會ヲ開キマシテ慎重ナル調査ヲ遂ゲマシテ「第十七條第一項中  
「全文」ヲ「要旨」ニ改メ第二項ヲ削ル」此改正ニ付キマシテハ、現行法ノ方ガ適當デアルト  
云フ理由デ十七條ノ改正ハ削除シテ現行法通リニスルト云フ修正ノ意見が出シマシタ、ソ  
レハ本案ハ正誤文ヲ新聞紙ニ出シタル時分ニ、全文ヲ載セビシテ要旨ノミヲ載セテ、而  
シテ正誤文ノ活字ハ新聞ニ記載シタルトコロノ活字ト同一デナケレバナラヌト云フ現行  
法ノ規定デアリマシタガ、之ヲ「全文」ヲ「要旨」ニ改メルト云フコトニナリマスルト、正誤文  
ノ正誤者ニ重要ナリト認メタルトコロヲ、新聞社デ之ヲ掲載セゼシテ、自由ニ其部分ダケ  
ヲ削除スルコトが出來ルカラ、正誤者ノ意見ヲ新聞紙ニ掲載シテ正誤ヲナストコロノ目  
的ヲ達シナリカラ、是ハヤハリ要旨ト云フコトハイカナイ、全文ヲ掲載スルト云フ現行法  
通リガ至當デアル、第二項ヲ削ルト云フノハ正誤文ヲ出シタル活字ハ以前新聞ニ出シタル

活字ヨリモ小サイ活字ヲ使ツテ正誤ノ目的ヲ達シナイト云フコトニナツテハ甚ダ遺憾デアリマスカラ、第十七條ノ改正ハ現行法ヲ相當ト認メマシテ修正通りニ可決致シマシタ、其他ハ第九條ノ第一號ヲ削ル、ソレカラ第十九條ノ改正及第四十三條ノ「乃至」ヲ削ルト云フコトハ、全會一致ヲ以テ可決致シマシタ、此新聞紙法案ハ申スマテモナク憲法ノ認メテ居ルトコロノ言論ノ自由ヲ當該官憲ガ干涉スベキ範圍ヲ定メタノアリマス、因テ十九條ノ如キハ、今日檢事が新聞紙ノ記事ヲ差止メルケレドモ、是ハ獨立セザル行政官ニ此差止權ヲ與ヘルト云フコトハ言論尊重ノ意味カラシテ不適當デアル、因テ檢事ノ差止權ハ之ヲ奪ッタ方が宜イ、又四十三條ノ「乃至」ト云フコトヲ削ツタノハ、安寧秩序ヲ系シ、風俗ヲ壞亂スベキトコロノ行爲ヲ爲シタル新聞ニ向ツテハ、其掲載シタルトコロノ新聞紙ノ發賣ヲ禁止シ、又差押ヘルコトモ出來ルノデアル、其後ニハ同趣意ノ言論ハ次回以後ノ新聞紙ニ掲載シタル時分ニハ差止メルコトモ出來ル、併セテ嚴重ナル制裁ヲモ加ヘルコトが出來ルノデアルカラ、是ハ發行禁止權ヲ官廳ニ認メナイ方ガ言論尊重ノ意味ニ適スルノデアラウカラ、是ハ「乃至」ト云フ字ヲ削ツタガ相當デアルト云フコトデゴザイマスル、是が委員會ノ經過並ニ結果ニアリマス、ドウカ滿場一致ヲ以テ本案ニ賛成アランコトヲ希望致シマス

○議長（大岡育造君） 村松恆一郎君登壇

（拍手起立）

○村松恆一郎君 議長（笑聲起立）唯今委員長ヨリ御報告ニナリマシタ新聞紙法ノ改正案ハ、本員ニ於テモ無論賛成ニアリマス、而シテ是ハ委員會ニ於テモ滿場一致ヲ以テ通過ラ致シ、又本案ノ提出者モ賛成者モ殆ト此衆議院ノ大多數ニアリマスカラ此場合ニ於テ別ニ賛成ノ意見ヲ述ベル必要ハナインデアリマス、併ナガラ委員會ニ於テハ數回政府委員ニ向ツテ政府ノ意見ヲ尋ねマスルト、政府ハ全然是ニ不異意デアルト云フコトヲ表明シテ居ルノデアリマス、故ニ若シ此案が本院ヲ通過致シマシナモ、貴族院ニ於テハ必ズ政府委員ハ不同意ヲ唱ヘラレルニ違ヒナインデアル、而シテ此場合ニ於テ一方ノ此衆議院ノ側ハ何等ノ意見ヲモ吐クコトが出來ヌノデアル、ツマリ貴族院ニ於テハ缺席裁判ヲ受ケルト云フ形ニナルノデアル、故ニ此場合ニ於テ、何故ニ此改正が必要アルカト云フコトヲ述べテ置クコトハ、遙三貴族院ニ對シテ参考ノ材料トナルモノアラウト思フノテアル、而シテ此事ハ單ニ此新聞社ノ利害ノミニ關スル問題デハナインデアリマス、總テノ社會上ノ問題デアルノデアリマス、此事ハ新聞事業ニ關係ノ無イ御方ハ、餘り重大ト御考ヘニナラヌカモ知レマセヌケレドモ、極メテ是ハ總テノ方面ニ關係ノアル事柄デアルノデス、既ニ提出者モ述ベラレタ如ク、今日ニ於テ之ヲ改正スルト云フコトハ或ハ一方ニ於テ輕率ナリト云フ譏リガアルカモ知レスノデアリマスケレドモ、此實施ノ經驗上は是非トモ是ハ此席ニ於テ述べ置カケレバナラヌ必要ガアルノデス、（簡単ト呼フ者アリ）元來此現行法ト云フモノハ明治四十一年ニ實施ヲセラレマシテ、マダ僅ニ二年カ三年ノ經過ラシテ居ルダケナノデ、遙三テ考ヘレバ直ゲ分ル、抑、此四十一年、即チ第二十五議會ニ於テ本員等ガ此現行法ノ改正案ヲ提出致シタル趣旨ハ、何デアルカト申シマスレバ、舊新聞紙條例ニ於テ豫審ニ關スル事項ハ悉ク掲載ラズサナイ、豫審ニ關スル事柄ニアツタナラバ、何事モ一度新開紙ニ現シタルナラバ、悉ク之ヲ告發ラ致シテ、是ニ體刑若クハ金刑ヲ科シタノデアリマ

テ、現ニ是ガタメニ其當時東京ノ新聞社ダケモ十四社モ告發ラサレテ、ソレハ體刑若クハ罰金刑ヲ受ケタ云フヤウナ譯ア、新聞社ハ殆ド安シテ筆ヲ執ルコトが出來ナリ、營業ヲスルコトが出來ナイト云フ立場ニアツタノデアリマス、是故ニ本員等ハ其當時舊新聞紙條例ノ改正案ヲ提出致シテ、サウシテ此豫審ニ關スル事項云々ト云フコトヲ全部削除スルト云フコトヲ目的トシテ改正案ヲ提出シタノデアツタノデス、ソレニ續イテハヤカリ、因テ檢事ノ差止權ハ之ヲ奪ッタ方が宜イ、又四十三條ノ「乃至」ト云フコトヲ削ツタノハ、安寧秩序ヲ系シ、風俗ヲ壞亂スベキトコロノ行爲ヲ爲シタル新聞ニ向ツテハ、其掲載シタルトコロノ新聞紙ノ發賣ヲ禁止シ、又差押ヘルコトモ出來ルノデアル、其後ニハ同趣意ノ言論ハ次回以後ノ新聞紙ニ掲載シタル時分ニハ差止メルコトモ出來ル、併セテ嚴重ナル制裁ヲモ加ヘルコトが出來ルノデアルカラ、是ハ發行禁止權ヲ官廳ニ認メナイ方ガ言論尊重ノ意味ニ適スルノデアラウカラ、是ハ「乃至」ト云フ字ヲ削ツタガ相當デアルト云フコトデゴザイマスル、是が委員會ノ經過並ニ結果ニアリマス、ドウカ滿場一致ヲ以テ本案ニ賛成アランコトヲ希望致シマス

（賛成タキト呼フ者アリ）

○議長（大岡育造君） 村松恆一郎君登壇

（拍手起立）

○村松恆一郎君 議長（笑聲起立）唯今委員長ヨリ御報告ニナリマシタ新聞紙法ノ改正案ハ、本員ニ於テモ無論賛成ニアリマス、而シテ是ハ委員會ニ於テモ滿場一致ヲ以テ通過ラ致シ、又本案ノ提出者モ賛成者モ殆ト此衆議院ノ大多數ニアリマスカラ此場合ニ於テ別ニ賛成ノ意見ヲ述ベル必要ハナインデアリマス、併ナガラ委員會ニ於テハ數回政府委員ニ向ツテ政府ノ意見ヲ尋ねマスルト、政府ハ全然是ニ不異意デアルト云フコトヲ表明シテ居ルノデアリマス、故ニ若シ此案が本院ヲ通過致シマシナモ、貴族院ニ於テハ必ズ政府委員ハ不同意ヲ唱ヘラレルニ違ヒナインデアル、而シテ此場合ニ於テ一方ノ此衆議院ノ側ハ何等ノ意見ヲモ吐クコトが出來ヌノデアル、ツマリ貴族院ニ於テハ缺席裁判ヲ受ケルト云フ形ニナルノデアル、故ニ此場合ニ於テ、何故ニ此改正が必要アルカト云フコトヲ述べテ置クコトハ、遙三貴族院ニ對シテ参考ノ材料トナルモノアラウト思フノテアル、而シテ此事ハ單ニ此新聞社ノ利害ノミニ關スル問題デハナインデアリマス、總テノ社會上ノ問題デアルノデアリマス、此事ハ新聞事業ニ關係ノ無イ御方ハ、餘り重大ト御考ヘニナラヌカモ知レマセヌケレドモ、極メテ是ハ總テノ方面ニ關係ノアル事柄デアルノデス、既ニ提出者モ述ベラレタ如ク、今日ニ於テ之ヲ改正スルト云フコトハ或ハ一方ニ於テ輕率ナリト云フ譏リガアルカモ知レスノデアリマスケレドモ、此實施ノ經驗上は是非トモ是ハ此席ニ於テ述べ置カケレバナラヌ必要ガアルノデス、（簡単ト呼フ者アリ）元來此現行法ト云フモノハ明治四十一年ニ實施ヲセラレマシテ、マダ僅ニ二年カ三年ノ經過ラシテ居ルダケナノデ、遙三テ考ヘレバ直ゲ分ル、抑、此四十一年、即チ第二十五議會ニ於テ本員等ガ此現行法ノ改正案ヲ提出致シタル趣旨ハ、何デアルカト申シマスレバ、舊新聞紙條例ニ於テ豫審ニ關スル事項ハ悉ク掲載ラズサナイ、豫審ニ關スル事柄ニアツタナラバ、何事モ一度新開紙ニ現シタルナラバ、悉ク之ヲ告發ラ致シテ、是ニ體刑若クハ金刑ヲ科シタノデアリマスル理由アル、是ガ即チ本員ノ十九條ノ改正案ヲ賛成スル理由アル、又



若クハ不作ノ場合ヲ平均シタモノデアル、ソレ故ニ災害ノ場合ニ於テ之ヲ免除スルト云  
フコトハ其原則トシテ爲スヘキコトナイト云フコトガ重ナル理由ノヤウニ開エテ居ル、併シ  
嘗テ明治六年ニ地租改正ヲ爲シタキニ於テ所謂皆無作マデハ見テ居ヌノニアリマス、如何ナル場合ニ免除スルカト云フト所謂皆無作ノ場合ニ免除スルノニアリマス、今  
日國民ノ負擔が増シテ居ル、就中此農業ハ最モ利益ノ薄イモノト考ヘラル、時代ニ於  
テ、五分作以下ノ場合ニ於テハ租稅ヲ免除サレテモ、餘リ農民ハ喜バナイノニアリマス、  
況ヤ五分作ニアラズシテ皆無作ノ場合ニ於テ、始メテ之ヲ免除セラレルノニアリマス、殊  
ニ明治六年地租改正ノ場合ヨリハ農民ノ負擔ハ彌ガ上ニモ増シテ居ル、或ハ收穫物ノ  
價格騰貴シタリト云フコトヲ以テスル人ガアルカモ知レマセヌガ農業ニ要スルトヨロノ  
勞働ニ費サル、トヨロノ總ノ消費物ニ關スル租稅ト云フモノガ、非常ナ今日ハ負擔ニ  
ナツテ居ルノアル、是等ノ比較ノ上テ決シテ今日ノ農業ト云フモノガ明治六年ニ定メラ  
レタ地租改正ノ率ヲ以テ或ル場合ニ於ケル皆無作ヲモ見込ンテ地租ヲ定メタリト云フヨ  
トハ、決シテ今日ニ於テ之ヲ諾スルコトハ出來ナインニアリマス、此議論ヲ以テスレバ既ニ  
政府ガ免除セラレツ、アルトヨロノ水害ニ於ケル免除マデモ、ヤハリ租稅ノ原則ニ反スル  
コトニナルノニアリマス、一方ニ於テ水害ニ於テハ免租ヲシツ、地方ニ於テハ免租シナイ  
ト云フコトハ、ドウシテモ道理上、常識上、斯様ナ判決ヲ爲スコトハ出來ナイ、併ナガラ政  
府ハ此水害ニ於ケル免租スラモ實際今日ハ之ヲ嫌ウテ居ル、獨リ之ヲ嫌フノミナラズ嘗  
テハ二十六議會ニ此免租案ヲ變シテ延納案トセンガタメニ衆議院ニ提出サレタコトガア  
ルノニアリマス、當時議會ハ之ヲ更メテ即チ免租案ト爲シタ歴史ノアルノハ諸君ノ御承  
知ノコトデアリマス、然ルニ今日ノ農業ト云フモノハ一體ドンナ狀態ニ參ツテ居ルカト申シ  
マスルト云フト、我國ハ農業國ナルニモ拘ラズ、最モ今日我國ノ產業中利益少クシテ  
動モスレバ其事務ノ危險デアルト云フ傾キヲ認メラレツ、アルノニアリマス、何が危険ニア  
リマス、一年ノ間粒々辛苦所謂晨ニ星ヲ戴キ、夕ニ月ヲ踏シテ歸ル人々、一年ノ或ルト  
キニ天災若クハ其他ノ災害ニ遭フトキハ忽チ此一年ノ間ノ辛苦ト云フモノハ水  
泡ニ歸サネバナラヌノニアリマス、若シ此場合ニ於テ之ヲ救濟スルモノガナカッタナラバ、  
遂ニハ國民ハ農業ヲ厭フト云フ狀態ニナラストモ限ラヌノニアリマス、之ヲ救濟スレバ一  
方ニ於テハ農業ヲ獎勵スル意味ニモナリ、一方ニ於テハ農家ヲ慰安スル途ニモナルノニア  
リマス、殊ニ秋田山形ニ於ケル稻熱病ノ如キハ、肥料ヲ入レテ、而モ之ヲ耕育シタモノガ  
却テ此ノ如キ病熱ニ冒サレルト云フコトニ至ツクノアル、若シ斯ル場合ニ租稅ヲ免ゼザ  
ル、乃チ免租ト云フコトヲナサナイト云フコトニナシタラバ、由來農作物ヲ爲シ多クノ肥  
料ヲ使ヒ、多クノ耕耘ニ手數ヲ要スルト云フコトハ舉ゲテ之ヲ廢メルト云フ狀態ニナラヌ  
トモ限ラヌノニアリマス、租稅ノ性質ニ於テ水害ヲ免除シテ常識ノ判断ノ上カラ考テ見マ  
シテモ、他ノ災害ニ於テ之ヲ免除スルト云フコトハ頗ル是ハ至當ノ手段ナリト云フヲ憚ラヌ  
ノニアリマス、政府ハ歲入ノ缺陷ニ於テ之ヲ如何トモスルコトが出來ナイト云フコトハ、常  
ニ政府ノ言フトコロニアリマス、所ガ三十五年以後八年間ノ延納ノ統計ヲ調ヘテ見マス  
ト、一年僅ニ三万三千七百八十圓ト云フ平均が出ル、水害ノ方ハドウデアルカ  
ト云フト、三十三万圓ト云フ平均が出ルノニアリマス、冬キトコロニ二十二万圓ハ之ヲ  
免除スル、少ナキトコロニ三万三千七百八十圓ハ之ヲ免除スルコトノ出來ナイト云フコト  
ハ數字ノ上ニ於テモ是ハ言ヒ得ルコトナイト思ハナケレバナラヌノニアリマスカラ  
ト呼フ者アリ)斯様ナ計數ヲ得ルノニアリマス、測シテ四十四年ノ秋田、山形ノ稻熱病  
東京府ノ電告ニ對スル損害ヲ計算致シテ見マシテモ、僅ニ五万八千圓——延納ニ  
屬スルモノ、金額ハ五万八千圓、此外ニ現狀ノ尙被害ノ存スルモノニ於テ調査ラナシテ  
之ヲ増加シタリシテモ、幾許モ之ヲ増スコトハナインニアリマス、而モ斯ル少額ノ金額ニ  
於テ一方ニ農家ノ慰安ヲ與ヘ、一方ニ於テハ之ヲ以テノ獎勵策ト爲シ、產業ノ發展ニ

ニ利益ベルト思ヘバ、其金額ノ少ナキヨリ其利益ノ大ナルコトヲ考ヘテ見ナケレバナラヌノ  
ニアリマス、是ニ至シテ「簡單ニヤリ給ヘ、ナンボ見エナイカラト云フモ大慨議場ノ形勢  
ハ分リサウナモノダ」ト呼フ者アリ

○議長(大岡育造君) 静肅ニ願ヒマス

○高木正年君 殊ニ政友會ノ諸君ニ私ハ敬意ヲ拂フガ上ニ、特ニ注意ヲセネバナリ  
マセヌ、此災害免租案ハ所謂三派ノ合同ノ提出案ニナツテ居リマス、此免除ニナルトナ  
ラストハ一ニ政友會諸君ノ責任ニ歸スルノニアリマス、嘗テハ二十六議會ニ於テ政府が  
免租法案ヲ變シテ延納法案トナサントスルトキニ當ツテ、議會ハ之ヲ修正シテ「免租法案  
トナシタノニアリマス、官僚内閣ノトキニハ議會ノ多數が延納ヲ變シテ免租トシテ、國民  
ニ幾分ノ慰安ヲ與ヘントシタモノガ、今ハ政友會ヲ基礎トル内閣ノトキニ於テ、却ア官  
僚内閣ノ當時ニ於テ、政府ノ採ラントスルコロヲ學バ、ト云フニ至ツテハ、私共深ク  
政友會諸君ノタメニ惜マケレバナラヌノニアリマス(ヒヤー)願クハ此案ヲ賛成セラ  
レテ、將來ニ於ケル農業ノ發展ヲ益セラレントコトヲ深ク私ハ熱望スルノニアリマス(拍手  
起ル)

○恆松隆慶君 討論終結ノ動議ヲ提出致シマス

(「贊成々々」ト呼フ者アリ)

○議長(大岡育造君) 恒松隆慶君ノ討論終結ノ動議ニ贊成ガアリマスカ

○議長(大岡育造君) 「異議ナシ」大贊成「反對」ト呼フ者アリ  
○議長(大岡育造君) 多數ノ贊成ガアルト認メマス、討論終結ニ御異議ハアリマセヌ  
カ

(「ノウ」「贊成々々」ト呼フ者アリ)

○議長(大岡育造君) 御異議ガナイモノト認メマス  
○恆松隆慶君 本案ハ委員長報告通り一讀會ヲ開クベカラズト決セラレントコトヲ望ミ  
求メマス

(「少數ナリ」「多數」ト呼フ者アリ)

○議長(大岡育造君) 少數ナリ

(「多數々々」「少數」ト呼フ者アリ)

○議長(大岡育造君) 少數ナリ

(「少數ナリ」「多數」ト呼フ者アリ)

○議長(大岡育造君) 少數ナリ

(「少數ナリ」「少數」ト呼フ者アリ)

○議長(大岡育造君) 少數ナリ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(大岡育造君) 因テ否決トナリマシタ——此場合ニチヨット御諮詢リ申シマス、

會期モ切迫シテ參リマシタシ、明後日ハ祭日デモアリマスカラ明日ハ常例ノ日デハアリマ

セヌケレドモ、明日モ本會ヲ開ク積リデアリマスカラ……

(「贊成々々」ト呼フ者アリ)

○議長(大岡育造君) 御異議ガナケレバ其事ニ運ヒマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(大岡育造君) 從テ本日ハ是ニテ散會ヲ致シマス、委員ノ指名及日程ハ公